

EPSON

Endeavor AY301



ユーザーズマニュアル

Windows 7

ご使用の前に

- コンピューターをご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みの上、正しくお使いください。

情報マップ (知りたい情報はどこにある?)

本機に関する情報は、次の場所で見ることができます。

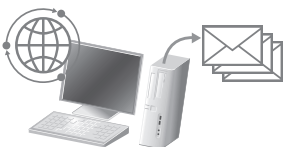

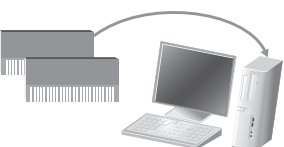


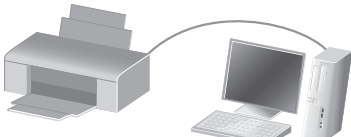
購入時

使いはじめ
→ 使いこなしたいとき

困ったとき

故障
したとき

やりたいこと

- 本機の添付品を知りたい
- Windowsをセットアップしたい
- コンピューターを設置したい
- Windowsの操作方法を知りたい
- 用語を調べたい
- ソフトウェアの操作方法を知りたい
- 周辺機器(プリンター、デジタルカメラなど)を使いたい
- オプション製品(キーボード、マウス、USB FDD、ソフトウェアなど)を使いたい
- インターネット/メールをしたい **p.60**

- CD/DVDを使いたい **p.39**

- 装置を増設したい **p.73**

- サウンドの設定をしたい **p.53**

- セキュリティー設定をしたい **p.62**

- USB機器を接続したい **p.48**

- データをバックアップしたい **p.115, 117**
- 再インストール(リカバリー)をしたい **p.112**
- BIOSの設定を変更したい **p.89**
- 省電力で使いたい **p.67**
- HDD領域を分けたい **p.157**
- 本機の仕様を知りたい **p.169**

- トラブルを解決したい

- サポート・サービス情報を知りたい
- 修理を依頼したい



紙マニュアル

紙で添付されている情報です。



PC お役立ちナビ

コンピューターの画面で見る電子の情報です。

情報の場所



スタートアップガイド



オプション製品のマニュアル

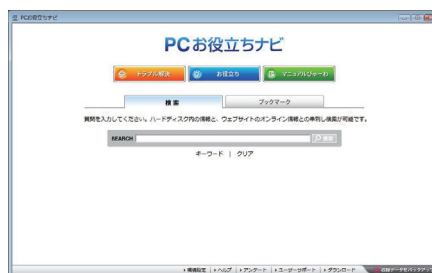


ユーザーズマニュアル(本書)



PCお役立ちナビ p.4

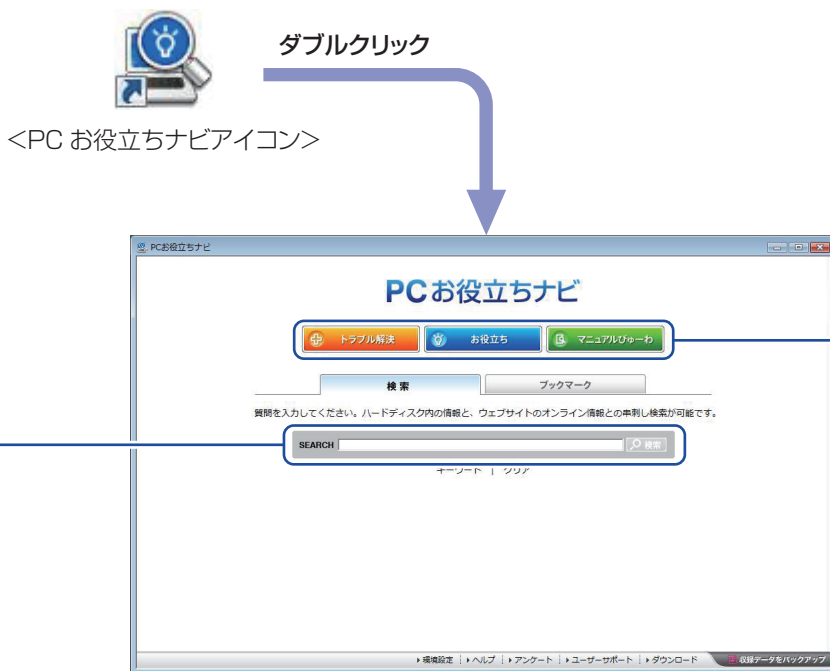
「PC お役立ちナビ」の詳細は、次ページをご覧ください。



サポート・サービスのご案内

知りたい情報はこれで検索！ PC お役立ちナビ

本機には、知りたい情報を簡単に検索できるサポートツール「PC お役立ちナビ」が搭載されています。困ったときや、役立つ情報を知りたいときなどにお使いください。

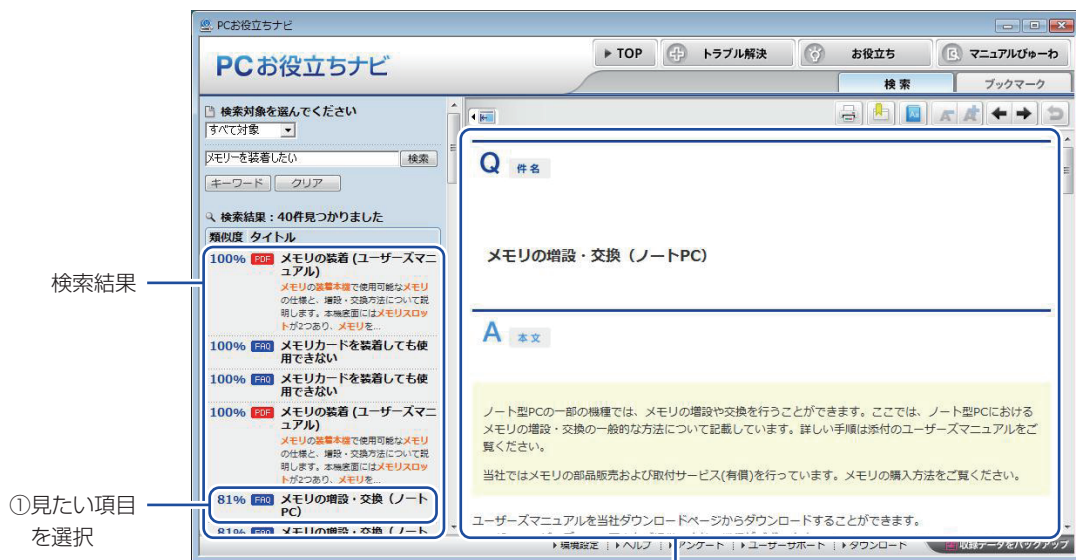


① 検索をする

TOPページから
検索実行

本機に収録されている情報+ユーザーサポート
ページのオンライン情報を一度に検索

※本機に収録されている情報 = サポートコンテンツ・マニュアル (PDF)・ヘルプなど
※インターネットに接続していない場合は、本機に収録されている情報のみを検索します。



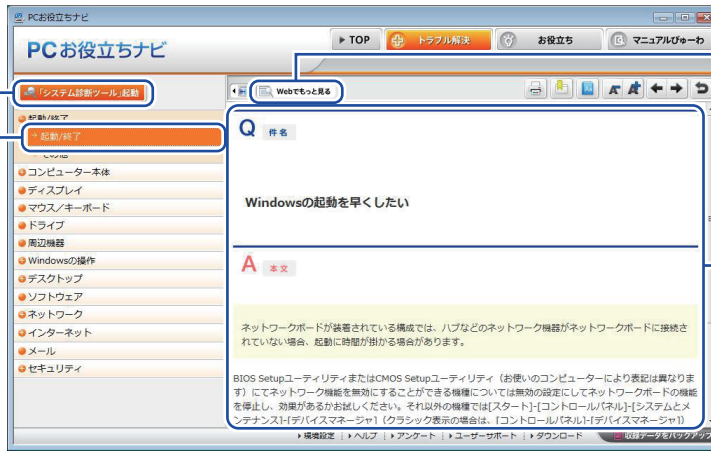
② 内容が表示される

② おすすめコンテンツ・マニュアルを見る

トラブル解決 トラブルを解決するのに役立つ情報を収録しています。

システム診断
を実行

①トラブルの種類
を選択



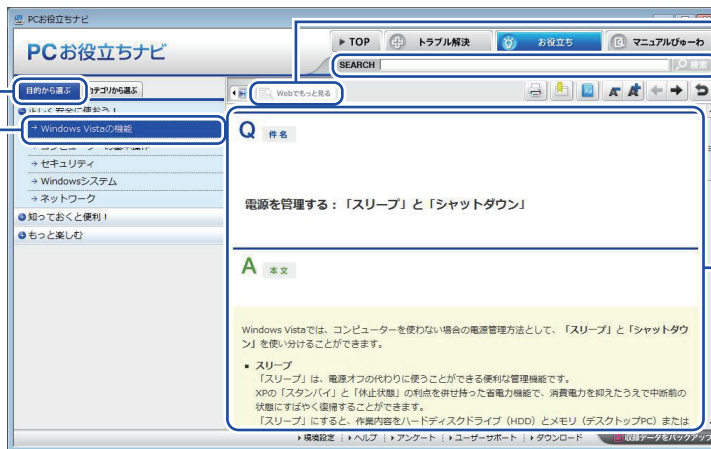
もっと情報がほしい
とき→Webへ

②内容が表示される

お役立ち コンピューターの便利な使い方や、役立つ情報を収録しています。

①情報の分類を
選択

②見たい項目を
選択



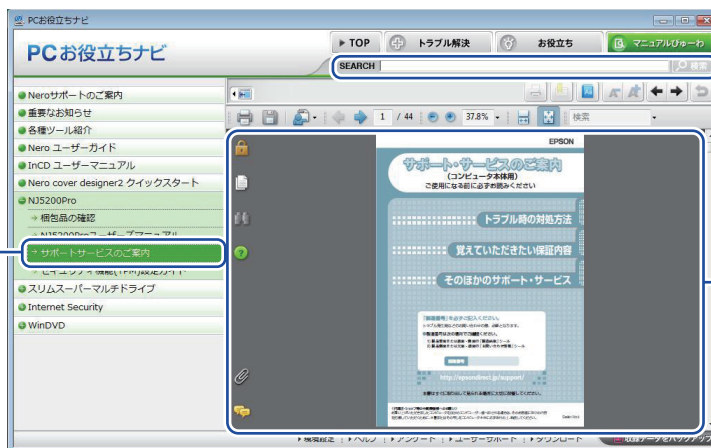
もっと情報がほしい
とき→Webへ

「お役立ち」内の
情報を検索

③内容が表示される

マニュアルびゅーわ 本機に添付されているマニュアルのPDFデータを収録しています。

①見たいマニュアル
を選択



「マニュアルびゅーわ」
内の情報を検索

②マニュアル(PDF)
が表示される

<画面はイメージです>

目次

ご使用の前に

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項や、取り扱い上の注意などを説明します。

製品保護上の注意.....	10
マニュアルの読み方.....	13
各部の名称.....	18
添付されているソフトウェア.....	20

1

コンピューターの基本操作

コンピューターの電源の入れ方や切り方、キーボードやマウス、光ディスクドライブの使用方法など、コンピューターの基本的な操作方法について説明します。

電源を入れる・切る.....	24
Windows 操作のヒント.....	28
キーボードを使う.....	33
マウスを使う.....	36
HDD を使う.....	37
光ディスクドライブを使う.....	39
USB 機器を使う.....	48
画面表示機能を使う.....	51
サウンド機能を使う.....	53
ネットワーク機能を使う.....	56
インターネットに接続する.....	60
インターネットを使用する際のセキュリティ対策.....	62
省電力機能.....	67
そのほかの機能.....	71

2

装置の増設・交換

装置の増設・交換方法について説明します。

増設・交換できる装置.....	74
作業時の注意.....	75
増設・交換の準備作業.....	76
メモリーの装着.....	79
拡張ボードの装着.....	84

3

BIOS の設定

コンピューターの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

BIOS の設定を始める前に.....	90
BIOS Setup ユーティリティの操作.....	91
BIOS Setup ユーティリティの設定項目.....	102

4

ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

ソフトウェアを再インストールする..... 112

5

困ったときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

トラブルが発生したら..... 134

起動・画面表示できないときは..... 136

トラブル時に効果的な対処方法..... 143

付録

本機をご使用になる際に役に立つ情報や、本機の仕様などについて説明します。

お手入れ..... 154

バックアップ CD の作成..... 155

HDD 領域（ドライブ）の分割・変更・作成..... 157

リチウム電池の交換..... 164

コンピューターを廃棄するときは..... 167

機能仕様一覧..... 169



ご使用前に

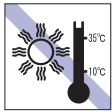
本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項や、取り扱い上の注意などを説明します。

製品保護上の注意.....	10
マニュアルの読み方.....	13
各部の名称.....	18
添付されているソフトウェア.....	20

製品保護上の注意

使用・保管時の注意

コンピューター（本機）は精密な機械です。次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、故障や誤動作の原因となります。



温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。

故障、誤動作の原因となります。適切な温度の目安は 10℃～35℃です。



直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理用器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。

故障、誤動作の原因となります。

また、直射日光などの紫外線は、変色の原因になります。



本機の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。

変色や変形の可能性があります。

柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



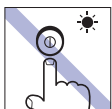
本機を梱包しない状態で、遠隔地への輸送や保管をしないでください。

衝撃や振動、ホコリなどから本機を守るため、専用の梱包箱に入れてください。



輸送や保管をするときは、付属物をセットしたままにしないでください。

配線ケーブルはすべて取り外し、光ディスクメディアなどは取り出してください。



アクセスランプ点灯・点滅中は、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



ホコリの多い所には置かないでください。

故障、誤動作の原因となります。



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。誤動作やデータ破損の原因となることがあります。逆に、本機の影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



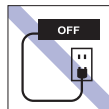
電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など）に本機を置かないでください。

電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリー上から消えてしまいます。



本機の上には重い物を載せないでください（本機を横置きで使用する場合は、18kg までのディスプレイを載せることができます）。

重圧により、故障や誤動作の原因となります。



コンセントに電源プラグを接続したまま、本体カバーを外して作業しないでください。

電源を切っても、本機内部に微少な電流が流れているため、ショートして故障の原因となります。



移動するときは、振動や衝撃を与えないようにしてください。

内蔵の周辺機器（HDD、光ディスクドライブなど）も含めて、故障、誤動作の原因となります。



他の機械の振動が伝わる所など、振動しやすい場所には置かないでください。故障、誤動作の原因となります。

記録メディア

記録メディアは、次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、記録メディアに収録されているデータが破損するおそれがあります。

記録メディアの種類

FD FD **CD** 光ディスクメディア

記録メディアの種類を指定していない注意事項は、すべての記録メディアに適用されます。



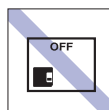
直射日光が当たる所、発熱器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



アクセスランプ点灯・点滅中は、記録メディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



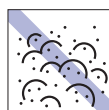
上に物を載せないでください。



使用後は、本機にセットしたままにしたり、ケースに入れずに放置したりしないでください。



キズを付けないでください。



ゴミやホコリの多い所では、使用したり保管したりしないでください。



クリップで挟む、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。



信号面（文字などが印刷されていない面）に触れないでください。

CD



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD 専用クリーナーを使ってください。

CD



レコードのように回転させて拭かないでください。
内側から外側に向かって拭いてください。

CD



クリーナーCD

光ディスクドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングする CD は使わないでください。

CD



シールを貼らないでください。

CD



信号面（文字などが印刷されていない面）に文字などを書き込まないでください。

CD



温度差の激しい場所に置かないでください。結露する可能性があります。

CD



何度も読み書きした FD は使わないでください。

摩耗した FD を使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。

FD



アクセスカバーを開けたり、磁性面あるいは金属端子に触れたりしないでください。

FD



磁性面や金属端子にホコリや水を付けないでください。

シンナーやアルコールなどの溶剤を近づけないでください。

FD



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。

FD

マウス

マウスは精密な機械です。次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、故障や誤動作の原因となります。



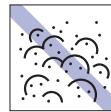
落としたり、ぶつけたりして強い衝撃を与えないでください。



レンズ部分に触れないでください。



持ち運びの際はマウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。



ゴミやホコリの多いところで使用したり、保管したりしないでください。レンズにゴミやホコリが付いたまま使用すると、誤動作の原因となります。

マニュアルの読み方

本製品の仕様とカスタマイズ

本製品は、ご購入時にお客様が選択されたオプションによって、仕様がカスタマイズされています。

本書で記載しているコンピューターの製品仕様

本書では特に記載がない限り、下記の製品仕様で説明を行っています。お客様が購入された製品の仕様が下記と異なる場合、それらの使用方法やドライバーのインストール方法などは、購入時に選択された各装置のマニュアルを参照してください。

メモリー	: 1 枚
HDD	: 1 台
光ディスクドライブ	: 1 台
ディスプレイ機能	: マザーボードの機能を使用
ネットワーク機能	: マザーボードの機能を使用
サウンド機能	: マザーボードの機能を使用

仕様によって必要なマニュアル

本製品の操作に必要なマニュアルは、お客様が選択された仕様によって、「ユーザーズマニュアル」（本書）とは別に提供されている場合があります。



お使いになる仕様によって必要となるマニュアルは、下記のとおり別冊や電子マニュアルなどの形式で提供されていますので、ご確認ください。

- 本製品に同梱されている別冊マニュアル
- CD-ROM などに収録されている電子マニュアル（PDF ファイルなど）
- コンピューターに収録されている電子マニュアル（「PC お役立ちナビ」－ [マニュアルびゅうわ] から閲覧）

マニュアル中の表記










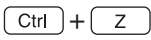


安全に関する記号

本書では次のような記号を使用しています。

	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。




一般情報に関する記号

本書では、次のような一般情報に関する記号を使用しています。

	制限事項です。 機能または操作上の制限事項を記載しています。
	参考事項です。 覚えておくと便利なことを記載しています。
	操作手順です。 ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。
	手順が次ページに続くことを示します。
	 で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。  は Enter キーを表します。また、  は  のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。
	+の前のキーを押したまま+の後のキーを押します。 この例では、  を押したまま  を押します。

参照先に関する記号

本書では、次のような参照先に関する記号を使用しています。

	本書内の参照ページを示します。
	別冊子を示します。
「 」	別冊子の名称を示します。 例) 『サポート・サービスのご案内』
	サポートツール「PC お役立ちナビ」を示します。

名称の表記

本書では、本機で使用する製品の名称を次のように表記しています。

HDD	ハードディスクドライブ
FD	フロッピーディスク
FDD	フロッピーディスクドライブ
光ディスクメディア	CD メディア、DVD メディアなど
光ディスクドライブ	光ディスクメディアを使用するためのドライブの総称

オペレーティングシステム (OS) に関する表記

本書では、オペレーティングシステム (OS) の名称を次のように略して表記します。

Windows 7	Windows [®] 7 Home Premium
-----------	-------------------------------------

HDD 容量の記載

本書では、HDD 容量を 1GB (ギガバイト) = 1000MB として記載しています。

メモリー容量の記載

本書では、メモリー容量を 1GB (ギガバイト) = 1024MB として記載しています。

Windows の画面表示に関する記載方法

デスクトップ画面

本書では、Windows の画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



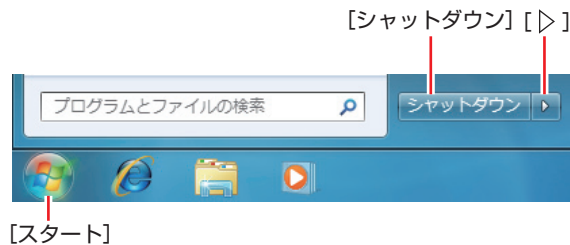
ボタン

ボタンは [] で囲んで記載しています。

例)  : [OK]

スタートメニュー

スタートメニューのボタン類は、次のように記載します。



画面操作

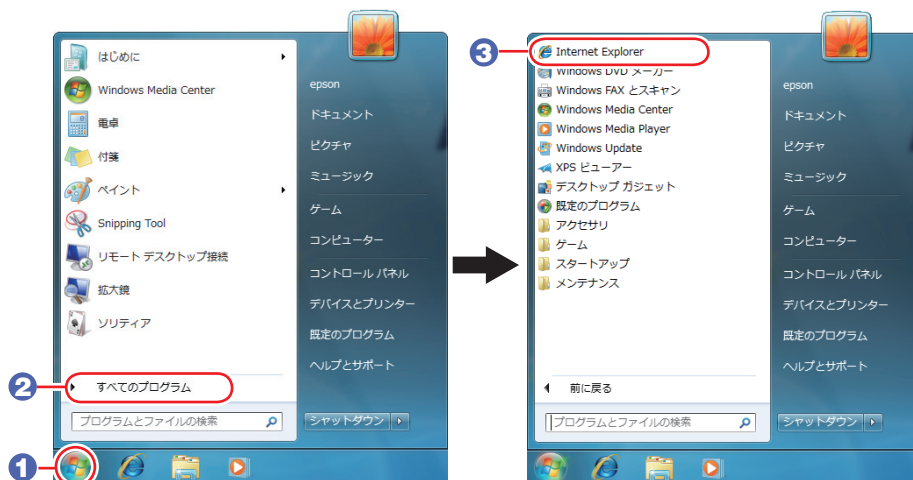
本書では、Windows の画面上で行う操作手順を次のように記載します。

●記載例

[スタート] – 「すべてのプログラム」 – 「Internet Explorer」 をクリックします。

●実際の操作

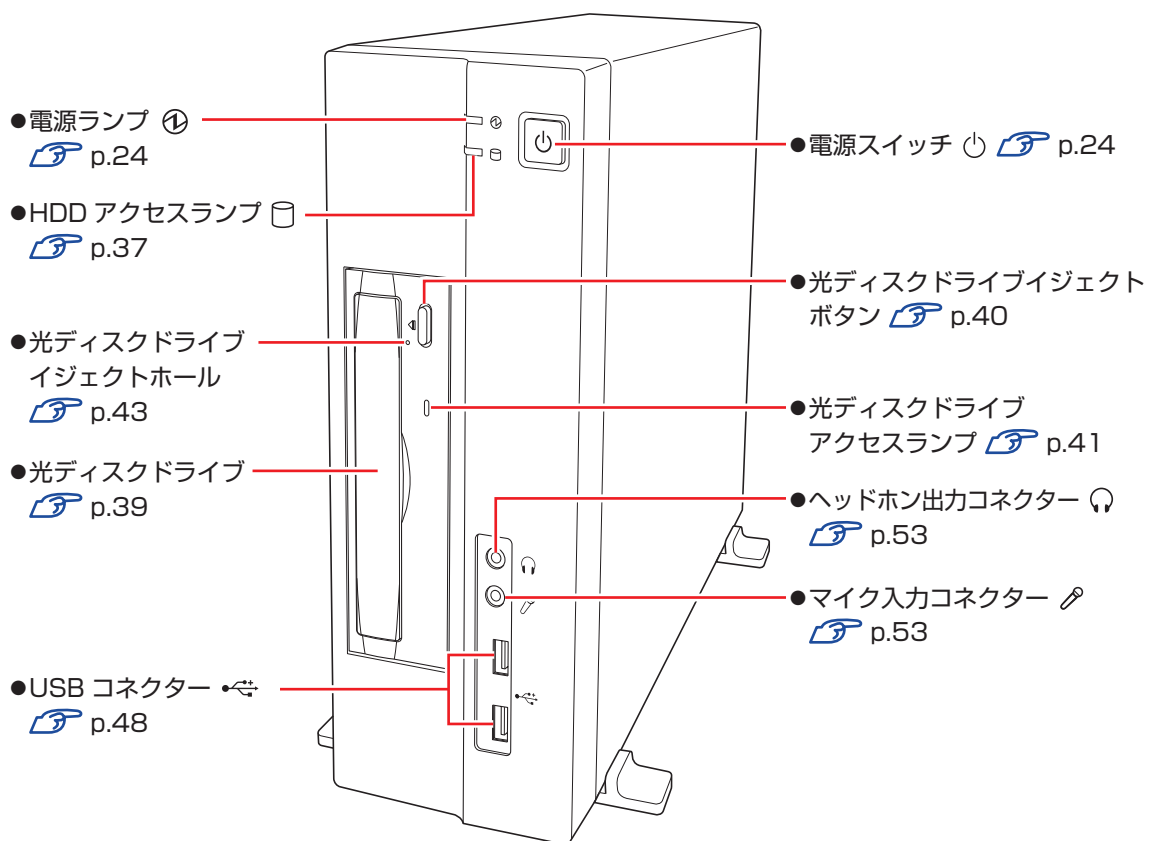
- ① [スタート] をクリックします。
- ② 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。
- ③ 表示されたメニューから「Internet Explorer」をクリックします。



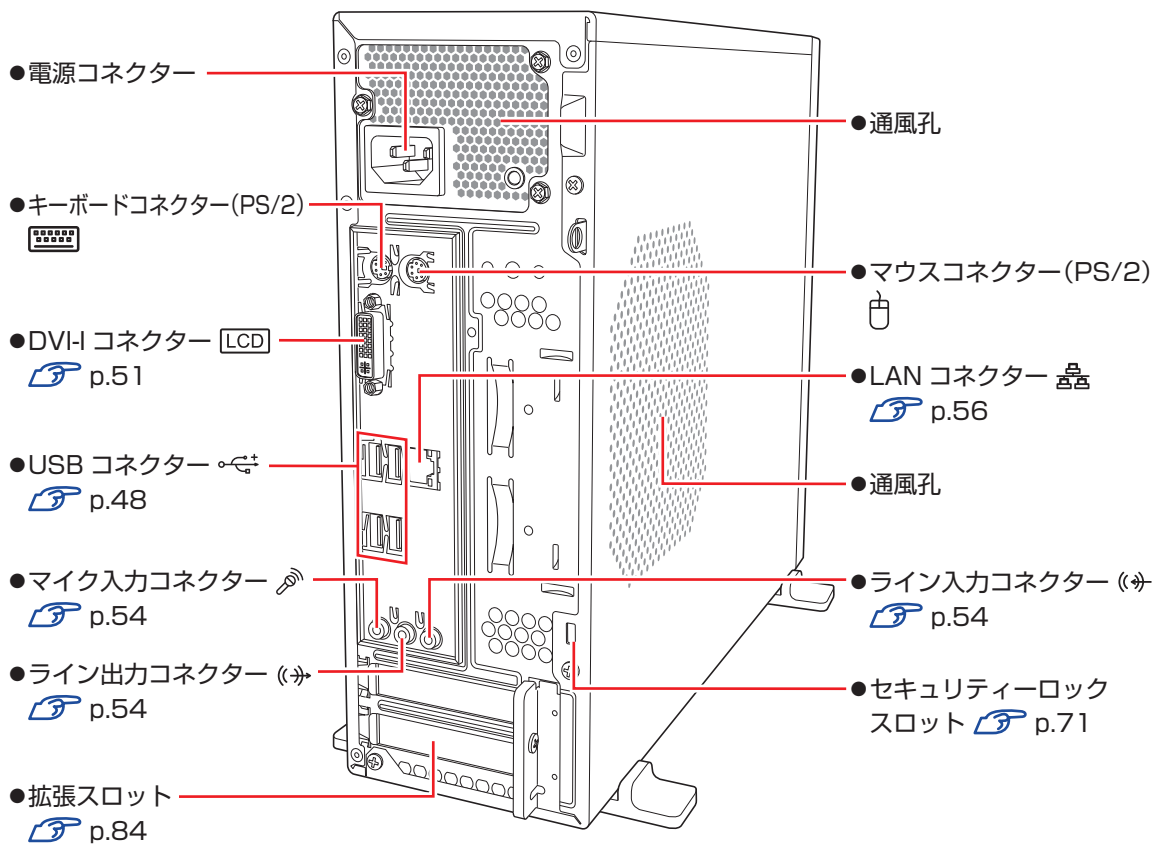
※表示される項目は、システム構成によって異なります。

各部の名称

本体前面






本体背面



添付されているソフトウェア




本機に添付されているソフトウェアについて説明します。


表中記号の見方

	ソフトウェアのインストール用データは添付の DVD または CD に収録されています。
	ソフトウェアのインストール用データは HDD の「消去禁止領域」に収録されています。この領域を削除すると再インストールができなくなります。「消去禁止領域」は、絶対に削除しないでください。  p.37 「消去禁止領域とは」

本機にインストールされているソフトウェア


次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされています。

本機にインストールされているソフトウェア	インストール用データの収録場所
<ul style="list-style-type: none">●Windows 7 本機のオペレーティングシステム (OS) です。	 Windows 7 リカバリー DVD
<ul style="list-style-type: none">●リカバリーツール HDD の消去禁止領域に収録されている本体ドライバーやソフトウェアを再インストールするためのプログラムです。	 リカバリーツール CD
<ul style="list-style-type: none">●本体ドライバー<ul style="list-style-type: none">• チップセットドライバー マザーボード上のデバイスを使用するためのドライバーです。• ビデオドライバー マザーボード上のディスプレイ機能を使用するためのドライバーです。• サウンドドライバー マザーボード上のサウンド機能を使用するためのドライバーです。• ネットワークドライバー マザーボード上のネットワーク機能を使用するためのドライバーです。• Java2 Runtime Environment Java アプリケーションを実行するためのソフトウェアです。• PC お役立ちナビ コンピューターの情報を簡単に検索できるサポートツールです。 システム診断ツールも含まれています。	 消去禁止領域
<ul style="list-style-type: none">●Adobe Reader PDF (Portable Document Format) 形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。	
<ul style="list-style-type: none">●Windows Live Suite 「Windows Live メール」など、複数のソフトウェアを含むパッケージです。	

本機にインストールされているソフトウェア	インストール用データの収録場所
<ul style="list-style-type: none"> ●マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版 ウイルス駆除機能、不正アクセス防止機能などを備えたセキュリティソフトウェアです。危険なサイトへのアクセスを防ぐ Web セーフティーツール「マカフィー・サイトアドバイザープラス」も含まれています。 	 消去禁止領域
<ul style="list-style-type: none"> ●WDLC フォトガジェット デスクトップ上で写真を閲覧・管理するためのソフトウェアです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ●WinDVD DVD VIDEO を再生するためのソフトウェアです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ●Nero 9 Essentials（書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時） 光ディスクメディアに書き込みを行うためのソフトウェアです。 	

必要に応じてインストールするソフトウェア

次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされていません。必要に応じてインストールしてください。


必要に応じてインストールするソフトウェア	インストール用データの収録場所
<ul style="list-style-type: none"> ●i-フィルター 5 30 日版 インターネット上の有害な Web ページへのアクセスを制限する Web フィルタリングソフトウェアです。 	 消去禁止領域
<ul style="list-style-type: none"> ●JWord Plugin Internet Explorer のアドレスバーから、日本語でインターネットを検索するためのソフトウェアです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ●goo スティック Internet Explorer のツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するためのソフトウェアです。 	



参考


消去禁止領域に収録されているインストール用データのバックアップ

書き込み機能のある光ディスクドライブを搭載している場合、HDD の「消去禁止領域」に収録されているインストール用データを、CD にバックアップすることができます。

 p.155 「バックアップ CD の作成」

CD から起動するソフトウェア

次のソフトウェアは、CD から起動して実行します。インストールは必要ありません。

CD から起動するソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
<ul style="list-style-type: none"> ●システム診断ツール 本機の調子が悪いときにシステム診断を行うためのツールです。HDD 内のデータを消去することもできます。 	 リカバリーツール CD



1

コンピューターの基本操作

コンピューターの電源の入れ方や切り方、キーボードやマウス、光ディスクドライブの使用方法など、コンピューターの基本的な操作方法について説明します。


電源を入れる・切る.....	24
Windows 操作のヒント.....	28
キーボードを使う.....	33
マウスを使う.....	36
HDD を使う.....	37
光ディスクドライブを使う.....	39
USB 機器を使う.....	48
画面表示機能を使う.....	51
サウンド機能を使う.....	53
ネットワーク機能を使う.....	56
インターネットに接続する.....	60
インターネットを使用する際のセキュリティー対策...	62
省電力機能.....	67
そのほかの機能.....	71

電源を入れる・切る

電源の入れ方や切り方、再起動や強制終了の方法を説明します。


電源を入れる

！ 制限

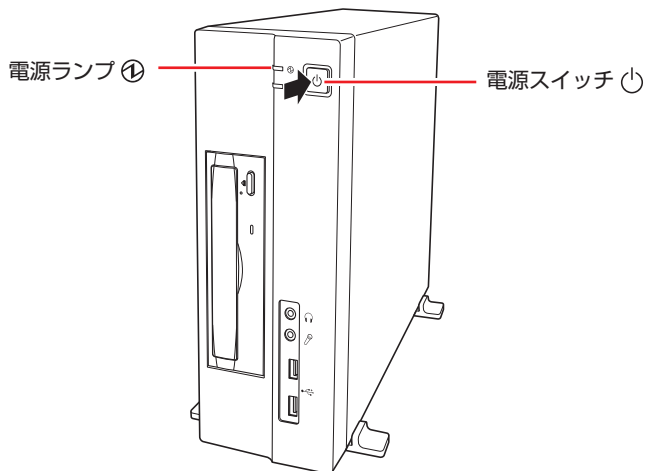
- 周辺機器の電源をいつ入れるかは、周辺機器のマニュアルで確認してください。電源を入れるタイミングがコンピューターより先か後かは、周辺機器により決まっています。
- USB フラッシュメモリーや USB HDDなどを接続していたり、USB FDDにFDがセットされている状態で本機の電源を入れると、Windowsが起動しないことがあります。USB記憶装置の接続やFDのセットは、Windows起動後に行ってください。
USB記憶装置を接続した状態でWindowsを起動したい場合は、「BIOS Setupユーティリティ」で起動するデバイスの順番を変更してください。
 p.100「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」
- 電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。電気回路に与える電氣的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。

シャットダウン状態から本機の電源を入れる方法は、次のとおりです。

1 ディスプレイやスピーカーなどの電源を入れます。

2 電源スイッチ（）を押します。


電源ランプ（）が点灯します。



画面に「EPSON」と表示され、しばらくするとWindowsが起動します。

参考

電源が入らないときは

電源が入らないときは、 p.136「起動・画面表示できないときは」をご覧ください。

電源を切る

！ 制限

- 電源を切って、もう一度電源を入れる場合は、電源を入れるときに電気回路に与える電氣的な負荷を減らし、HDD などの動作を安定させるために、20 秒程度の間隔を空けてください。
- HDD などのアクセスランプ点灯中に本機の電源を切ると、収録されているデータが破損するおそれがあります。
- 本機は、電源を切っていても、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜いてください。

本機の電源を切る（シャットダウンする）方法は、次のとおりです。

1 [スタート] () - 「シャットダウン」をクリックします。

Windows が終了し、自動的に電源が切れます。

2 ディスプレイなど、接続している周辺機器の電源を切ります。

👉 参考

シャットダウン時の注意

Windows を複数のユーザーが使用している状態で電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピューターにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は、[いいえ] をクリックし、ログオンしているすべてのユーザーをログオフしてからシャットダウンしてください。

スリープにする


本機をスリープにして終了すると、本機は低電力の状態になります。スリープからは、数秒で通常の状態に復帰することができます。

スリープについての詳しい説明は、 p.67 「省電力機能」をご覧ください。

スリープにする方法

本機をスリープにする方法は、次のとおりです。

1 [スタート] - [▷] - 「スリープ」をクリックします。

本機がスリープになります。画面表示が消え、電源ランプ () が緑色に点滅します。

復帰方法



制限

復帰の際、周辺機器はスリープに入る前と同じ状態にしてください。
スリープ中に周辺機器を取り外すなどして状態が異なると、正常に復帰できない場合があります。

本機をスリープから復帰させる方法は、次のとおりです。

1 電源スイッチ () を押します。

本機が通常状態に復帰します。

そのほかの復帰方法については、 p.70 「省電力状態からの復帰方法」をご覧ください。

再起動する

電源が入っている状態で、本機を起動しなおすことを「再起動」と言います。
次のような場合には、本機を再起動する必要があります。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- Windows の動作が不安定になった場合

本機の再起動方法は、次のとおりです。

1 [スタート] - [▷] - 「再起動」をクリックします。

再起動しても状態が改善されない場合は、本機の電源を切り、しばらくしてから電源を入れてください。

ハングアップしたときは

ソフトウェアや Windows がキーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態を「ハングアップ」と言います。

ハングアップした場合は、ソフトウェアの強制終了を行います。ソフトウェアの強制終了をしても状態が改善されない場合は、強制的に本機の電源を切ります。

ソフトウェアの強制終了

ソフトウェアの強制終了方法は、次のとおりです。

1 + + を押します。


2 表示された項目から「タスクマネージャーの起動」をクリックします。

「Windows タスクマネージャー」が起動します。

- 3 「アプリケーション」タブからハングアップしているソフトウェアを選択して「タスクの終了」をクリックします。

強制的に電源を切る

Ctrl + **Alt** + **Delete** を押しても反応がない場合は、強制的に本機の電源を切ります。強制的に本機の電源を切る方法は、次のとおりです。

- 1 電源スイッチ（）を5秒以上押し続けます。
本機の電源が切れます。

Windows 操作のヒント


Windows 操作についてのヒントを記載します。

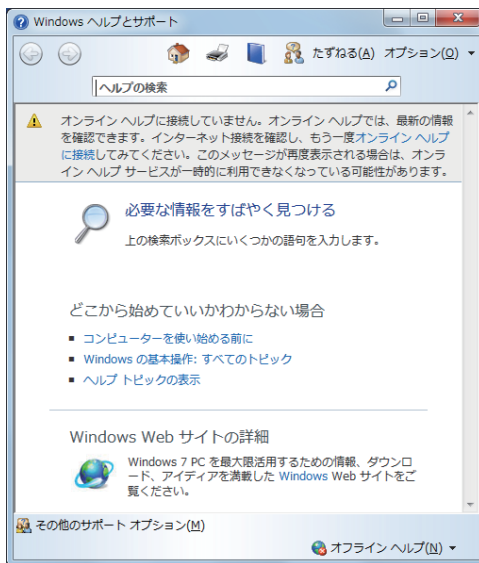
Windows 7の使用方法

Windows 7 の使用法は、次をご覧ください。


●ヘルプとサポート

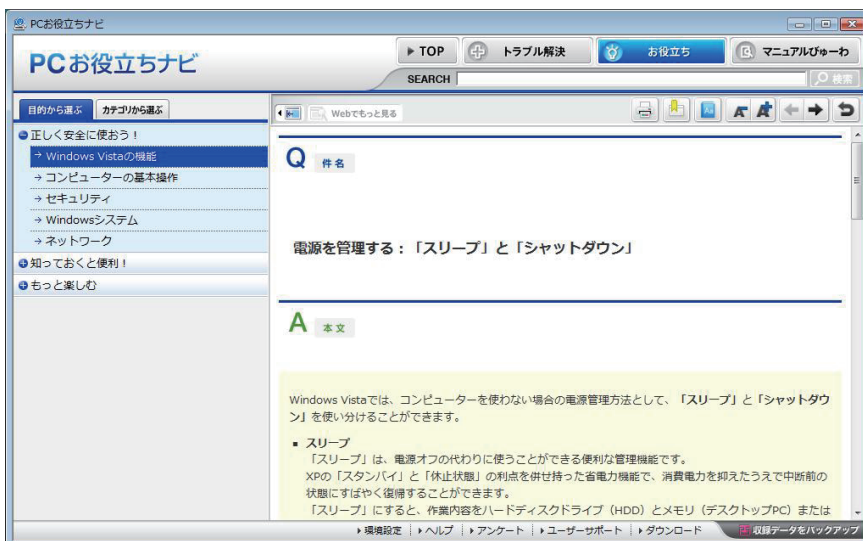
「ヘルプとサポート」は次の場所から開きます。

[スタート] () - 「ヘルプとサポート」



●「PC お役立ちナビ」 - 「お役立ち」

 p.4 「知りたい情報はこれで検索！ PC お役立ちナビ」



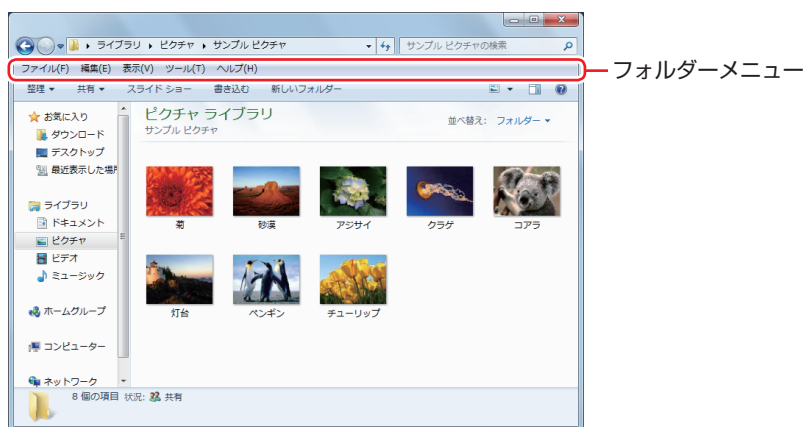
コントロールパネルの表示

本書では、コントロールパネルの表示が「カテゴリ」であることを前提に記載しています。



フォルダーメニューの表示

Windows 7では、「ファイル」や「ツール」などのフォルダーメニューが標準では表示されません。フォルダーメニューを表示したい場合は、**[Alt]** を押します。もう一度 **[Alt]** を押すと、フォルダーメニューは表示されなくなります。



常にフォルダーメニューを表示する

常にフォルダーメニューを表示したい場合は、次の設定を行います。

- 1 [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「デスクトップのカスタマイズ」 - 「フォルダーオプション」 - 「表示」 タブ - 「常にメニューを表示する」 にチェックを付けます。

ユーザーアカウントを作る

本機を何人かで共同で使用する場合は、ユーザーアカウントを作成すると便利です。ユーザーアカウントをいくつか作成すると、Windows をユーザーごとに切り替えて、各ユーザーの構成で本機を使用することができます。

ユーザーアカウントの作成

ユーザーアカウントの作成は、次の場所で行います。

【スタート】 - 「コントロールパネル」 - 「ユーザーアカウントと家族のための安全設定」
- 「ユーザーアカウント」 - 「別のアカウントの管理」 - 「新しいアカウントの作成」

作成時、ユーザーに応じてユーザーアカウントの種類（権限）を設定してください。
ユーザーアカウントの種類（権限）には、次の2つがあります。

●管理者


すべてのシステム項目にアクセスし、設定を変更したり、ドライバー、ソフトウェアのインストールをすることができます。

Windows のセットアップ中に入力したユーザー名（アカウント）は、「管理者」になります。

●標準ユーザー

一部のシステム項目の変更や、ドライバー、ソフトウェアのインストールは行うことができません。管理者のパスワードを入力すれば、変更やインストールが可能になります。

ユーザーアカウント制御画面

コントロールパネルなどで  が表示されているシステム項目にアクセスしようとしたり、ドライバーやソフトウェアのインストールをしようすると、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。これは、項目にアクセス制限がかけられているためです。



表示される「ユーザーアカウント制御」画面は、ユーザーアカウント（管理者または標準ユーザー）により異なります。本書の手順は、管理者アカウントで Windows にログオンした状態を前提に記載しています。

システムイメージを保存する

事前にシステムイメージを保存しておく、なんらかの原因で Windows が起動しなくなった場合、Windows やソフトウェアを、システムイメージ保存時の状態まで一度にリカバリーすることができます。

不具合発生時に回復できるように、システムイメージを保存しておくことをおすすめします。

保存方法は、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」－「トラブル解決」－「Windows の操作」－「バックアップ」
－「システムイメージの作成を使ってバックアップを行う方法」

Windows Live Suite

本機には、Windows Live の以下のソフトウェアがインストールされています。

- Windows Live メール
- Windows Live Messenger
- Windows Live フォトギャラリー
- Windows Live Writer
- Windows Live ムービーメーカー
- Microsoft Silverlight

起動方法

Windows Live Suite の各ソフトウェアは、次の場所から起動します。

【スタート】－「すべてのプログラム」－「Windows Live」

使用方法

各ソフトウェアの使用方法は、次の場所をご覧ください。

- 各ソフトウェアのヘルプ
- 「PC お役立ちナビ」－画面下「ユーザーサポート」－「FAQ 番号：29148」
- Windows Live のヘルプページ

<http://help.live.com>

Windows Live ID を作成する

Windows Live を使用するには、Windows Live ID が必要になります。
Windows Live ID は無償で作成することができます。
インターネットへ接続後、各ソフトウェアの「サインイン」画面で作成してください。

次のいずれかのサービスをご利用の場合は、そのアカウントを Windows Live ID として使うことができます。

- MSN Hotmail
- MSN Messenger
- Microsoft Passport

サポートについて

Windows Live Suite のサポートは、マイクロソフト社で行っています。無償サポートは、電子メールのみです。
サポートの詳細は、次の Web ページをご覧ください。

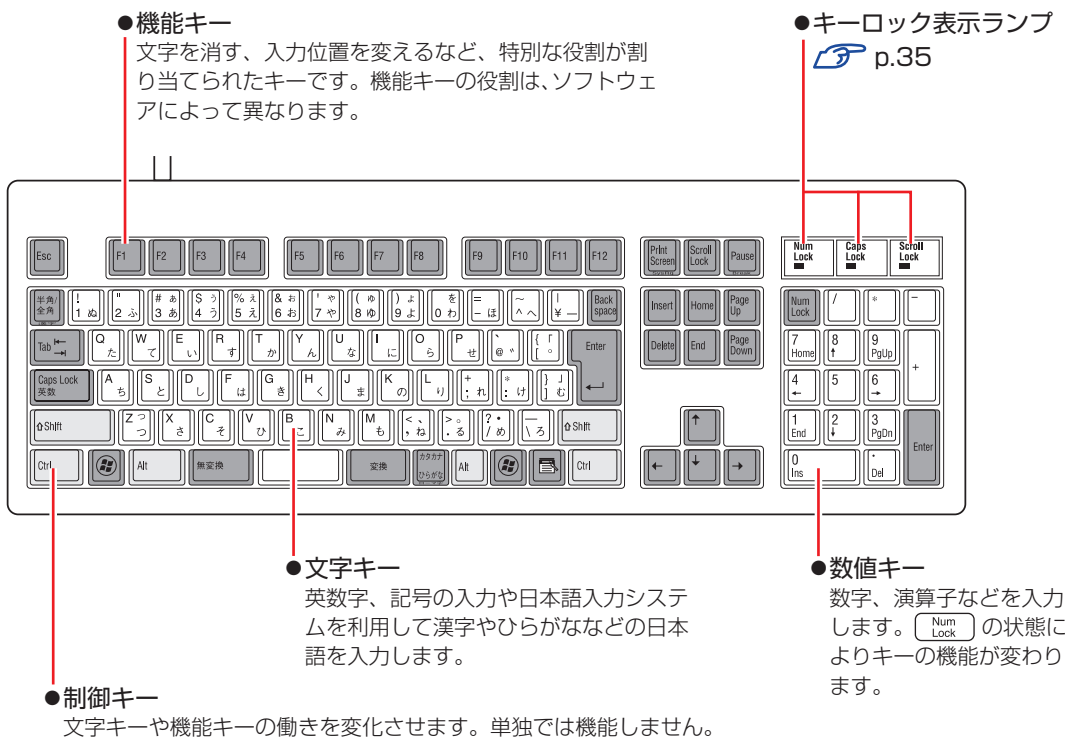
<http://support.live.com>

キーボードを使う

ここでは、一般的なキーボードについて説明します。
キーボードのマニュアルが添付されている場合は、本書とあわせてご確認ください。

キーの種類と役割

各キーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。




文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ（キーの上面）に印字された文字が入力されます。
入力モードによって、入力される文字は異なります。

直接入力モード		キートップのアルファベットをそのまま入力します。
日本語入力モード	ローマ字入力	キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
	かな入力	キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やカタカナに変換します。

入力モードの切り替え


 を押すと、直接入力モードと日本語入力モードを切り替えることができます。
日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

日本語を入力するには

ひらがなや漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。
本機には日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IME の使い方

MS-IME パネルの主要なボタンの名称と働きは、次のとおりです。
ボタンをクリックして各設定を行ったり、ヘルプを参照したりします。



●入力モード
入力モード（ひらがな、カタカナ、英数字など）を選択します。

●ヘルプ
MS-IME の詳しい説明を見ることができます。








●かなキーロック
日本語入力モードの切り替えを行います。

ボタンが押されていない状態	ローマ字入力
ボタンが押されている状態	かな入力

MS-IME 以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムのマニュアルをご覧ください。


キーロック表示ランプ

キーボード右上の 3 つのランプは、キーボードの入力状態を表示しています。

Num Lock	役割	数値キーの状態を切り替え
	切り替え	 を押します。
	点灯時	数値を入力
	消灯時	カーソルの位置を制御 数値キーの    などが使えます。
Caps Lock	役割	アルファベットの大文字 / 小文字の切り替え
	切り替え	 +  を押します。
	点灯時	大文字を入力
	消灯時	小文字を入力
Scroll Lock	役割	ソフトウェアによって異なります。
	切り替え	 を押します。

キーボードからの起動



PS/2 キーボードでは、BIOS の設定後、 +  を押すと、次のようなことができます。

- 本機の電源を入れる
- 本機を省電力状態から復帰させる
 p.70 「省電力状態からの復帰方法」



- この機能は、USB 接続のキーボードでは使用できません。
- 電源切断時に、正常にシャットダウンした状態でのみ使用可能です。

BIOS の設定

 +  で起動するには、BIOS の設定が必要です。
「BIOS Setup ユーティリティ」の次の項目を有効にしてください。

「Power」メニュー画面－「APM Configuration」

「Power On By PS/2 Keyboard」: Enabled (有効)

 p.92 「BIOS Setup ユーティリティの操作」

 p.105 「Power メニュー画面」

マウスを使う

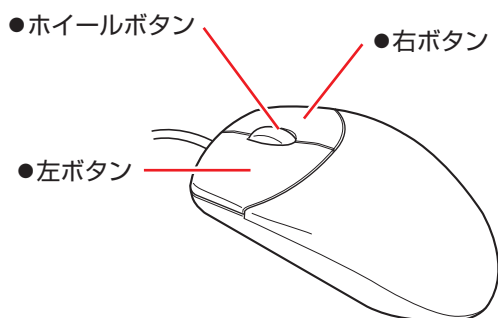
ここでは、一般的なマウスについて説明します。

マウスにマニュアルが添付されている場合は、マウスのマニュアルで使用方法をご確認ください。

マウスの操作

！ 制限

- 表面が反射する場所やざらざらした場所、複雑なイラスト入りのマウスパッドの上で使用しないでください。マウスの動きがコンピューターに伝わりません。
- アプリケーションソフトによっては、ホイールボタンが使用できない場合があります。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを1回カチッと押します。
ダブルクリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを2回続けてカチカチッと押します。
右クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、右ボタンを1回カチッと押します。
ドラッグアンドドロップ	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを押したままの状態でもうすを移動し、離します。
スクロール	ホイールボタンを指先で前後に動かすと、縦スクロール操作を行うことができます。ホイールボタンをクリックすると、マウスを動かしてオートスクロールを行うこともできます。

マウスの設定変更

マウスボタンの設定や使用環境の変更は、次の場所で行います。

【スタート】 - 「コントロールパネル」 - 「ハードウェアとサウンド」 - 「マウス」

HDD を使う

本機にはシリアル ATA300MB/s 対応の HDD (ハードディスクドライブ) が搭載されています。HDD は、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。

！ 制限

- HDD のアクセスランプ点灯・点滅中に、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。アクセスランプ点灯・点滅中は、コンピューターが HDD に対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD 内部のデータが破損するおそれがあります。
- 本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えると HDD が故障するおそれがあります。ショックを与えないように注意してください。
- HDD が故障した場合、HDD のデータを修復することはできません。

データのバックアップ

HDD に記録されている重要なデータは、CD メディアや外付け HDD などにバックアップしておくことをおすすめします。万一 HDD の故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最小限に抑えることができます。

バックアップ方法は、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「トラブル解決」 - 「Windows の操作」 - 「バックアップ」

購入時のHDD領域

購入時の HDD は、次のように設定されています。

ドライブは、NTFS ファイルシステムでフォーマットされています。

ドライブ (領域)	容量
消去禁止領域	約 2.7GB
C ドライブ	残り

消去禁止領域とは

「消去禁止領域」には、本体ドライバーやソフトウェアのインストール用データが設定されています。

この領域は、絶対に削除しないでください。

削除してしまうと、本体ドライバーやソフトウェアのインストールができなくなります。

「消去禁止領域」内の本体ドライバーやソフトウェアのインストール用データは、CD にコピー (バックアップ) することもできます。

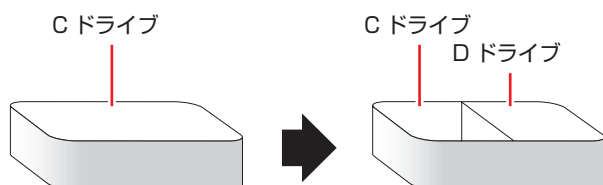
 p.155 「バックアップ CD の作成」

HDDを分割して使用する

1 台の HDD をいくつかの領域に分割して、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。

1 台の HDD を分割する

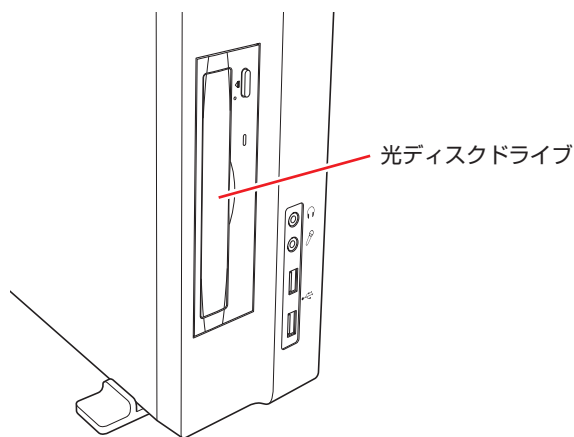
例：1 つの HDD 領域（C ドライブ）を 2 つの HDD 領域（C ドライブと D ドライブ）に分割することができます。



C ドライブを分割する場合は Windows の再インストールが必要です。詳しくは、[👁](#) p.158「C ドライブを分割・変更する」をご覧ください。

光ディスクドライブを使う

本機には、購入時に選択されたシリアル ATA 仕様の光ディスクドライブが搭載されています。光ディスクドライブは、CD-ROM などの光ディスクメディアを使用するための機器です。ここでは、光ディスクドライブの基本的な使い方について説明します。



警告

光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアを使用しないでください。飛び散って、けがをする危険があります。



注意

光ディスクドライブのディスクトレイに手を入れないでください。はさまれると、けがの原因になります。



制限

本機では、CD（コンパクトディスク）の規格に準拠しない「コピーコントロール CD」などの特殊ディスクは、動作保証していません。本機で動作しない特殊ディスクについては、製造元または販売元にお問い合わせください。

使用可能な光ディスクメディア

光ディスクドライブの種類によって、メディアへの書き込みや DVD の再生など、使える機能が異なります。

お使いの光ディスクドライブで使える機能とメディアの種類は、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」－ [マニュアルびゅう] － 「光ディスクドライブ取扱説明書」

光ディスクメディアの違いについての簡単な説明は、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」－ [お役立ち]

光ディスクメディアのセットと取り出し

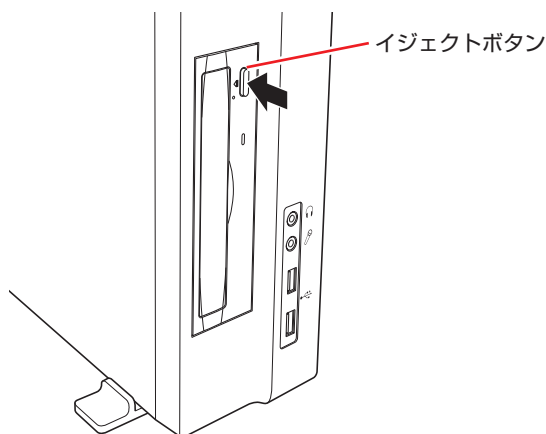
光ディスクメディアのセットと取り出し方法について説明します。

！ 制限

- 光ディスクドライブアクセス中にメディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。
- メディアの出し入れのとき以外は、ディスクトレイの開閉をしないでください。
- 開いているディスクトレイの上に物を置かないでください。また、上から強く押さないでください。
- メディアの再生中や書き込み中に振動や衝撃を与えないでください。
- 結露した状態のメディアを使用しないでください。メディアを寒いところから暖かいところへ急に持ち込むと、結露（水滴が付着する状態）します。使用すると、誤動作や故障の原因になります。
- 本機を縦置きで使用している場合、8cmのメディアは使用できません。また、縦置き横置きに関係なく、楕円などの通常と異なった形状のメディアは使用できません。

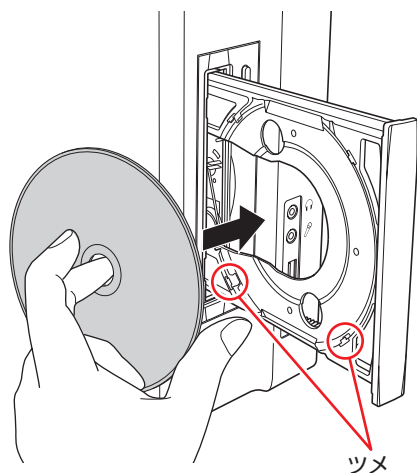
セット方法

- 1 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



- 2** メディアの印刷面を本体の左側に向け、ディスクトレイにある落下防止用のツメ（下側2箇所）にセットします。

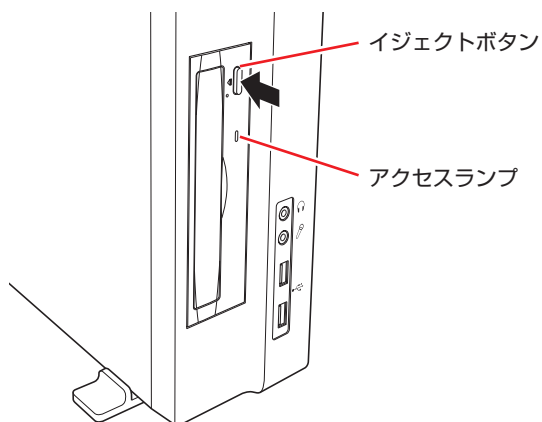
本機が横置きの場合は、メディアの印刷面を上側に向けてセットします。



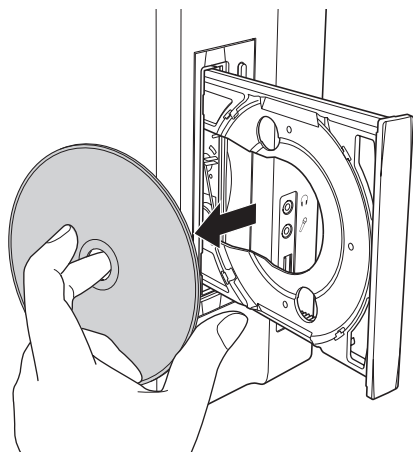
- 3** イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。

取り出し方法

- 1** アクセスランプが点灯・点滅していないことを確認し、イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



2 光ディスクメディアをディスクトレイから取り出します。



3 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。



参考

イジェクトボタンを押してもメディアが取り出せない場合

ソフトウェアによっては、独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくはお使いのソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

強制的な光ディスクメディアの取り出し

次のような場合には、強制的に光ディスクメディアを取り出すことができます。

- 光ディスクドライブの動作が不安定になったり、故障したりして、光ディスクメディアが取り出せない場合
- 光ディスクメディアをセットしたまま、本機の電源を切ってしまった場合

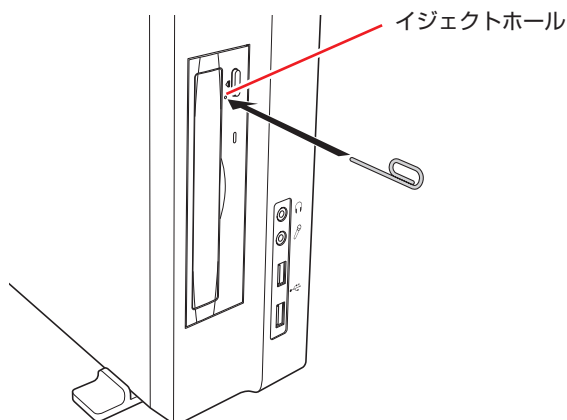
強制的な光ディスクメディアの取り出し方法は次のとおりです。

- 1** 本機の電源が入っている場合は、電源を切ります。

 p.25 「電源を切る」

- 2** イジェクトホールに先の細い丈夫なもの（ゼムクリップを引きのばしたものなど）を差し込みます。

お使いの光ディスクドライブによりイジェクトホールの位置は異なります。



- 3** ディスクトレイが少し飛び出したら、ディスクトレイを引き出し、光ディスクメディアを取り出します。

CDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データ CD を読み込めるほかに、音楽 CD やビデオ CD、フォト CD などの再生を行うことができます。これらのメディアの中には、再生時に別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

DVDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データが収録された DVD メディアを読み込めるほかに、DVD VIDEO などの再生ができます。DVD VIDEO の再生には、専用のソフトウェアが必要です。

DVD VIDEO 再生ソフト


DVD VIDEO の再生には、「WinDVD」を使用します。
WinDVD は、次の場所から起動します。

【スタート】－【すべてのプログラム】－【InterVideo WinDVD】－【InterVideo WinDVD for EPSON】

WinDVD の詳しい使用方法は、WinDVD のヘルプをご覧ください。

DVD VIDEO 再生時の不具合

WinDVD で DVD VIDEO の再生をすると、解像度や色数、リフレッシュレートの設定により、DVD VIDEO の再生ができないことがあります。
DVD VIDEO の再生ができない場合は、解像度や色数、リフレッシュレートを調節してみてください。

 p.52 「表示に関する各種設定」

CPRM で著作権保護されたメディアを再生するには

CPRM で著作権保護されたメディアを再生する場合は、インターネットに接続した状態で、「CPRM Pack」のダウンロードおよびインストールを行ってください。

「CPRM Pack」のダウンロードとインストール

インストールには、CPRM で著作権保護されたメディアが必要になります。
「CPRM Pack」のダウンロードおよびインストール手順は次のとおりです。

- 1** 【スタート】－【すべてのプログラム】－【InterVideo WinDVD】－【InterVideo WinDVD for EPSON】をクリックし、WinDVD を起動します。
- 2** CPRM で著作権保護されたメディアを光ディスクドライブにセットします。
- 3** 「CPRM のサポートが有効になっていないため、CPRM コンテンツを再生できません。・・・」と表示されたら、[OK] をクリックします。
- 4** 「InterVideo オンライン登録ページへようこそ」と表示されたら、メンバー登録を行います。
メンバー登録が終了すると、ダウンロードページが表示されます。
- 5** ダウンロードページが表示されたら、画面の指示に従って、「CPRM Pack」のダウンロードとインストールを実行します。

CPRM で著作権保護されたメディア再生時の制限事項

CPRM で著作権保護されたメディアの再生には、次の制限事項があります。

- 管理者 (Administrator) のアカウントでログオンしてください。
- DVI でデジタル出力する場合は、HDCP 規格に対応したディスプレイをご使用ください。

WinDVD ユーザーサポート情報

WinDVD に関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。
※下記のサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

ホームページ : <http://www.corel.jp/>
サポートホームページ : <http://www.corel.jp/support/>
電話 : 045-226-3899
サポート時間 平日 10:00 ~ 12:00 13:30 ~ 17:30
(土・日・祝日・夏季・年末年始・特定休業日を除く)

メールでのお問い合わせは、サポートホームページに掲載されているメールフォームからご利用いただけます。

WinDVD のよくある問い合わせ (FAQ) もサポートホームページに掲載しております。

コーレル株式会社

光ディスクメディアへの書き込み

書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時

書き込み機能のある光ディスクドライブでは、データ、音楽、画像などを光ディスクメディアに書き込むことができます。

書き込み可能なメディアは、お使いの光ディスクドライブにより異なります。書き込み可能なメディアについては、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルびゅうわ」 - 「光ディスクドライブ取扱説明書」



制限

作成した DVD VIDEO は、一部の DVD プレイヤーでは再生できない場合があります。

ライティングソフト

光ディスクメディアに書き込みを行う場合は、専用のライティングソフトが必要です。本機にはライティングソフト「Nero 9 Essentials」が添付されています。

 p.46 「Nero 9 Essentials の使い方」

書き込み時の注意

書き込みを行う場合は、次の点に注意してください。

●省電力機能を無効にする

メディアへの書き込み時に、Windows が省電力状態に切り替わると、データ転送エラーが起き、書き込みに失敗して、メディアに記録したデータが失われたり、メディアが使用できなくなる可能性があります。

書き込みを始める前に、省電力状態に移行しないように設定してください。

 p.69 「時間経過で移行させない」

省電力状態に移行する場合は、必ず光ディスクドライブからメディアを取り出してから行ってください。

●速度に対応した光ディスクメディアを選ぶ

書き込みを行う場合は、お使いの光ディスクドライブの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。

光ディスクドライブの書き込み速度は、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルびゅーわ」 - 「光ディスクドライブ取扱説明書」

Nero 9 Essentialsの使い方

書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時

ライティングソフト「Nero 9 Essentials」を使用すると、CD メディアや DVD メディアにデータや音楽、画像などのファイルを書き込むことができます。



制限

「Nero 9 Essentials」と Windows 7 標準の書き込み機能を同時に使用しないでください。

使い方

Nero 9 Essentials を起動するには、デスクトップ上の「Nero」アイコンをダブルクリックします。



< Nero アイコン >

Nero 9 Essentials の詳しい使用方法は、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルびゅーわ」 - 「Nero ヘルプ」



「PC お役立ちナビ」 - 「お役立ち」

Nero 9 Essentials ユーザーサポート情報

Nero 9 Essentials のサポートについて説明します。

サポートセンターに連絡する前に

Nero 9 Essentials の操作などでお困りの場合は、サポートセンターに連絡する前に、まず Nero 9 Essentials のヘルプ、ホームページのサポート情報をご覧ください。

<http://www.nero.com/jpn/support.html>

サポートセンターに問い合わせる

ヘルプ、ホームページのサポート情報を見ても問題が解決しない場合は、下記にお問い合わせください。

※下記のサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

株式会社 Nero サポートセンター

受付時間 : 10:00 ~ 12:30 / 13:30 ~ 17:00
月～金曜日（祝、特定休業日を除く）

TEL : 045-910-0255

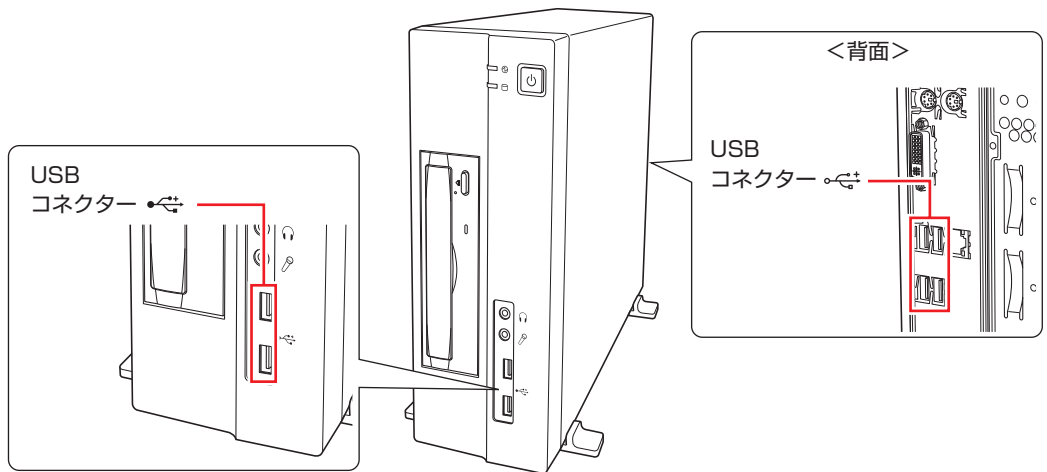
ホームページ : <http://www.nero.com/jpn/support-nero9.html>

E-MAIL : 上記ホームページのサポートページからお問い合わせください。

※お問い合わせの際は、コンピューターの機種名をお知らせいただく必要があります。


USB 機器を使う

本機には USB2.0 に対応した USB コネクタが、前面に 2 個、背面に 4 個、合計 6 個搭載されています。USB コネクタには USB 対応の機器を接続します。6 個の USB コネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用しても構いません。



！ 制限

USB フラッシュメモリーや USB HDD などの USB 記憶装置を接続していたり、USB FDD に FD がセットされている状態で本機の電源を入ると、Windows が起動しないことがあります。USB 記憶装置は、Windows 起動後に接続してください。USB 記憶装置を接続した状態で Windows を起動したい場合は、「BIOS Setup ユーティリティ」で起動するデバイスの順番を変更してください。

 p.100 「起動 (Boot) デバイスの順番を変更する」

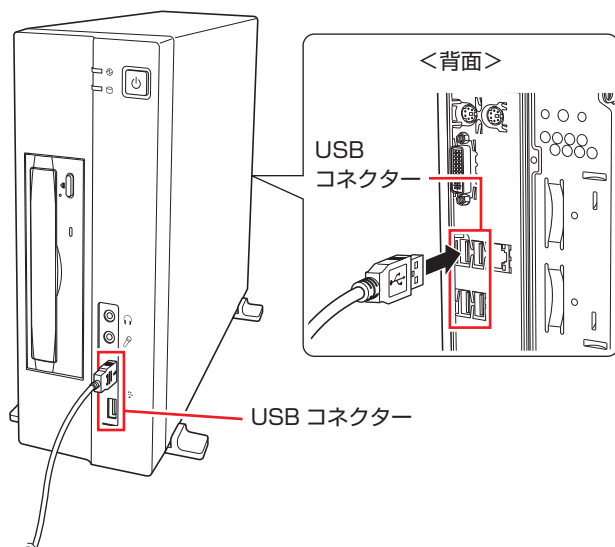
USB機器の接続と取り外し

USB 機器の接続・取り外しは、本機の電源が入っている状態で行うことができます。

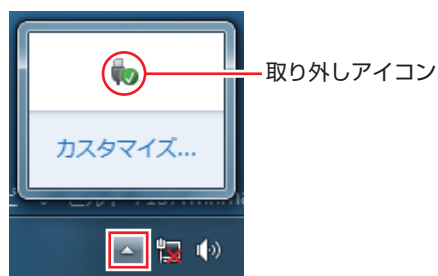
接続

USB 機器の接続方法は、次のとおりです。

- 1** USB 機器の USB コネクタを、本機の USB コネクタ（) に接続します。



- 2** USB 機器によっては、通知領域——内に「取り外し」アイコンが表示されます。



接続する USB 機器によっては、専用のデバイスドライバーが必要です。詳しくは USB 機器のマニュアルをご覧ください。

USB 機器の取り外し

USB 機器の取り外しは、コンピューターの状態を確認して、次のどちらかの方法で行います。

- そのまま取り外す

通知領域－ [△] 内に「取り外し」アイコンが表示されていない場合や、本機の電源を切った場合はそのまま取り外せます。

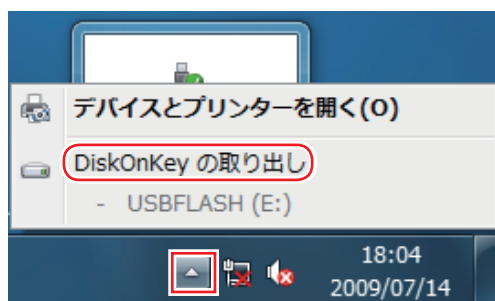
- USB 機器の終了処理をして取り外す

通知領域－ [△] 内に「取り外し」アイコンが表示されている場合は、終了処理を行います。

USB 機器の終了方法は次のとおりです。

- 1** 「通知領域」－ [△] － 「取り外し」アイコン－ 「(取り外したいUSB 機器) の取り出し」をクリックします。

複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。



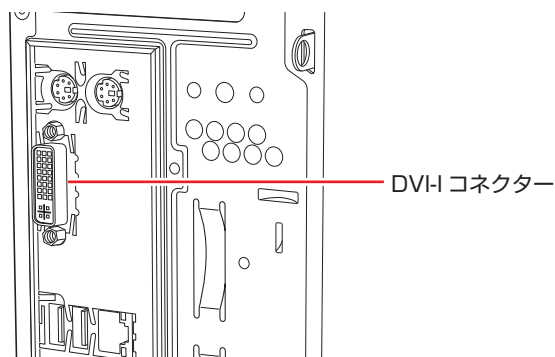
- 2** 「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、USB 機器を本機から取り外します。

画面表示機能を使う

本機のマザーボード上には画面表示機能が搭載されています。
ここでは、表示するディスプレイや解像度などの設定方法について説明します。

ディスプレイの接続

本機には DVI-I コネクターが搭載されています。



ディスプレイの接続方法は、次の2つです。

- デジタル接続 (DVI-I コネクター)
- アナログ接続 (DVI-I コネクター + DVI-VGA 変換アダプター使用)

プロジェクターの接続

プロジェクターの接続方法は、プロジェクターのマニュアルをご覧ください。

表示できる解像度と表示色

本機で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

- 解像度 ピクセル (横×縦)

800 × 600
1024 × 768
1280 × 768 *
1280 × 1024
1360 × 768 *
1440 × 900 *
1600 × 1200
1680 × 1050 *
1920 × 1080 *
1920 × 1200 *

* ワイド表示

●表示色

中 (16ビット) / 最高 (32ビット)

! 制限

- 記載している解像度は、本機に搭載されたビデオコントローラーの出力解像度です。表示モードや接続するディスプレイの仕様によっては、表示できない場合があります。
- 解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトで動画を再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてください。

表示に関する各種設定

表示に関する設定方法について説明します。

画面の設定

画面表示に関する設定は次の場所で行います。

デスクトップ上の何も無いところで右クリック→「画面の解像度」

The image shows a Windows 'Display Settings' dialog box titled 'ディスプレイ表示の変更' (Change Display Settings). The dialog has a preview window at the top showing a desktop with a large number '1'. Below the preview are several settings:

- ディスプレイ(S):** A dropdown menu showing '1. LD1731W'. A red arrow points to this dropdown with the text '使用しているディスプレイの名称' (Name of the display being used).
- 解像度(R):** A dropdown menu showing '1280 × 1024 (推奨)'. A red arrow points to this dropdown with the text '解像度を設定します' (Set resolution).
- 向き(Q):** A dropdown menu showing '横' (Horizontal).
- 詳細設定:** A button with a red circle around it. A red arrow points to it with the text '表示機能や表示装置に関する詳細設定を行います (色数やリフレッシュレートなど)' (Perform detailed settings related to display functions and devices (color count, refresh rate, etc.)).

At the bottom of the dialog are buttons for 'OK', 'キャンセル' (Cancel), and '適用(A)' (Apply).

サウンド機能を使う

本機のマザーボード上には、サウンド機能が搭載されています。
本機にスピーカーは内蔵されていません。音声を出力するには、スピーカーを接続する必要があります。

オーディオ機器の接続

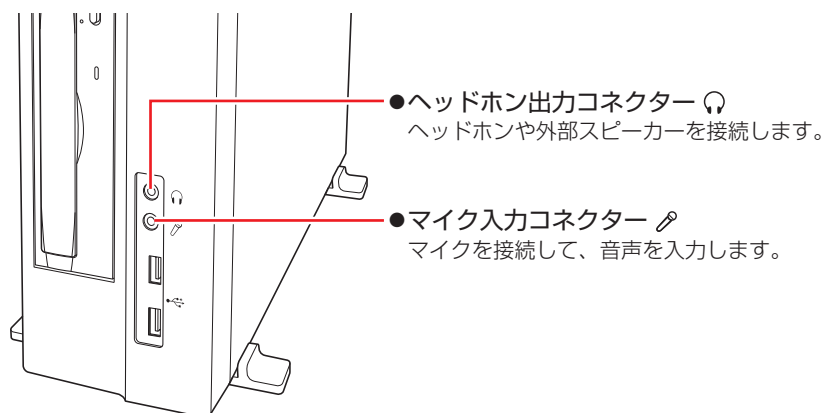
本機の前面と背面には、オーディオ機器を接続するためのコネクタが搭載されています。
各コネクタの位置は、次のとおりです。



注意

ヘッドホンや外部スピーカーを使用する場合は、ボリュームを最小にしてから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。

前面側



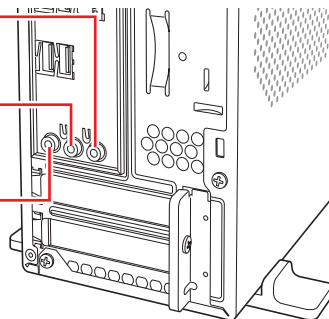
参考

使用できるマイク

マイク入力コネクタに接続して使用できるマイクは、プラグインパワー対応のコンデンサーマイクです。

背面側

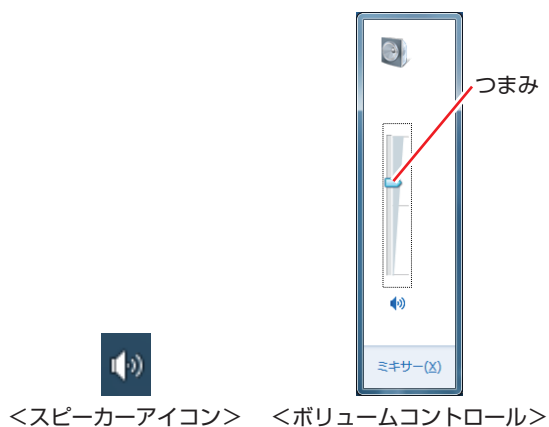
- ライン入力コネクタ (🔌) → オーディオ機器を接続して、音声を入力します。
- ライン出力コネクタ (🔌) → 外部スピーカーを接続して、音声を出力します。
- マイク入力コネクタ (🎤) → マイクを接続して、音声を入力します。



音量の調節

スピーカーを接続していて、Windows 起動時に音が鳴らなかったり、音が小さすぎたり、大きすぎたりする場合は、次の方法で音量を調節します。

画面右下の通知領域に表示されている「スピーカー」アイコン(白色)をクリックすると、「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして調節します。



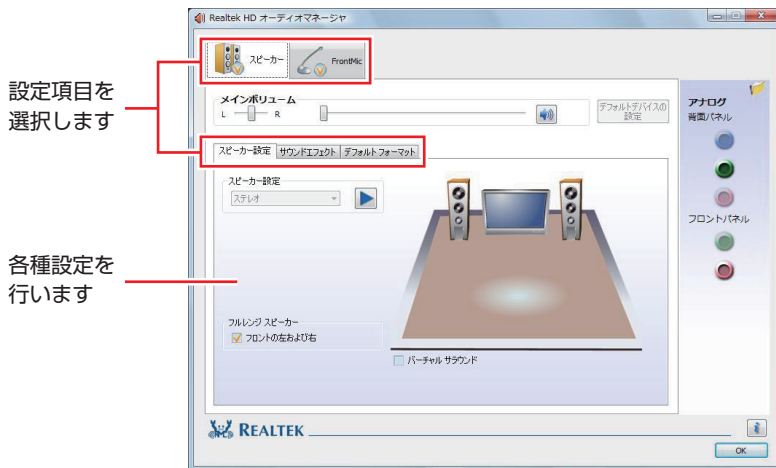
サウンドユーティリティを使う

サウンドユーティリティを使用すると、スピーカーの設定やマイク音量の設定、音響効果の設定などができます。

サウンドユーティリティを起動するには、通知領域 [△] 内の「Realtek HD オーディオマネージャ」アイコン (赤色) をダブルクリックします。



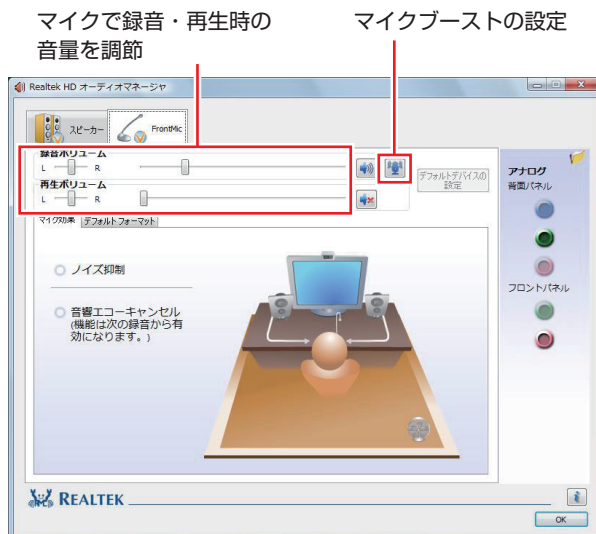
次の画面が表示されます。




※「スピーカー」、「マイク」タブは、機器接続時のみ表示されます。

マイク使用時の音量調節

本機にマイクを接続して使用する場合、マイクの音量調節はサウンドユーティリティの「マイク」タブで行います。




※「マイク」タブは、マイク接続時のみ表示されます。

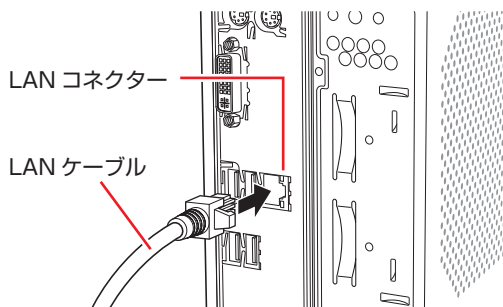
録音時に音量を調節しても音が小さいときは、 をクリックしてマイクブーストのつまみを右へスライドさせ、音量を上げてください。

ネットワーク機能を使う

本機のマザーボード上には、1000 Base-T/100 Base-TX/10 Base-Tに対応したネットワーク機能（LAN 機能）が搭載されています。

ネットワーク機能を使用すると、ネットワークを構築したり、インターネットに接続したりすることができます。

ネットワーク機能を使用する場合は、本機背面の LAN コネクタ（) に市販の LAN ケーブルを接続します。




ネットワークの構築

ネットワークを構築するには、ほかのコンピューターと接続するために、LAN ケーブルやハブ（サーバー）などが必要です。そのほかに、Windows 上でネットワーク接続を行うためには、プロトコルの設定なども必要になります。

ネットワークの構築方法は、ネットワーク機器のマニュアルなどをご覧ください。

！ 制限

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態になると、省電力状態からの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。
このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
 - 再起動する
 - 省電力状態に移行しないように設定する
 p.69 「時間経過で移行させない」
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行すると、正常に通常の状態へ復帰できない場合があります。
- 本機のネットワーク機能では、リピーター・ハブを使用できません。

インターネットへの接続

インターネットへ接続する場合は、 p.60 「インターネットに接続する」をご覧ください。

そのほかの機能

本機では、ネットワークを構築して接続環境を整えると、次のような機能を使用できます。

WakeUp On LAN

本機では、WakeUp On LAN 機能を使用することができます。WakeUp On LAN とは、ネットワークからの信号により本機を起動させる機能です。



制限

シャットダウン状態からの起動は、Windows を正常に終了した状態でないと行えません。

WakeUp On LAN 機能を有効にする

購入時、本機の WakeUp On LAN 機能は無効に設定されています。WakeUp On LAN を行う場合は、次の設定が必要です。

シャットダウン状態から起動させたい場合

- BIOS の設定変更

スリープ、休止状態から起動させたい場合


- BIOS の設定変更
- ネットワークアダプターの設定変更

BIOS の設定変更

「BIOS Setup ユーティリティ」の次の項目を有効にしてください。

「Power」メニュー画面－「APM Configuration」

「Power On By PCIE Devices」：Enabled（有効）

 p.91 「BIOS Setup ユーティリティの操作」

 p.105 「Power メニュー画面」

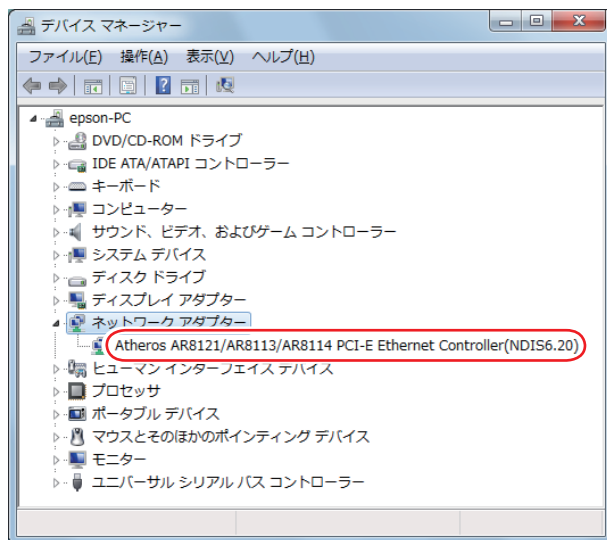
ネットワークアダプターの設定変更

ネットワークアダプターの設定を変更する方法は、次のとおりです。

- 1** 「スタート」－「コントロールパネル」－「システムとセキュリティ」－「デバイスマネージャー」をクリックします。

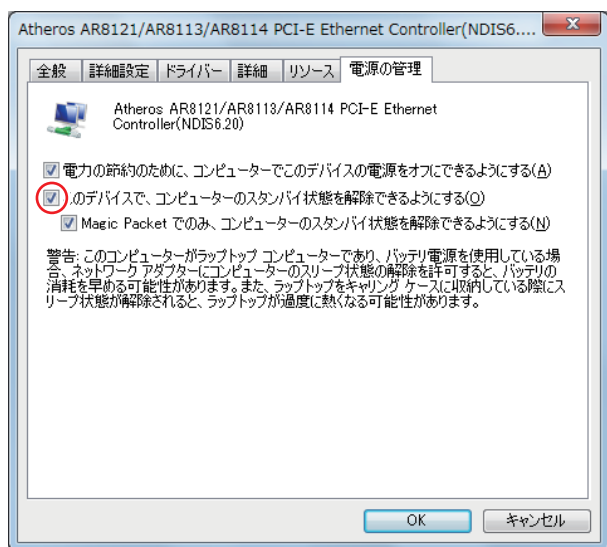



- 2** 表示された「デバイスマネージャー」の「ネットワークアダプター」をダブルクリックし、「Atheros AR8121・・・」をダブルクリックします。



- 3** 表示された「Atheros AR8121・・・」画面の「電源の管理」タブをクリックします。

- 4** 「このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」にチェックを入れて [OK] をクリックします。



- 5**  をクリックし、開いている画面をすべて閉じます。これで、設定は完了です。



参考

Wakeup On LAN を設定している場合

BIOS の設定で、Wakeup On LAN (Power On By PCIE Devices) が有効に設定されているときに、電源コードを抜き、再び接続するとコンピューターが一瞬起動する場合があります。これは、不具合ではありません。

リモートブート

リモートブートを使用すると、ネットワークを介して、あらかじめセットアップされたサーバー上から Windows をインストールすることができます。

インターネットに接続する

インターネットを利用するには、プロバイダーとの契約が必要です。プロバイダーと契約すると、メールアドレスやパスワードなどインターネットへの接続に必要な情報と、接続手順が記載された説明書がプロバイダーより提供されます。説明書に従って接続作業を行ってください。



参考

再インストール後のインターネット接続

Windows を再インストールした場合は、インターネットに接続するための設定作業が再度必要になります。プロバイダーからの説明書はなくさないように大切に保管してください。

インターネットや電子メールを利用する

本機では、次のソフトウェアを使用してインターネットや、電子メールを利用します。

- ホームページの閲覧：Internet Explorer（インターネットエクスプローラー）
- 電子メールの利用：Windows Live メール



参考

Office をインストールしているときは

Office をインストールしている場合は、電子メールソフト Outlook を使用することもできます。Outlook の使用方法は、Outlook のヘルプをご覧ください。

各ソフトウェアの起動方法

各ソフトウェアの起動方法は、次のとおりです。

- Internet Explorer
デスクトップ左下のアイコンから起動します。



<Internet Explorer アイコン>

- Windows Live メール
次の場所から起動します。
[スタート] - [すべてのプログラム] - [Windows Live] - [Windows Live メール]

各ソフトウェアの使用法

各ソフトウェアの使用法は、次をご覧ください。

「各ソフトウェアのヘルプ」



「PC お役立ちナビ」 - 「お役立ち」

Internet Explorer で情報バーが表示されたら

Internet Explorer は、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer 使用時、情報バーに警告が表示されたら、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処をしてください。



<画面はイメージです>

Internet Explorer の便利な追加機能

本機には Internet Explorer の便利な機能として、次のソフトウェアが添付されています。

- JWord

Internet Explorer のアドレスバーにキーワードを入力して、検索を行うことができます。

- goo スティック

Internet Explorer ツールバー上の「goo」検索ボックスにキーワードを入力して、検索を行うことができます。

- マカフィー・サイトアドバイザープラス

Web サイトの安全性評価を表示するツールです。「マカフィー・サイトアドバイザープラス」を使用する場合は、Internet Explorer のツールバー上の「McAfee SiteAdvisor」ボタンからユーザー登録を行ってください。

セキュリティソフトウェア「マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版」側でユーザー登録を行った場合、登録は不要です。

インターネットを使用する際のセキュリティー対策

本機には、インターネットに接続した際に起こりうる、コンピューターウイルス感染や不正アクセスなどの危険に対する、セキュリティー機能が備えられています。

ここでは、このセキュリティー機能について説明します。インターネットに接続する場合は、コンピューターの安全を守るため、必ずセキュリティー対策を行ってください。

Windows Update

「Windows Update」は、本機の Windows の状態を確認し、Windows の更新プログラムをインターネットからダウンロードしてインストールする機能です。

Windows を最新の状態にするため、Windows Update を行ってください。

自動更新の設定

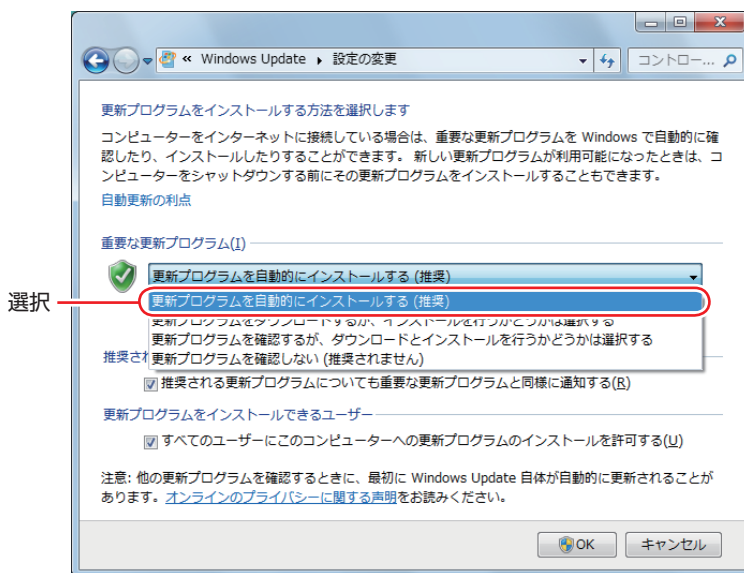
本機を使用する際は、自動で Windows Update が行われるように、自動更新の設定をすることをおすすめします。

自動更新の設定がされていると、更新プログラムのダウンロードとインストールが自動で行われます。

Windows のセットアップ中に「コンピューターの保護と…」画面で「推奨設定を使用します」を選択した場合は、自動更新の設定がされています。そのまま使用してください。

自動更新の設定は、次の場所で行います。

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Windows Update」 - 「設定の変更」



セキュリティソフトウェア

インターネットに接続する場合は、コンピューターウイルス感染や不正アクセスを防ぐため、セキュリティソフトウェアを必ず使用してください。

マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版を使う

本機には、ファイアウォールやウイルス対策機能を備えた「マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版」がインストールされています。詳しくは、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルびゅうわ」 - 「セキュリティソフトウェアをご使用の前に」



サポート情報

正しく動作しない場合など、マカフィー製品に関するご相談については、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルびゅうわ」 - 「セキュリティソフトウェアをご使用の前に」

市販のセキュリティソフトウェアを使う

市販のセキュリティソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版をアンインストール(削除)してください。アンインストール方法は、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルびゅうわ」 - 「セキュリティソフトウェアをご使用の前に」


Webフィルタリングソフトウェア

Web フィルタリングとは、インターネット上の有害なサイトを表示しないようにするための技術です。Web フィルタリングを行うと、有害サイトへのアクセスを自動的に制限することができます。

i-フィルター 30 日版を使う

本機には、Web フィルタリング機能を持つ「i-フィルター 30 日版」が添付されています。家庭内でお子様がコンピューターを使用する際に、有害なサイトへアクセスするのを制限したいときなどは、i-フィルター 30 日版を使用することをおすすめします。

i-フィルター 30 日版のインストール

インストール方法は、 p.126 「i-フィルター 30 日版のインストール」をご覧ください。市販の Web フィルタリングソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、i-フィルター 30 日版はインストールしないでください。

i-フィルター 30 日版の使用方法


i-フィルター 30 日版をインストールすると、フィルター設定が有効になり、有害サイトにアクセスしようとする時、自動的にブロックされます。初期設定では、フィルター強度は中学生向けです。フィルター強度は、使用者別に設定できます。必要に応じて、「フィルタリング設定」画面で設定を変更してください。「フィルタリング設定」画面の表示方法は、次のとおりです。

1 デスクトップ上の「i-フィルター」アイコンをダブルクリックします。



<i-フィルターアイコン>

「i-フィルター・・・」画面が表示された場合は、ユーザー登録が完了していません。ユーザー登録を行ってください。

 p.127 「i-フィルター 30 日版のユーザー登録」

2 「管理パスワードの入力」画面が表示されたら、管理パスワードを入力して [OK] をクリックします。

3 i-フィルター のトップページが表示されたら、「フィルタリング設定」をクリックします。

「フィルタリング設定」画面が表示されます。

i-フィルター 30 日版の詳しい使用方法は、ヘルプをご覧ください。



参考

ファイアウォール機能による警告画面が表示された場合は

セキュリティーソフトウェアのファイアウォール機能を有効にしている場合、インターネット閲覧時に「i-フィルター 30 日版」でのインターネットアクセスに関する警告が表示されることがあります。

この場合は、「i-フィルター 30 日版」の使用を許可してください。

i-フィルター 30 日版の利用期限

i-フィルター 30 日版の利用期限は、ユーザー登録後 30 日間です。利用期限が過ぎると、フィルター機能が停止します。

継続して利用する場合

継続利用の手続き（有償）をオンラインで行ってください。

 p.66 「i-フィルター 30 日版のサポート」




制限

本機に添付の i-フィルター 30 日版は、「i-フィルター更新パック」で継続利用手続きを行うことはできません。

継続して利用しない場合

i-フィルター 30 日版のアンインストールを行ってください。

i-フィルター 30 日版のアンインストール方法は、デジタルアーツ社のホームページの「よくある質問」をご覧ください。

 p.66 「i-フィルター 30 日版のサポート」

i-フィルター 30日版のサポート

i-フィルター 30日版のサポートは、デジタルアーツ社で行います。

よくあるご質問と回答・サポート窓口・継続利用手続き・サービスページなどについては、デジタルアーツ社の次のホームページをご覧ください。

なお、このサポート情報は、予告なく変更される場合があります。



<http://www.daj.jp/cs/support.htm>

省電力機能

本機を使用していない間、省電力状態にしておくと、電力の消費を抑えることができます。

省電力状態へ移行する際の注意

省電力状態に移行する際には、次のような注意事項があります。移行する前に確認して正しくお使いください。

- 省電力状態に移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書やデータなど）は保存しておいてください。
- 次のような場合は、省電力状態に移行しないことがあります。
 - ・周辺機器を接続している
 - ・ソフトウェアを起動している
- 次のような場合に省電力状態に移行すると、不具合が発生する可能性があります。省電力状態に移行しないように設定してください。
 p.69 「時間経過で移行させない」
 - ・光ディスクメディアへの書き込み時：書き込みに失敗する可能性
 - ・サウンド機能で録音、再生時：録音や再生が途中で切断される可能性
 - ・外部接続記憶装置（USB FDD など）へのデータ書き込み時：データ破損の可能性
 - ・FAX モデムやネットワーク機能を使っでの通信時：通信が切断される可能性
 - ・動画再生時：コマ落ちしたりソフトウェアの動作が遅くなるなどの現象が発生する可能性
- 次のような場合は、省電力状態から正常に復帰できないことがあります。
 - ・省電力状態で周辺機器などの抜き差しを行った場合
 - ・ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行した場合
- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。
このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。
 - ・再起動する
 - ・省電力状態に移行しないように設定する
 p.69 「時間経過で移行させない」

省電力状態の種類

省電力状態には、主に次のようなものがあります。

- ディスプレイの電源を切る
省電力の効果はスリープより低いですが、通常の状態にすぐに復帰できます。
- スリープ
作業中の内容を一時的に保存し、コンピューターを低電力の状態にします。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが緑色に点滅します。通常の状態へは数秒で復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。

スリープには次の2つがあり、作業中の内容の保存方法が異なります。

- ハイブリッドスリープ（初期値）
スリープと休止状態を合わせた状態です。
作業中の内容はメモリーとHDDの両方に保存されます。
- スリープ
作業中の内容はメモリーのみに保存されます。

●休止状態

作業内容をHDDに保存し、コンピューターを低電力の状態にします。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが消灯します。シャットダウン状態からよりも早く通常の状態へ復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。


休止状態を有効にする

本機では、休止状態が無効に設定されています。休止状態を有効にするには設定を行ってください。



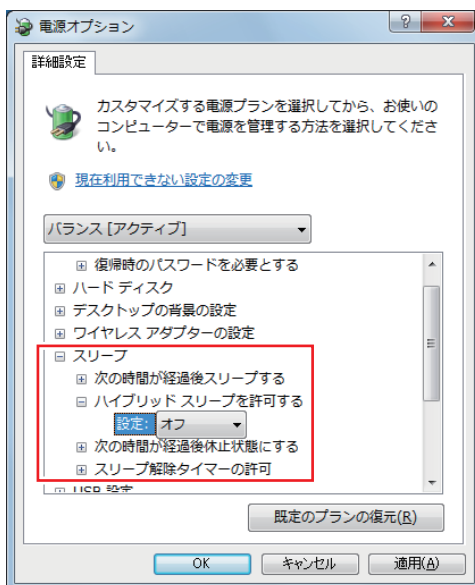
制限

休止状態を有効にすると、スリープ状態がハイブリッドスリープからスリープに変わります。

 p.67 「省電力状態の種類」

休止状態を有効にする方法は次のとおりです。

- 1** [スタート] – 「コントロールパネル」 – 「システムとセキュリティ」 – 「電源オプション」で、休止状態を有効にしたいプランの「プラン設定の変更」をクリックし、「詳細な電源設定の変更」をクリックします。
- 2** 「スリープ」 – 「ハイブリッドスリープを許可する」を「オフ」に設定します。
- 3** [OK] をクリックします。



省電力状態に移行する方法

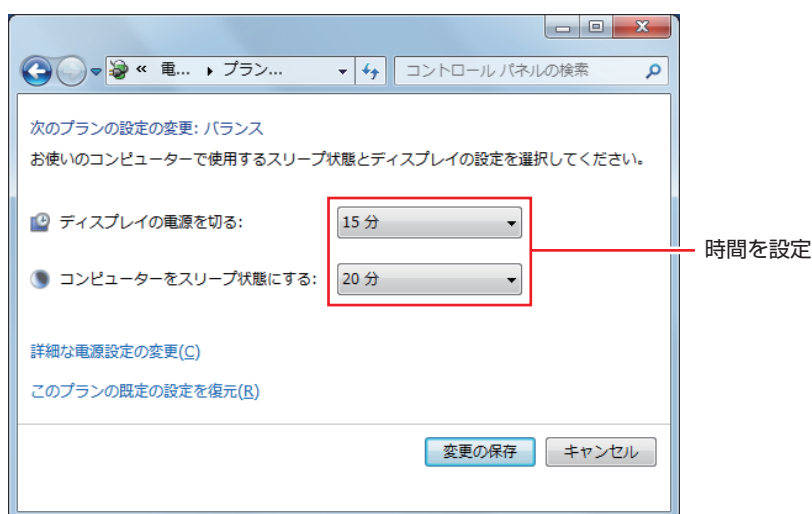
本機を省電力状態にするには、時間経過で移行する方法と直ちに移行する方法があります。

時間経過で移行する

コンピューターを操作しない状態で時間が経過すると、本機は自動的に省電力状態に移行します。初期値ではまずディスプレイの電源が切れ、そのまま操作しないと続いてコンピューターがスリープになります。

省電力状態に移行する（ディスプレイの電源を切る、コンピューターをスリープ状態にする）までの時間は、次の場所を変更することができます。

【スタート】－「コントロールパネル」－「システムとセキュリティ」－「電源オプション」－各プランの「プラン設定の変更」



時間経過で移行させない

光ディスクメディアに書き込む場合などは、時間経過で省電力状態に移行する設定を無効にします。時間をすべて「なし」に設定してください。

直ちに移行する

次の操作をすると、本機はすぐに省電力状態に移行します。

操作	省電力状態の種類
【スタート】－ [▷] から項目を選択する	スリープ、休止状態 *

* 購入時は表示されません。

電源ランプの表示

本機の電源の状態は、電源ランプ () で確認できます。

電源の状態	電源ランプの表示
通常	点灯 (緑色)
ディスプレイの電源切	点灯 (緑色)
スリープ	点滅 (緑色)
休止状態	消灯
シャットダウン (電源切)	消灯

省電力状態からの復帰方法

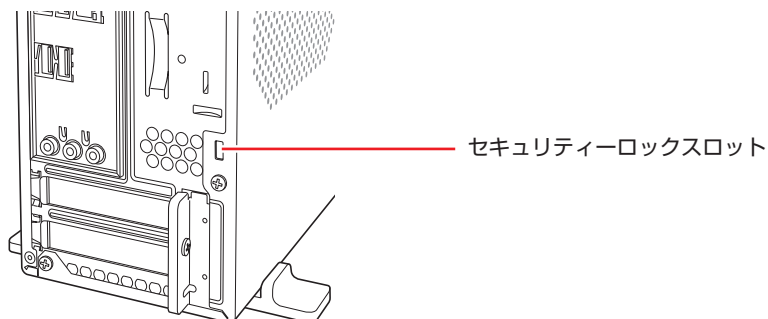
本機を省電力状態から通常の状態に復帰させる方法は、次のとおりです。

省電力状態	電源ランプの表示	復帰方法
ディスプレイの電源切	点灯 (緑色)	マウスやキーボードを操作する
スリープ	点滅 (緑色)	<ul style="list-style-type: none">● 電源スイッチを押す● USB キーボードを操作する● USB マウスでクリックする● PS/2 キーボードの Ctrl + Esc を押す (BIOS の設定が必要です  p.35)
休止状態	消灯	<ul style="list-style-type: none">● 電源スイッチを押す● PS/2 キーボードの Ctrl + Esc を押す (BIOS の設定が必要です  p.35)

その他の機能

セキュリティーロックスロット

本機背面には、「セキュリティーロックスロット」が搭載されています。ここには、専用の盗難抑止ワイヤー（セキュリティーロック）を取り付けます。



当社では、専用の盗難抑止ワイヤー（セキュリティーロック）を取り扱っています。詳しくは当社のホームページをご覧ください。
ホームページのアドレスは、次のとおりです。

<http://shop.epson.jp/>



2

装置の増設・交換

装置の増設・交換方法について説明します。

増設・交換できる装置	74
作業時の注意	75
増設・交換の準備作業	76
メモリーの装着	79
拡張ボードの装着	84

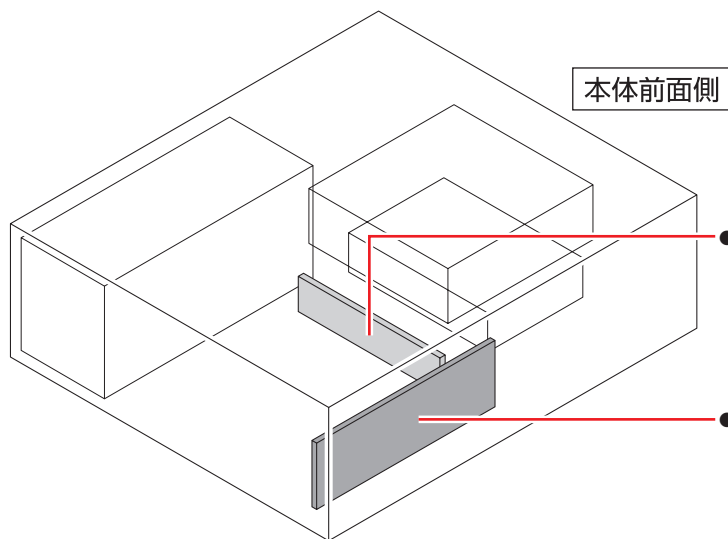
増設・交換できる装置

本機では、次の装置を増設・交換することができます。





制限

メモリーや拡張ボード以外の装置をご自身で増設・交換することはできません。




本体前面側

- メモリスロット
メモリスロットに装着されているメモリー（1枚）を交換できます。
 p.79「メモリーの装着」
- 拡張スロット
拡張スロットには、PCI仕様の拡張ボードを1枚装着できます。
 p.84「拡張ボードの装着」

アップグレードサービスについて

当社では、次の装置のアップグレードサービス（交換）を有償で行っています。

- メモリー : 交換
- HDD : 交換
- 光ディスクドライブ : 交換

アップグレードサービスをご希望の場合は、カスタマーサービスセンターにご相談ください。カスタマーサービスセンターの連絡先は、 別冊『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。

作業時の注意

本機内部に装置を装着する場合は、必ず次の点を確認してから作業を始めてください。



- 作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや感電・火災の原因となります。



- 装置の増設・交換は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- メモリーの切り欠きとメモリスロット内の仕切りは、確実に合わせてください。メモリーの向きを間違えると、正しく装着できません。間違った状態で使用すると、発煙や発火のおそれがあります。



- 本機から周辺機器を必ず取り外してください。
- 取り付けを行う際は、取り付ける装置のマニュアルを必ず参照してください。
- 本機内部のケースや基板には突起があります。装着作業の際には、けがをしないよう注意してください。
- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。メモリーや本機に静電気が流れると、基板上の部品が破損するおそれがあります。
- 本機内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- メモリーや拡張ボードを持つときは、端子部や素子に触れないでください。破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 固定具が確実に閉じていない場合、メモリーがしっかりと固定されていない可能性があります。再度、メモリーの向きを確認し、固定具が確実に閉じるまで、しっかりとメモリーを押し込んでください。
- 装置は落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- メモリーや拡張ボードの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

増設・交換の準備作業

装置の増設・交換を行う場合は次の準備作業が必要です。各装置の増設・交換手順に従って、必要に応じて作業を行ってください。



作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。
電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。

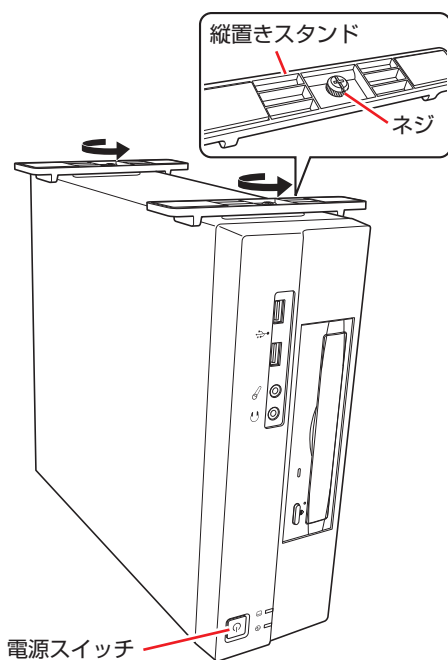
本体カバーの取り外し・取り付け

本機の内部に装置を装着する場合は、本体カバーを外してください。

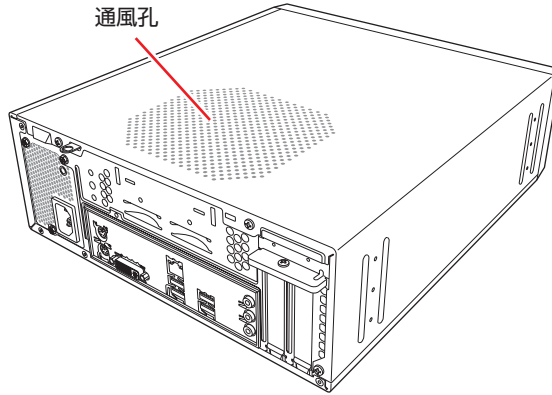
取り外し

本体カバーの取り外し方法は次のとおりです。

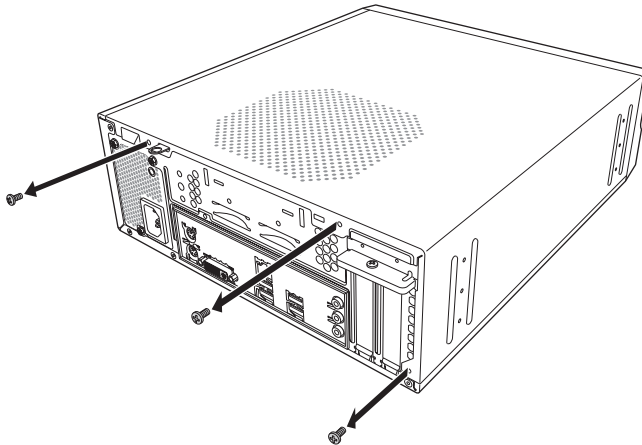
- 1** コンピューター本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで 10 分以上放置してください。
- 2** コンピューター本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本機を縦置きで使用している場合、電源スイッチ側を下にして置き、ネジをゆるめてから縦置きスタンドを取り外します。



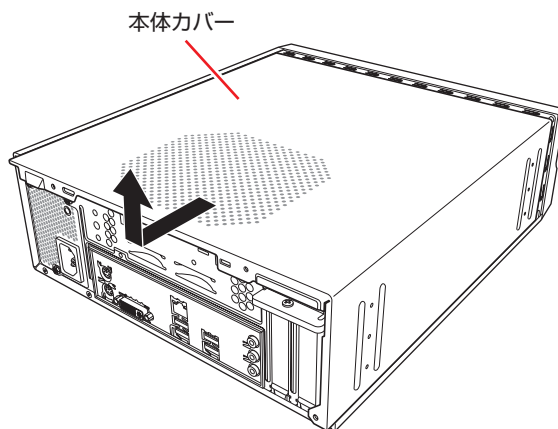
- 4** 通風孔がある側面が上になるように、本体を横置きします。



- 5** 本機背面のネジ (3本) を外します。



- 6** 本体カバーを背面側にスライドさせ、上へ持ち上げて取り外します。

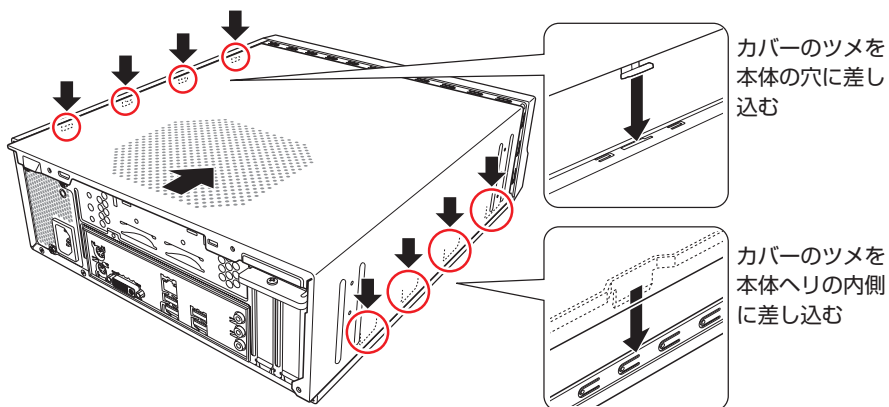


取り付け

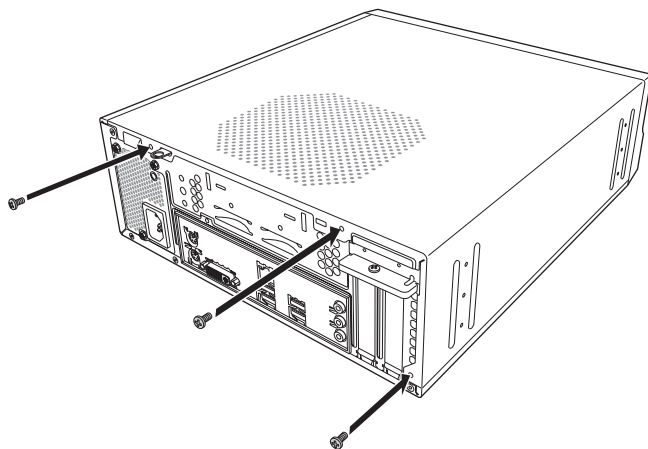
本体カバーの取り付け方法は次のとおりです。

1 本体カバーを取り付けます。

- 1 本体カバーを本体にかぶせます。
- 2 本体カバーを本体前面側にスライドさせます。



2 ネジ（3本）で本機背面と本体カバーを固定します。



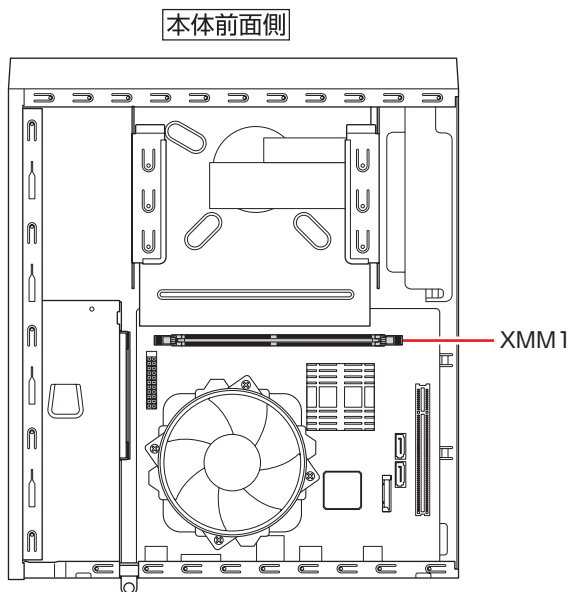
3 縦置きで使用する場合は、縦置きスタンドを取り付けます。

4 コンピューターを使用できるように取り外したケーブル類（電源コードなど）を本機に接続します。

これで本体カバーの取り付けは完了です。

メモリーの装着

本機で使用可能なメモリーの仕様と、メモリーの交換方法について説明します。
本機にはメモリースロットが1つあり、メモリーを交換することが可能です。
マザーボード上のメモリースロットの位置は、次のとおりです。



メモリーの仕様

本機で使用可能なメモリーは、次のとおりです。


- PC2-6400 (DDR2-800 SDRAM 使用)
- メモリー容量 1GB、2GB
- Non ECC
- 240 ピン
- CL=5

最新メモリー情報


今後、新しいメモリーを取り扱う場合があります。
本機で使用可能な最新のメモリーは、当社ホームページでご確認ください。
ホームページのアドレスは、次のとおりです。

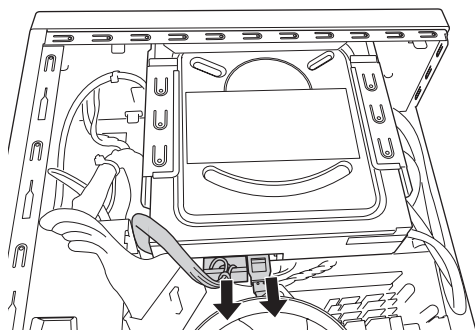
<http://shop.epson.jp/>

メモリーの交換

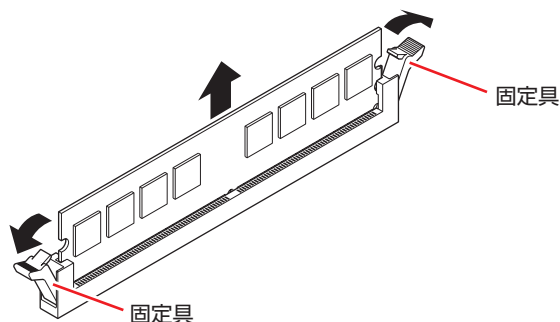
作業を始める前に  p.75 「作業時の注意」を必ずお読みください。
作業は、本機を横置きにして行ってください。

メモリーの交換方法は次のとおりです。

- 1** コンピューター本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで 10 分以上放置してください。
- 2** コンピューター本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。
 p.76 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4** 作業の妨げになる光ディスクドライブのケーブル類を一旦取り外します。



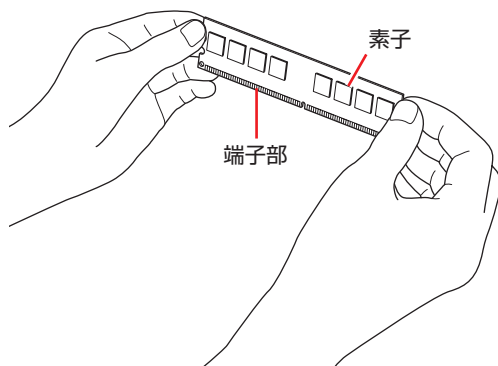
- 5** メモリーの両端を固定している固定具を開きます。



- 6** メモリーが外れたら静かに取り外します。
取り外したメモリーは、静電気防止袋に入れて保管してください。

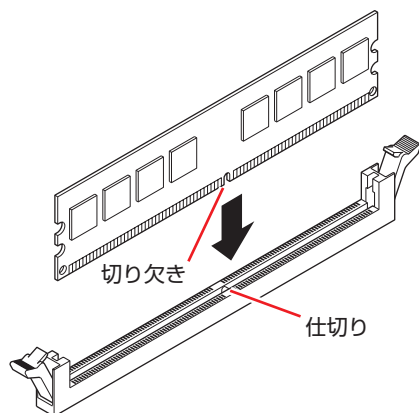
7 取り付けるメモリーを静電防止袋から取り出します。

メモリーの端子部や素子に触れないように注意します。



8 メモリスロットにメモリーを差し込みます。

- ① メモリーの切り欠きをメモリスロット内の仕切りに合わせます。

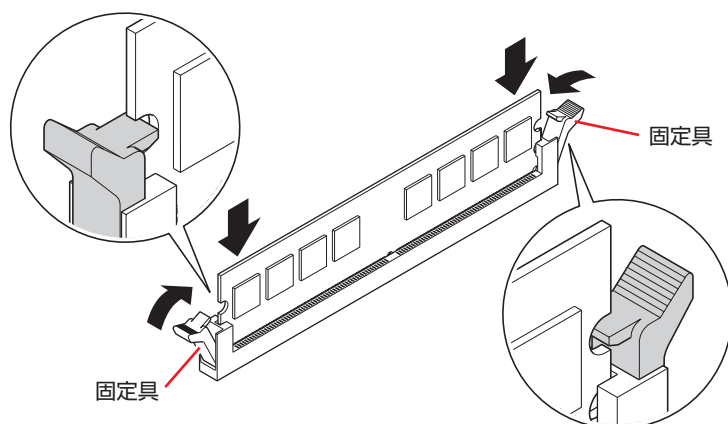


注意

メモリーの切り欠きとメモリスロット内の仕切りは、確実に合わせてください。メモリーの向きを間違えると、正しく装着できません。間違った状態で使用すると、発煙や発火のおそれがあります。





- ② メモリーを押し込むと、カチッと自動的に固定具が閉じてメモリーが固定されます。
メモリスロット両端の固定具が確実に閉じて、メモリーが固定されたことを必ず確認してください。



！ 制限

固定具が確実に閉じていない場合、メモリーがしっかりと固定されていない可能性があります。
再度、メモリーの向きを確認し、固定具が確実に閉じるまで、しっかりとメモリーを押し込んでください。

- 9 ④ で外した光ディスクドライブのケーブル類を元どおりに取り付けます。
- 10 本体カバーを取り付けます。
 p.76 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 11 コンピューターを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。
- 12 コンピューターの電源を入れて、メモリーの容量を確認します。
 p.83 「メモリー交換後の作業」

メモリー交換後の作業

メモリーを交換したら、メモリーが正しく取り付けられているかどうか、必ずメモリー容量を確認します。

メモリー容量の確認方法は次のとおりです。

- 1** コンピューターの電源を入れて「EPSON」と表示されたら、すぐにキーボードの **Delete** を「トン、トン、トン…」と連続的に押して「BIOS Setup ユーティリティ」を起動します。

 p.91 「BIOS Setup ユーティリティの操作」

- 2** 「Main」メニュー画面－「System Information」－「System Memory」－「Installed Memory」に表示されているメモリー容量を確認します。

- 3** **F10** を押して BIOS Setup ユーティリティを終了します。

 p.95 「BIOS Setup ユーティリティの終了」

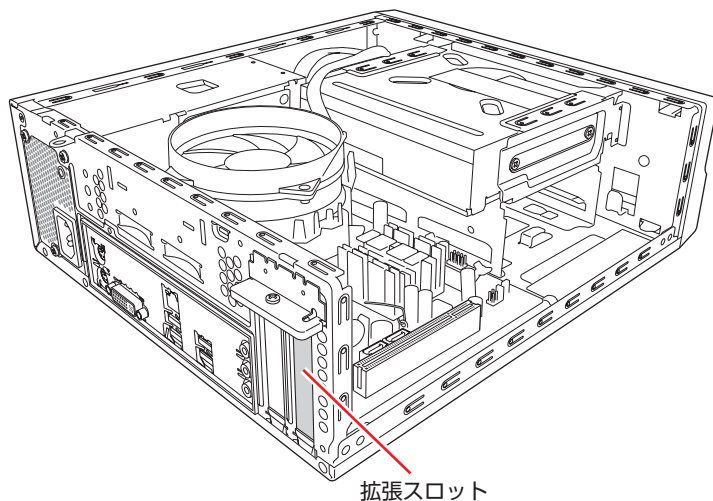
2 でメモリー容量が正しく表示されない場合は、メモリーが正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、メモリーを正しく取り付けなおしてください。

拡張ボードの装着

拡張スロットの仕様と、拡張ボードの取り付け・取り外し方法について説明します。


拡張スロットの仕様

本機には拡張スロットが1つあります。スロットの仕様は次のとおりです。



コネクタ仕様	装着可能な拡張ボードサイズ
PCI	ボード長：170mm × ボード幅：64mm まで

拡張ボードの取り付け・取り外し

作業を始める前に  p.75「作業時の注意」と拡張ボードのマニュアルを必ずお読みください。作業は、本機を横置きに行ってください。

取り付け

拡張ボードの取り付け方法は次のとおりです。

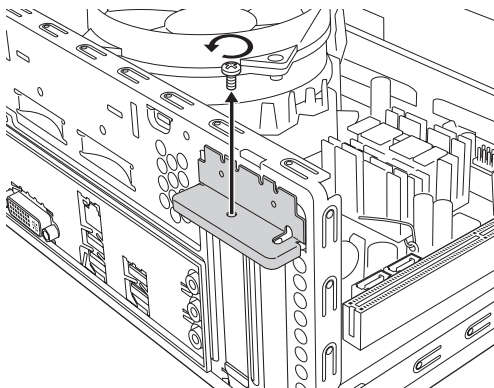
- 1** コンピューター本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピューター本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。

3 本体カバーを取り外します。

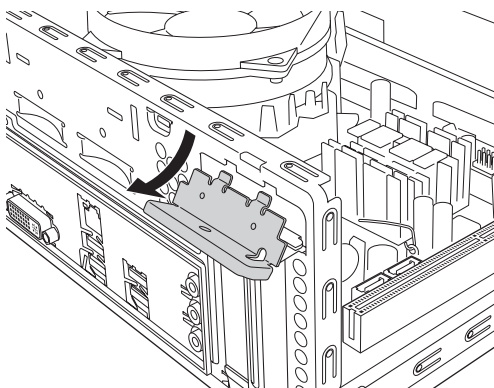
 p.76 「本体カバーの取り外し・取り付け」 - 「取り外し」

4 スロットカバーを外します。

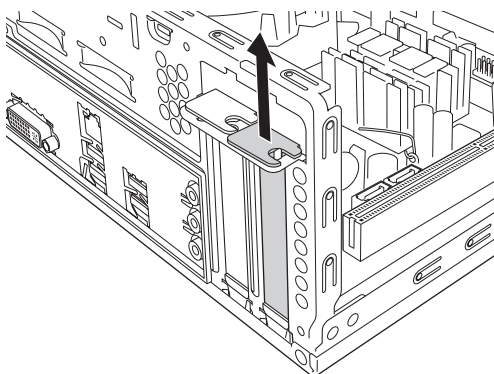
1 固定ネジを外します。



2 スロットカバー固定金具を取り外します。



3 スロットカバーを矢印の方向に引き抜きます。

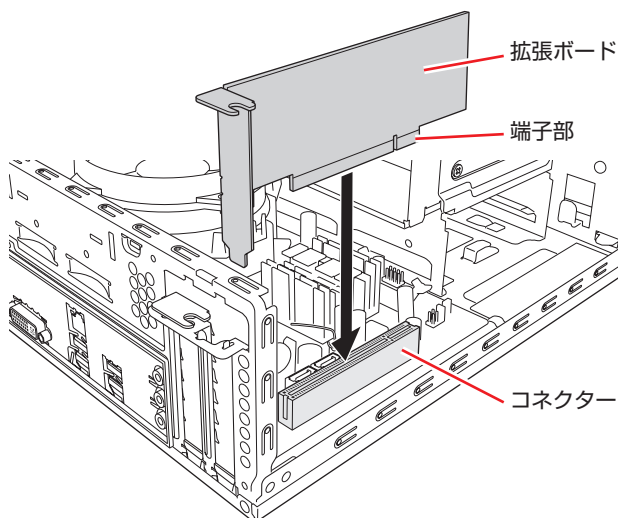


外したスロットカバーは、大切に保管してください。
拡張ボードを外したあと、別の拡張ボードを装着しない場合は、本体内部にホコリなどが入らないように、再びスロットカバーを装着します。



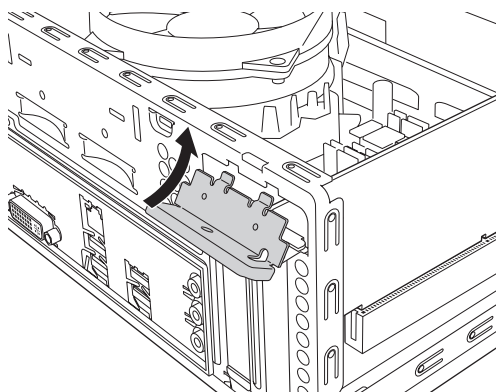
5 拡張ボードを拡張スロットに差し込みます。

拡張ボードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていないことを確認し、拡張ボードをゆっくり押し込みます。

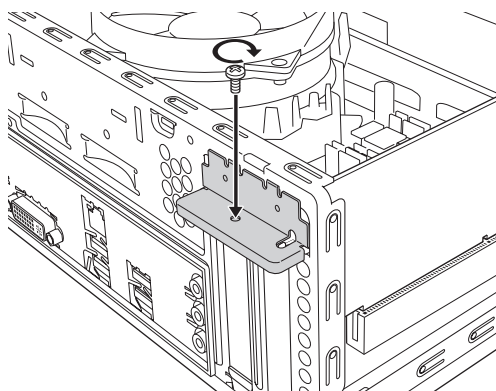


6 拡張ボードを固定します。

- 1 スロットカバー固定金具を取り付けます。




- 2 ネジで固定します。




7 本体カバーを取り付けます。

 p.78 「本体カバーの取り外し・取り付け」 – 「取り付け」

8 コンピューターを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

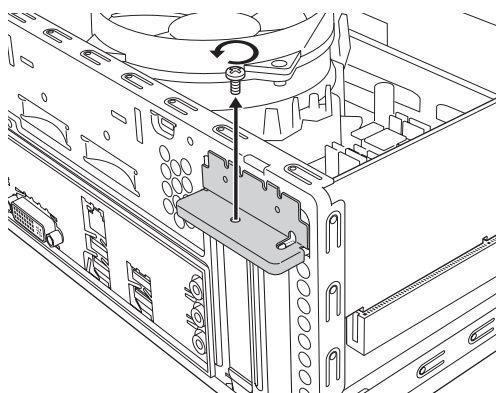
続いて、 p.88 「拡張ボードの取り付け・取り外し後の作業」を行います。

取り外し

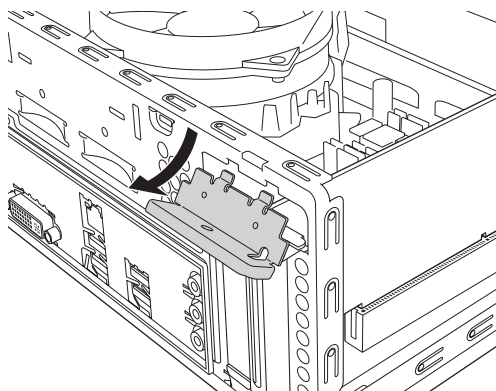
拡張ボードの取り外しは、 p.85 「取り付け」の **4** ~ **6** を次の手順に読み替えて行ってください。

1 拡張ボードを取り外します。

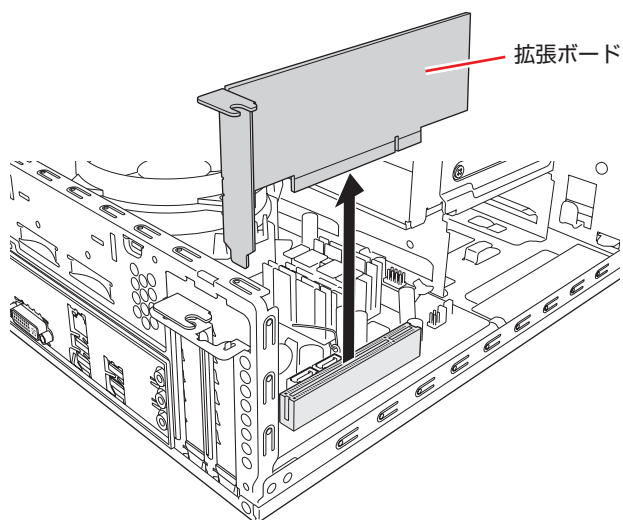
① 固定ネジを外します。



② スロットカバー固定金具を取り外します。



- ③ 拡張ボードを取り外します。



- ② 拡張ボードを取り外したスロットに別の拡張ボードを装着しないときは、スロットカバーを取り付けておきます。

拡張ボードの取り付け・取り外し後の作業

拡張ボードによっては、取り付け・取り外しのあとに作業が必要な場合があります。詳しくはボードのマニュアルをご覧ください。

3

BIOS の設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

BIOS の設定を始める前に.....	90
BIOS Setup ユーティリティの操作.....	91
BIOS Setup ユーティリティの設定項目.....	102

BIOS の設定を始める前に



制限

当社製以外の BIOS を使用すると、Windows が正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外の BIOS へのアップデートは絶対に行わないでください。

BIOS は、コンピューターの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、マザーボード上に ROM として搭載されています。

BIOS の設定は「BIOS Setup ユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOS の設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合
- マザーボード上の機能を有効 / 無効にする場合

BIOS の設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。


BIOS Setup ユーティリティで変更した内容は CMOS RAM と呼ばれる特別なメモリー領域に保存されます。このメモリーはリチウム電池によってバックアップされているため、本機の電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。



参考

リチウム電池の寿命

BIOS Setup ユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。本機の使用状況によって異なりますが、本機のリチウム電池の寿命は約3年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。


 p.164 「リチウム電池の交換」

動作が不安定になったら

設定値を変更して本機の動作が不安定になった場合は、次の方法で設定値を戻すことができます。

- 購入時の設定と変更後の設定をあらかじめ記録しておき、手動で戻す。

万一に備え、設定値を記録しておくことをおすすめします。

 p.102 「BIOS Setup ユーティリティの設定項目」

- 初期値や、前回保存した設定値に戻す。

 p.96 「設定値を元に戻す」

BIOS Setup ユーティリティの操作

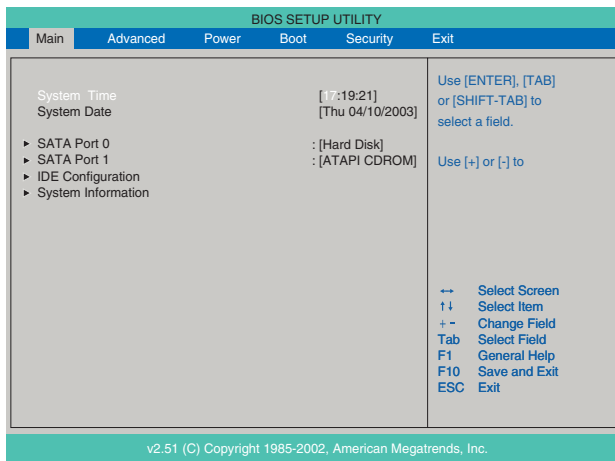
ここでは、「BIOS Setup ユーティリティ」の次の操作方法について説明します。

- 基本操作（起動、操作、終了）
- 設定値を元に戻す
- パスワードを設定する
- HDD アクセス制限
- 起動（Boot）デバイスの順番を変更する

BIOS Setupユーティリティの起動

本機の電源を入れる前に、キーボードの **[Delete]** の位置を確認してください。2 では、すばやく **[Delete]** を押す必要があります。

- 1** シャットダウン状態から本機の電源を入れます。
すでに Windows が起動している場合は、再起動します。
- 2** 本機の起動直後、黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐにキーボードの **[Delete]** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。
Windows が起動してしまった場合は、再起動して **2** をもう一度実行してください。
- 3** 「BIOS Setup ユーティリティ」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。



< BIOS Setup ユーティリティ画面（イメージ） >

仕様が前回と異なるとき

本機の状態が、前回使用していたときと異なる場合は、本機の電源を入れたときに、次のメッセージが表示されることがあります。

CMOS Checksum Bad
Press F1 to Run SETUP

このメッセージが表示されたら **[F1]** を押して BIOS Setup ユーティリティを起動します。通常は、そのまま「Exit & Save Changes」を実行して BIOS Setup ユーティリティを終了します。

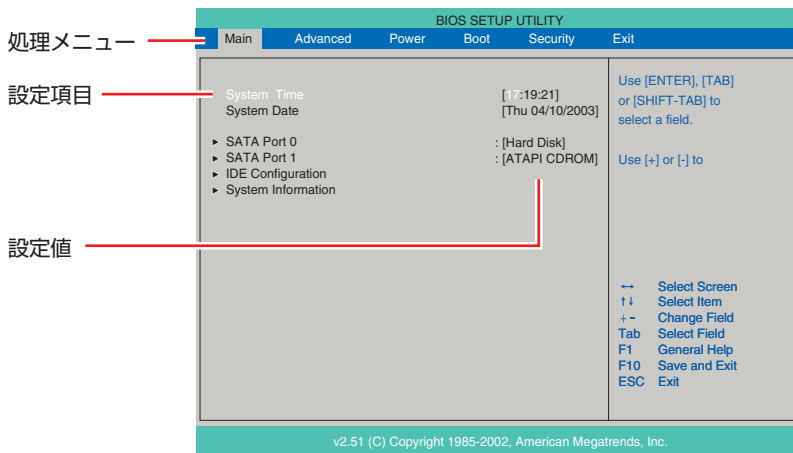
 p.95 「BIOS Setup ユーティリティの終了」

BIOS Setupユーティリティの操作


「BIOS Setup ユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

画面の構成

BIOS Setup ユーティリティを起動すると次の画面が表示されます。この画面で設定値を変更することができます。



<メニュー画面>

ここで説明している画面は、イメージです。実際の設定項目とは異なります。各メニュー画面と設定項目の説明は、 p.102 「BIOS Setup ユーティリティの設定項目」をご覧ください。

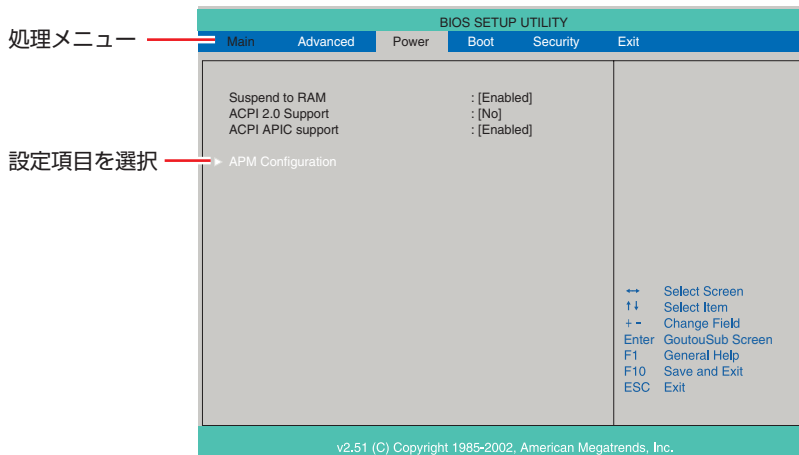
操作方法

BIOS Setup ユーティリティの操作方法是次のとおりです。

- 1 処理メニューで設定を変更したい項目のあるメニュー画面に移動し、設定項目を選択します。

→ ← でメニュー間を移動します。

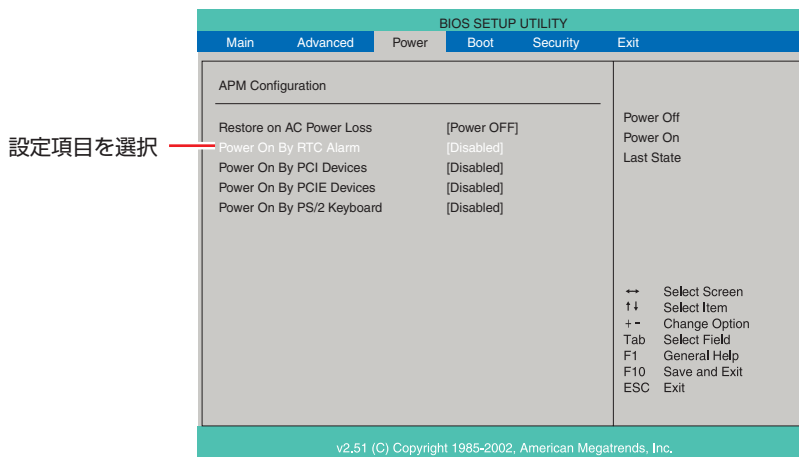
↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。



<メニュー画面>

▶ のある項目の場合

▶ のある項目の場合、↵ を押すとサブメニュー画面が表示されます。↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。



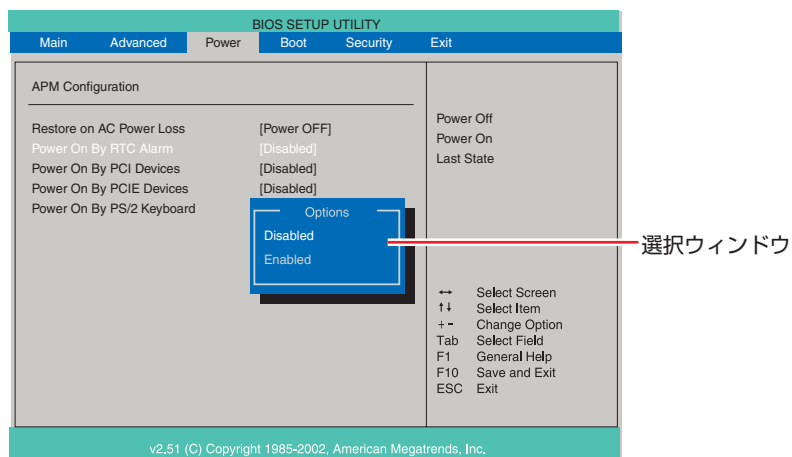
<サブメニュー画面>

サブメニュー画面から戻るには Esc を押します。



2 設定値を変更します。

← を押して選択ウィンドウを表示し、↑ ↓ で値を選択し ← で決定します。



キー操作

BIOS の画面を操作するときは、次のキーを使用します。

キー	操作できる内容
Esc	<ul style="list-style-type: none">変更した内容を破棄し、終了します。サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
↑, ↓	設定を変更する項目を選択します。
←, →	処理メニューを選択します。
-, +	項目の値を変更します。
↵	<ul style="list-style-type: none">メニュー画面中の ▶ のある項目で押すとサブメニュー画面を表示します。選択項目の選択ウィンドウを表示します。設定値を選択します。
F5	全設定項目の値を、初期値に変更します。
F10	変更した設定値を保存して終了します。

BIOS Setupユーティリティの終了

「BIOS Setup ユーティリティ」を終了するには、次の2つの方法があります。

Exit & Save Changes (変更した内容を保存し終了する)

変更した設定値を保存して、BIOS Setup ユーティリティを終了します。

- 1 **F10** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Save configuration changes and exit setup? [OK] [Cancel]

- 2 [OK] を選択し、**↵** を押します。

Exit & Discard Changes (変更した内容を破棄し終了する)

変更した設定値を保存せずに、BIOS Setup ユーティリティを終了します。

- 1 **Esc** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Discard Changes and exit setup? [OK] [Cancel]

- 2 [OK] を選択し、**↵** を押します。

設定値を元に戻す

「BIOS Setup ユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万一、本機の動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setup ユーティリティの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Setup Defaults (初期値に戻す)

BIOS Setup ユーティリティの設定を初期値に戻す方法は、次のとおりです。

※「Boot」メニュー画面の「Security」項目を初期値に戻すことはできません。

- 1 **F5** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults」を選択すると、次のメッセージが表示されます。



- 2 **[OK]** を選択し、**↵** を押します。

Discard Changes (前回保存した設定値に戻す)

BIOS Setup ユーティリティを終了せずに、前回保存した設定値に戻します。

- 1 「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。



- 2 **[OK]** を選択し、**↵** を押します。

パスワードを設定する


「Security」メニュー画面でパスワードを設定すると、BIOS や Windows の起動時にパスワードを要求されるようになります。

パスワードの設定は、次のような場合に行います。

- 本機を使用するユーザーを制限したいとき
- パスワードを設定しないと使用できない機能を使いたいとき
(HDD アクセス制限など)

パスワードの種類

パスワードには次の 2 種類があります。

- Supervisor Password (管理者パスワード)
コンピューターの管理者用のパスワードです。管理者パスワードで BIOS にログオンした場合は、すべての項目の閲覧と変更が可能です。
- User Password (ユーザーパスワード)
一般ユーザー用のパスワードです。ユーザーパスワードで BIOS にログオンした場合は、項目の閲覧や変更が制限されます (権限は、設定変更することができます)。
 p.98 「ユーザーパスワードの権限設定」

パスワードの設定方法


パスワードの設定方法は、次のとおりです。

管理者パスワードを設定すると、ユーザーパスワードが設定できるようになります。



制限

設定したパスワードは、絶対に忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、BIOS の設定変更や、設定によっては Windows の起動ができなくなります。

- 1** 「Change Supervisor Password」または「Change User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。


Enter New Password:

- 2** パスワードを入力し、 を押します。


「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。パスワードとして使用できるのは英数字だけです。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは 8 文字まで入力可能です。


パスワード入力時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。



- 3** 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、 を押します。

Confirm New Password:

同じパスワードを入力しないと、「Passwords do not match !」というメッセージが表示されます。[Ok] が選択された状態で  を押すと、BIOS のメニュー画面に戻ります。この場合、**1** からやりなおしてください。


- 4** 「Password installed.」というメッセージが表示されたら、[Ok] が選択された状態で  を押します。

パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」または「User Password」項目の値が「Installed」に変わります。

続いて、「ユーザーパスワードの権限」や、「どこでパスワードを要求するか」を決めて設定します。

ユーザーパスワードの権限設定


ユーザーパスワードを設定した場合は、ユーザーパスワードで BIOS にログオンしたときの権限（項目の閲覧や変更に関する制限）を設定します。

 p.107 「Security メニュー画面」 - 「User Access Level」

管理者パスワードが設定されていないと権限変更はできません。権限を変更するときは、あらかじめ管理者パスワードを設定しておいてください。


パスワード入力タイミングの設定

BIOS Setup ユーティリティ起動時や、Windows 起動時など、どのタイミングでパスワードを要求するかを設定します。


 p.107 「Security メニュー画面」 - 「Password Check」

管理者パスワードの削除方法

管理者パスワードの削除方法は、次のとおりです。管理者パスワードを削除する場合は、管理者パスワードで BIOS にログオンしてください。

- 1** 「Change Supervisor Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter New Password:

- 2** 何も入力せずに  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Password uninstalled.
[Ok]

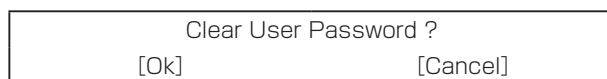
- 3** [Ok] が選択された状態で  を押します。


「Supervisor Password」の表示が「Not Installed」に変わります。これで管理者パスワードが削除されました。

ユーザーパスワードの削除方法

ユーザーパスワードの削除方法は、次のとおりです。

- 1 「Clear User Password」を選択して、 を押すと、次の画面が表示されます。



- 2 [OK] を選択して、 を押します。
「User Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。
これでユーザーパスワードが削除されました。

HDDアクセス制限


HDD アクセス制限を設定すると、次の状態になります。

- BIOS や Windows 起動時、休止状態からの復帰時に管理者パスワードを要求されるようになる
- HDD をほかのコンピューターに接続した場合、認識されないようになる

HDD への無断アクセスや、万が一 HDD が盗難にあった場合の情報流出を防ぎたいときは、HDD アクセス制限を設定します。

HDD アクセス制限の設定方法


HDD アクセス制限の設定方法は次のとおりです。

 **制限** パスワードを忘れてしまうと、アクセス制限を設定した HDD は使用できなくなります。登録したパスワードは絶対に忘れないようにしてください。

- 1 管理者パスワードを設定します。
 p.97 「パスワードの設定方法」
- 2 HDD アクセス制限の設定をします。
「Security」メニュー画面－「Hard Disk Protection」を「Enabled」に設定します。
 p.107 「Security メニュー画面」

解除方法

HDD アクセス制限の解除方法は次のとおりです。

- 1 「Security」メニュー画面－「Hard Disk Protection」を「Disabled」に設定します。
 p.107 「Security メニュー画面」

起動(Boot)デバイスの順番を変更する

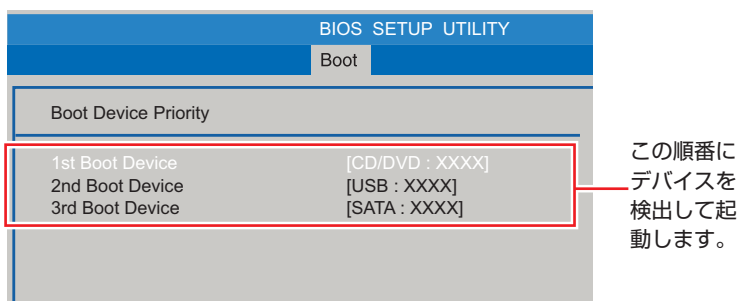
本機の電源を入れて起動しようとしたときに、リムーバブルディスク（USB フラッシュメモリなど）を接続していたり、USB FDD に FD がセットされていると、Windows が起動しないことがあります。

このような場合、「BIOS Setup ユーティリティ」で設定されている起動（Boot）デバイスの順番を変更すると、起動したいデバイスからシステムを起動することができます。

起動（Boot）デバイスの順番とは

電源を入れると、コンピューターは起動デバイスの順番に従ってデバイスを確認し、最初に見つけたシステム（Windows や OS）から起動します。

起動デバイスの順番の設定は、「Boot」メニュー画面－「Boot Device Priority」で行います。



<イメージ>








「Boot Device Priority」に表示されるデバイスは次のとおりです。表示されるデバイスは、システム構成によって異なります。

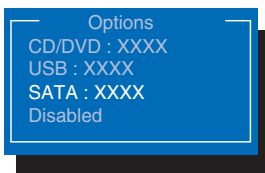
- CD/DVD:XXXX（接続されている光ディスクドライブの型番）
- USB:XXXX（USB FDD や USB フラッシュメモリなどの型番）
- SATA:XXXX（接続されている HDD の型番）
- Network:XXXX（ネットワーク）
- Disabled（検出するデバイスを割り当てないときに設定します）

購入時は、USB 記憶装置の順番が HDD より前に設定されているため、USB 記憶装置を接続していると HDD 内の Windows から起動できません。



起動 (Boot) デバイスの順番の変更方法

起動デバイスの順番の変更方法は、次のとおりです。ここでは USB 記憶装置を接続した状態で Windows を起動できるように、1 番目に起動するドライブを光ディスクドライブ、2 番目に起動するドライブを HDD に設定する方法を説明します。

- 1** 「Boot」メニュー画面で「Boot Device Priority」を選択し、 を押します。
- 2** サブメニュー画面が表示されたら、現在の起動の順番を確認します。
- 3** HDD の順番を 2 番目に設定します。
 - 1**   で「2nd Boot Device」(2 番目) を選択し、 を押します。
 - 2** 選択ウィンドウが表示されたら、  で「SATA:XXXX」を選択し、 を押します。
HDD の順番が 2 番目になります。



<選択ウィンドウ>

- 4**  を押して BIOS Setup ユーティリティを終了します。
 p.95 「BIOS Setup ユーティリティの終了」
これで、起動デバイスの変更は完了です。

BIOS Setup ユーティリティの設定項目

ここでは、「BIOS Setup ユーティリティ」で設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setup ユーティリティのメニュー画面には、次の6つのメニューがあります。

- Main メニュー画面
日付、時間、HDD などの設定を行います。
- Advanced メニュー画面
CPU に関する設定、マザーボード上の機能やデバイスの設定などを行います。
- Power メニュー画面
省電力機能や起動に関する設定を行います。
- Boot メニュー画面
システムを起動するドライブの設定などを行います。
- Security メニュー画面
セキュリティに関する設定を行います。
- Exit メニュー画面
BIOS Setup ユーティリティを終了したり、BIOS の設定値を初期値に戻したりします。

Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、日付、時間、HDD などの設定を行います。設定項目は、次のとおりです。

■ は初期値
* は項目表示のみ

System Time (hh:mm:ss) 時間の設定	時刻を設定します。(時間 : 分 : 秒) の順で表示されます。
System Date (mm:dd:yy) 日付の設定	日付を設定します。(曜日 月 / 日 / 年) の順で表示されます。

SATA Port 0	各ドライブの仕様を設定します。
SATA Port 1	※表示される詳細項目は、HDD や光ディスクドライブにより異なります。
* Device	ドライブの名称を表示します。
* Vendor	ドライブの型番を表示します。
* Size	HDD の容量を表示します。
* LBA Mode	LBA (Logical Block Addressing) をサポートしているかどうかを表示します。
* PIO Mode	ドライブの転送モードを表示します。
* DMA Mode	ドライブの DMA モードを表示します。
* SMART Monitoring	S.M.A.R.T (Self Monitoring Analysis and Reporting Technology) をサポートしているかどうかを表示します。
Type	ドライブの仕様を設定します。初期値 [Auto] のまま使用します。 Auto : BIOS が自動的にドライブの仕様を設定します。
LBA / Large LBA	LBA (Logical Block Addressing) を使用するかどうかを表示します。 Disabled : 使用しません。 Auto : LBA を使用します。
Block Mode	一度に何セクター転送できるかを表示します。 Disabled : 使用しません。 Auto : BIOS が自動的に最適な速度に設定します。
PIO Mode	ドライブの転送モード (PIO) を設定します。 Auto : BIOS が自動的に最適な転送モードを設定します。 0/1/2/3/4 : 転送モードを設定します。
DMA Mode	ドライブの DMA 転送モードを設定します。 Auto : BIOS が自動的に最適な転送モードを設定します。 UDMA0/UDMA1/UDMA2/UDMA3/UDMA4/UDMA5/
SMART Monitoring	初期値 [Disabled] のまま使用します。
32Bit Data Transfer	初期値 [Disabled] のまま使用します。
IDE Configuration	
Configure SATA as	シリアル ATA HDD の動作モードを設定します。 初期値 [Standard IDE] のまま使用します。
Standard IDE Mode	初期値 [Enhanced Mode] のまま使用します。
System Information	本機の仕様を表示します。
AMI BIOS	BIOS の情報を表示します。
* Version	BIOS のバージョンを表示します。
* Build Date	BIOS のバージョンの制定日を表示します。
System Memory	本機に搭載されているメモリー容量の情報を表示します。
* Installed Memory	本機に搭載されているメモリー容量を表示します。

Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、CPUに関する設定、マザーボード上の機能やデバイスの設定などを行います。

設定項目は、次のとおりです。

■ は初期値

*は項目表示のみ

CPU Configuration	本機に搭載されているCPUに関する情報を表示します。
* Vender	メーカーを表示します。
* CPU name	型番を表示します。
* Frequency	周波数を表示します。
* FSB speed	バス・スピードを表示します。
* Cache L1	CPUのL1 キャッシュ容量を表示します。
* Cache L2	CPUのL2 キャッシュ容量を表示します。
* Ratio Actual Value	ベースクロックに対する倍率を表示します。
Virtualization Technology	Intel Virtualization Technology 機能の設定をします。 Virtualization Technology 機能を持つプロセッサ搭載時のみ、表示されます。 Disabled：無効にします。 Enabled：有効にします。
Onboard Devices Configuration	マザーボード上のデバイスに関する設定をします。
Onboard Audio	マザーボード上のサウンド機能を使用するかどうかを設定します。 Enabled：使用します。 Disabled：使用しません。
Onboard LAN	マザーボード上のネットワーク機能を使用するかどうかを設定します。 Enabled：使用します。 Disabled：使用しません。
Onboard LAN Boot ROM	リモートブート機能の有効/無効を設定します。 Disabled：リモートブート機能を無効にします。 Enabled：リモートブート機能を有効にします。
USB Configuration	USB コントローラーの設定をします。
USB Function	初期値 [Enabled] のまま使用します。
USB Legacy Support	初期値 [Enabled] のまま使用します。
USB 2.0 Controller	USBの転送速度を設定します。 Disabled：USB 1.1の転送速度で使用します。 Enabled：USB 2.0の転送速度で使用します。
USB 2.0 Controller Mode	初期値 [HiSpeed] のまま使用します。

Powerメニュー画面

「Power」メニュー画面では、省電力機能や再起動に関する設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。


■ は初期値
* は項目表示のみ


Suspend to RAM	スリープの設定をします。スリープが正常に動作しない場合は、「Disabled」に設定してみてください。 Disabled：モニターなどの電源が切れます。電力消費は通常より若干抑えられる程度です。 Enabled：メモリー以外の電源を切ります。
ACPI 2.0 Support	初期値 [No] のまま使用します。
ACPI APIC Support	初期値 [Enabled] のまま使用します。
APM Configuration	起動する方法や条件を設定します。
Restore On AC Power Loss	電源スイッチを押さずに、電源供給時に起動するかどうかを設定します。 分電盤などによる複数のコンピューターの同時起動を行うと、コンピューターの動作に悪影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。 Power OFF：電源が供給されても、電源スイッチを押さない限り起動しません。 Power ON：電源オフ時に、電源スイッチを押さなくても、電源が供給されるとコンピューターが起動します。 Last State：コンピューターの動作中に、雷などの影響で突然電源が切断されたあとに電源が再び供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピューターが起動します。コンピューターを正常終了させた状態では、電源が供給されてもコンピューターは起動しません。
※ Power On By RTC Alarm	コンピューターを指定した時間に起動させる設定をします。 Disabled：設定しません。 Enabled：設定します。
RTC Alarm Date Hour Minute Second	「Power On By RTC Alarm」を「Enabled」に設定すると表示されます。 起動する日：時間：分：秒を設定します。
※ Power On By PCI Devices	電源切断時、PCIのネットワークボードから起動するかどうかを設定します。この機能は、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。 Disabled：設定しません。 Enabled：設定します。
※ Power On By PCIE Devices	電源切断時、マザーボード上のネットワークから起動するかどうかを設定します。この機能は、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。 Disabled：設定しません。 Enabled：設定します。
※ Power On By PS/2 Keyboard	PS/2キーボードを使用している場合に、起動や復帰をキーボードから行えるようにするかどうかを設定します。USBキーボードの場合、この機能は使用できません。 Disabled：設定しません。 Enabled：設定します。
Wake up key select	Power On By PS/2 Keyboardを設定すると表示されます。 Ctrl+ESC：起動や復帰に Ctrl + Esc を使用します。

※ Enabled（有効）に設定しているときに、電源コードを抜き、再び接続すると、コンピューターが一瞬起動する場合がありますが、不具合ではありません。

Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムの起動（Boot）に関する設定を行います。


Bootの順番の変更方法については、 p.100「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」をご覧ください。


 は初期値




*は項目表示のみ

Boot Device Priority	システムを起動するドライブの順番を設定します。  p.100「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」
1st Boot Device	1番目に起動するドライブを設定します。初期値は光ディスクドライブで、搭載している光ディスクドライブの型番が表示されます。
2nd Boot Device	2番目に起動するドライブを設定します。初期値は次のように表示されます。 通常 : HDDの型番 USB機器接続時 : USB機器の型番
3rd Boot Device	3番目に起動するドライブを設定します。初期値は次のように表示されます。 USB機器接続時 : HDDの型番
4th Boot Device ※リモートブート機能を有効にすると表示されま す。	ネットワークから起動する場合に使用します。 (リモートブート機能を有効にするには、「Advanced」メニュー画面－「Onboard Devices Configuration」の「Onboard LAN Boot ROM」を「Enabled」に設定し、再起動します。)
Hard Disk Drives	
1st Device	HDDの型番を自動的に検出して表示します。 初期値のまま使用します。
Removable Devices	
1st Device	USB記憶装置を接続すると、型番を自動的に検出して表示します。
2nd Device	優先的に起動するデバイスを設定します。
Optical Disc Drive	
1st Device	搭載している光ディスクドライブの型番が表示されます。 初期値のまま使用します。
Boot Settings Configuration	システム起動時の設定をします。
Full Screen Logo	コンピューターの起動時に、EPSONロゴを表示するかどうかを設定します。 Disabled : ロゴを表示しません。 Enabled  : ロゴを表示します。
Bootup Num-Lock	起動時のNumLockの状態を設定します。 Off : NumLockが押されていない状態にします。 On : NumLockが押された状態にします。

Securityメニュー画面

「Security」メニュー画面では、セキュリティに関する設定を行います。
パスワードの設定方法は、 p.97 「パスワードを設定する」をご覧ください。

 は初期値
*は項目表示のみ

Security Settings	システム起動時や「BIOS Setup ユーティリティ」起動時などのパスワードを設定します。
* Supervisor Password/ User Password	Supervisor Password (管理者パスワード) と User Password (ユーザーパスワード) が設定されているかどうかを表示します。 Installed : パスワードが設定されています。 Not Installed : パスワードが設定されていません。
Change Supervisor Password	管理者パスワードの設定や変更を行います。設定を行うと、「BIOS Setup ユーティリティ」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求されます。  を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
User Access Level ※管理者パスワードを設定 すると表示されます。	「User Password」(ユーザーパスワード) で「BIOS Setup ユーティリティ」にアクセスするときのアクセス制限レベルを4段階で設定します。 No Access : ユーザーパスワード使用者は「BIOS Setup ユーティリティ」を起動することができません。 View Only : ユーザーパスワード使用者は「BIOS Setup ユーティリティ」を閲覧できますが、設定項目の変更はできません。 Limited : 「BIOS Setup ユーティリティ」を閲覧できるほか、ユーザーパスワードなど一部の設定項目を変更できます。 Full Access : ユーザーパスワード使用者に管理者と同一の権利を許可します。「BIOS セットアップユーティリティ」のすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。ただし、管理者パスワードの変更はできません。
Change User Password ※管理者パスワードを設定 すると表示されます。	ユーザーパスワードの設定や変更を行います。「BIOS Setup ユーティリティ」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求します。  を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
Clear User Password ※ユーザーパスワードを設定 すると表示されます。	ユーザーパスワードを削除します。  を押すと、ユーザーパスワードの削除ウィンドウが表示されます。
Password Check ※管理者パスワードを設定 すると表示されます。	管理者パスワード、ユーザーパスワードを設定している場合に、パスワード入力を要求するタイミングを設定します。 Setup : 「BIOS Setup ユーティリティ」起動時にパスワード入力を要求します。 Always : 「BIOS Setup ユーティリティ」起動時、システム起動時、休止状態から復帰時にパスワード入力を要求します。
Hard Disk Security	HDDのセキュリティ設定をします。
Hard Disk Protection ※管理者パスワードを設定 すると設定可能になりま す。	HDDへのアクセス制限の有効/無効を設定します。アクセス制限を有効に設定したHDDは、ほかのコンピューターに接続しても認識されなくなります。 有効に設定すると、BIOS、システムへのアクセスが制限され、BIOS起動時とシステム起動時、休止状態からの復帰時にパスワード入力を要求します。 Disabled : HDDへのアクセスを制限しません。 Enabled : HDDへのアクセスを制限します。

Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面では、BIOS Setup ユーティリティを終了したり、BIOS の設定値を初期値に戻したりします。

設定項目は、次のとおりです。

Exit & Save Changes	変更した内容（設定値）を保存してから、BIOS Setup ユーティリティを終了します。
Exit & Discard Changes	変更した内容（設定値）を保存せずに、BIOS Setup ユーティリティを終了します。
Discard Changes	BIOS Setup ユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Setup Defaults	BIOS Setup ユーティリティの設定値を、BIOS の初期設定値に戻します。

BIOSの設定値

BIOS Setup ユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくくと便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Advancedメニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
CPU Configuration	Virtualization Technology	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Onboard Devices Configuration	Onboard Audio	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Onboard LAN	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Onboard LAN Boot ROM	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
USB Configuration	USB 2.0 Controller	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Powerメニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
Suspend to RAM		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
APM Configuration	Restore On AC Power Loss	Power Off	Power On Last State	Power Off	Power On Last State
	Power On By RTC Alarm	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Power On By PCI Devices	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Power On By PCIE Devices	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Power On By PS/2 Keyboard	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Boot メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
Boot Device Priority	1st Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	2nd Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	3rd Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	4th Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
Boot Settings Configuration	Full Screen Logo	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Bootup Num-Lock	Off	On	Off	On

Security メニュー画面

Security Settings	Supervisor password	Installed	Not Installed	Installed	Not Installed
	User password	Installed	Not Installed	Installed	Not Installed
	User Access Level *	No Access Limited	View Only Full Access	No Access Limited	View Only Full Access
	Password Check *	Setup	Always	Setup	Always
Hard Disk Security	Hard Disk Protection *	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

* 管理者パスワードを設定すると設定可能になります。



4

ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

ソフトウェアを再インストールする..... 112

ソフトウェアを再インストールする

ここでは、ソフトウェアの再インストール方法について記載しています。

再インストールとは

本書では、HDD をフォーマットして、Windows や本体ドライバーなどをインストールしなおす作業のことを、「再インストール」と記載します。再インストールは、「リカバリー」とも言います。

再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。

- なんらかの原因で Windows が起動しなくなり、修復しても問題が解決できない場合
- HDD 領域の構成を変更したい場合

Windows を修復する

なんらかの原因で Windows が起動しなくなった場合は、再インストールを行う前に「Windows 回復環境」で Windows の修復を行ってみてください。再インストールしなくても問題が解決する場合があります。

 p.149 「Windows 回復環境 (Windows RE) を使う」

システムイメージの回復

事前にシステムイメージを保存しておいた場合は、Windows やソフトウェアを、システムイメージ保存時の状態まで一度にリカバリーすることができます。

※再インストールと同様、保存されているデータは消去されます。事前にバックアップを行ってください。

システムイメージの回復については、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 – 「トラブル解決」 – 「Windows の操作」 – 「バックアップ」
– 「システムイメージの作成を使ってバックアップを行う方法」

重要事項

再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

当社製以外の BIOS へのアップデート禁止

当社製以外の BIOS へのアップデートは絶対にしないでください。当社製以外の BIOS にアップデートすると、再インストールができなくなります。

Web フィルタリングソフトウェアの継続利用

本機に添付の Web フィルタリングソフトウェア「i-フィルター 30 日版」で継続利用手続きを行っている場合、Windows を再インストールすると利用期限が 30 日に設定されてしまいます。この場合は、デジタルアーツ社のホームページから最新版を入手し、契約済みのシリアル ID を利用してインストールを行ってください。

詳細は、デジタルアーツ社にお問い合わせください。

<http://www.daj.jp/cs/support.htm>

最新の情報

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業をすすめてください。

必要なメディア

再インストールには、次のメディアが必要です。

- Windows 7 リカバリー DVD

Windows 7 が収録されている DVD-ROM です。

- リカバリーツール CD


本体ドライバーやソフトウェアを、HDD の「消去禁止領域」からインストールするためのプログラムが収録されている CD-ROM です。

- そのほか必要なメディア

お使いのシステム構成によって必要なメディアは異なります。

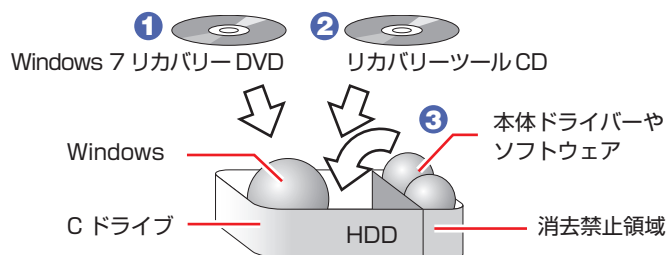
本体ドライバーやソフトウェアは HDD の消去禁止領域に収録されています。

専用のメディアは添付されていません。

 p.20 「添付されているソフトウェア」

再インストールの概要


ソフトウェアの再インストールの概要は、次のとおりです。



- 1 Windows 7 リカバリー DVD から、Windows をインストールします。
- 2 リカバリーツール CD から、リカバリーツールをインストールします。
HDD の消去禁止領域に収録されている本体ドライバーやソフトウェアのインストールは、リカバリーツールを使用して行います。
- 3 リカバリーツールを使用して、本体ドライバーやソフトウェアをインストールします。

インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。

購入時のインストール状態は、 p.20 「添付されているソフトウェア」で確認してください。

必ずインストールするソフトウェア


- 1 Windows
- 2 リカバリーツール
- 3 本体ドライバー
- 4 拡張ボードのドライバー（拡張ボード搭載時）
- 5 Adobe Reader
- 6 Windows Live Suite
- 7 セキュリティソフトウェア
- 8 WinDVD
- 9 Nero 9 Essentials（書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時）

必要に応じてインストールするソフトウェア

- 1 WDLIC フォトガジェット
- 2 Web フィルタリングソフトウェア
- 3 JWord Plugin
- 4 goo スティック

インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、次の点を確認してください。

- 管理者 (Administrator) のアカウントでログオン
インストール作業は、管理者 (Administrator) のアカウントでログオンして行ってください。
- システム構成
本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOS の設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。
- ドライブ名
本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。
光ディスクドライブのドライブ名は、HDD 領域の数によって異なります。
C ドライブ : HDD
D ドライブ : 光ディスクドライブ
- 各種設定やデータのバックアップ
再インストールを行うと、設定した事項が初期値に戻ってしまったり、データが消えてしまったりします。再インストールを行う前に必要に応じて設定を書き写したり、データのバックアップを行っておいてください。
 p.117 「バックアップを取る」
- 初期設定ツール
初期設定ツールは、Windows を再インストールすると消去されます。
初期設定ツールでインストールしたソフトウェアは、以降で説明する手順に従ってインストールを行ってください。

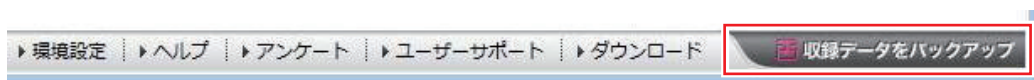
PCお役立ちナビのデータをバックアップする

サポートツール「PC お役立ちナビ」に収録されているコンテンツやマニュアルは、再インストールをすると消えてしまいます。再インストールの前に、必ずバックアップをとってください。

※ Windows XP の場合のバックアップ方法は、ダウングレードモデル用別冊子をご覧ください。

バックアップ方法

光ディスクメディアや USB 記憶装置を本機にセットしてから、PC お役立ちナビ画面右下の [収録データをバックアップ] をクリックします。以降は画面の指示に従ってバックアップを行ってください。




バックアップの詳細手順は、次の場所をご覧ください。

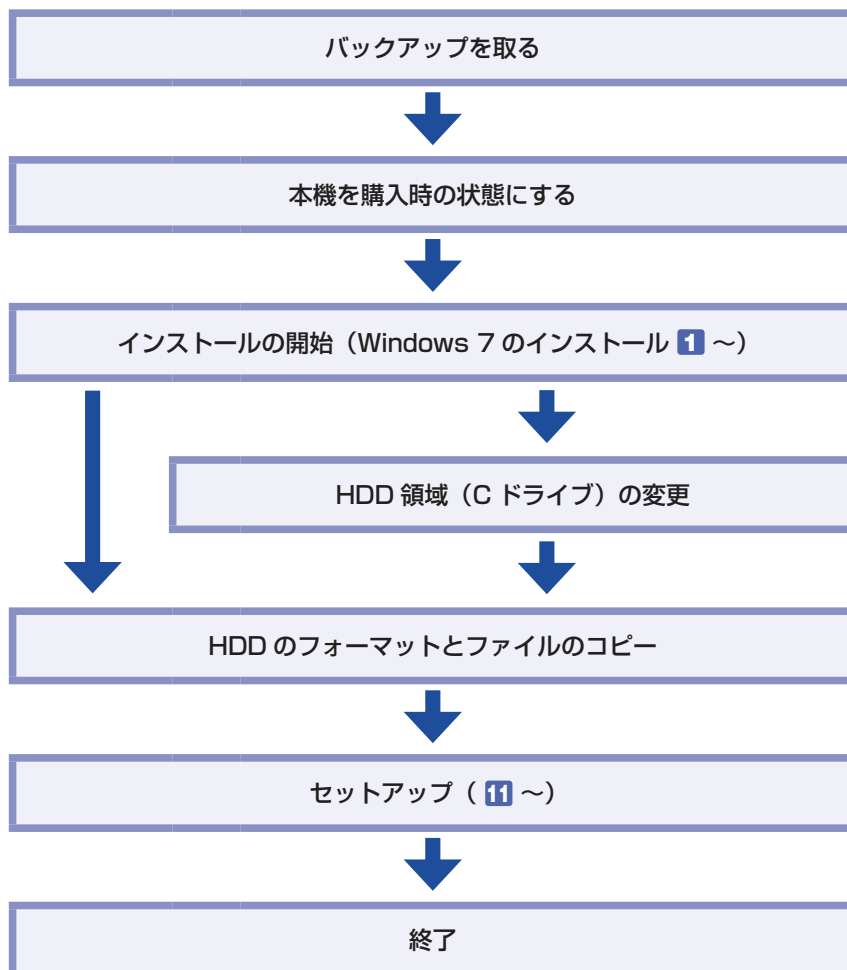


「PC お役立ちナビ」 - 画面下 [ユーザーサポート] - FAQ 番号 : 29044

Windowsのインストール

インストールの流れ

Windows のインストールの主な流れは次のとおりです。
インストール作業は、 p.117 以降の手順に従って行ってください。



HDD 領域 (C ドライブ) を変更するには


Windows のインストール中に C ドライブ (Windows がインストールされている領域) のサイズを変更したり、分割したりすることができます。

HDD 領域の変更や、分割の詳細な説明は、 p.157 「HDD 領域 (ドライブ) の分割・変更・作成」をご覧ください。

バックアップを取る

Cドライブの設定やデータは、Windowsの再インストールを行うと消えてしまいます。再インストールの前に、バックアップを行ってください。*


- PCお役立ちナビのデータ

 p.115 「PCお役立ちナビのデータをバックアップする」

- ネットワークの設定

接続に関する設定を書き写しておいてください。

- Internet Explorerの「お気に入り」、Windows Liveメールの「アドレス帳」やメールアドレス

 「PCお役立ちナビ」 - 「トラブル解決」 - 「Windowsの操作」 - 「バックアップ」
- 「Windowsの転送ツールを使う」

このほかのWeb閲覧ソフトやメールソフトをお使いの場合は、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

- そのほか重要なデータ

* 再インストール中にHDD領域の変更を行うと、Cドライブ以外のドライブ(DやEなど)のデータも消えてしまいますので、バックアップを行ってください。
HDD領域の変更を行わない場合でも、念のためバックアップすることをおすすめします。

本機を購入時の状態にする

周辺機器が接続されていたり、BIOSの設定値が変更されていたりすると、正常にインストールが行われない可能性があります。本機を購入時の状態に戻してから再インストールを行ってください。

Windows 7のインストール

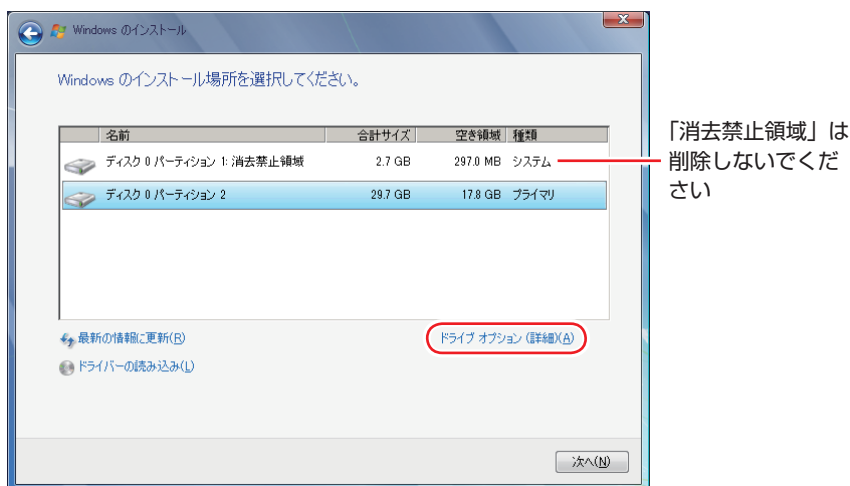
Windows 7のインストール方法は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を入れ、Windowsが起動したら、「Windows 7リカバリーDVD」を光ディスクドライブにセットします。
- 2** 本機を再起動します。
- 3** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。
一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいます。Windowsが起動してしまった場合は、**2**へ戻ります。
- 4** 「システム回復オプション」画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 5** オペレーティングシステムの一覧画面が表示されたら、「Windowsの起動に伴う…」を選択し、「次へ」をクリックします。



- 6 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、「Windows の再インストール」をクリックします。
- 7 「インストールを開始しますか？」と表示されたら、[はい] をクリックします。
- 8 「インストールするオペレーティングシステムを選択してください」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 9 「ライセンス条項をお読みください。」と表示されたら、内容を確認し、「同意します」にチェックを付けて、[次へ] をクリックします。
- 10 「Windows のインストール場所を選択してください。」と表示されたら、「ドライブオプション (詳細)」をクリックします。

※「消去禁止領域」には、ドライバーやソフトウェアの再インストール用データが収録されています。絶対に削除しないでください。



<イメージ>

次のとおり作業を続けます。

領域変更を行わない場合 (通常)

- 1 「ディスク 0 パーティション 2」(C ドライブ) が選択された状態で「フォーマット」をクリックします。
- 2 「パーティションには…」と表示されたら、[OK] をクリックします。
フォーマットが開始されます。
- 3 フォーマットが終了すると、[次へ] がクリックできる状態になります。
「ディスク 0 パーティション 2」(C ドライブ) が選択された状態で [次へ] をクリックします。

Windows のインストールが開始されます。システム構成にもよりますが、インストールは 20 分～ 40 分かかります。11 の画面が表示されるまでキーボードやマウスは操作しないでください。

領域変更を行う場合

- 1 「ディスク 0 パーティション 2」(C ドライブ) が選択された状態で「削除」をクリックします。
- 2 「パーティションには…」と表示されたら、[OK] をクリックします。
削除したパーティション (C ドライブ) が「未割り当て領域」となります。
- 3 次のとおり作業を続けます。

C ドライブを分割したい場合

- (1) 「ディスク 0 未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。
4 に進みます。

C ドライブの容量を増やしたい場合

すでに HDD が分割されている場合は、C ドライブ以外のドライブを削除して未割り当ての領域を増やします。ただし、削除したドライブのデータは消えてしまいます。

- (1) そのほかのパーティションも C ドライブと同様に削除し、「ディスク 0 未割り当て領域」を増やします。
- (2) 「ディスク 0 未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。
4 に進みます。
- 4 C ドライブのサイズを決めます。サイズを入力し、「適用」をクリックします。
C ドライブには、40GB (40000MB) 程度を割り当てることをおすすめします。
- 5 「ディスク 0 パーティション 2」(C ドライブ) が選択された状態で、[次へ] をクリックします。
Windows のインストールが開始されます。システム構成にもよりますが、インストールは 20 分～40 分かかります。

11 「新しいアカウントのユーザー名と…」と表示されたら、ユーザー名、コンピューター名を入力し、[次へ] をクリックします。

12 「ユーザーアカウントのパスワードを設定します」と表示されたら、パスワード(任意)を入力し、[次へ] をクリックします。

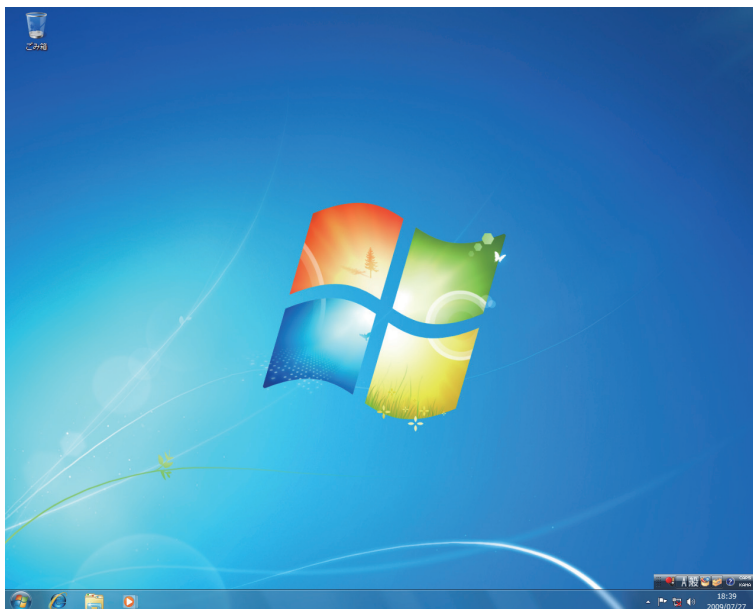
13 「コンピューターの保護と…」と表示されたら、更新の設定をクリックして選択します。
「推奨設定を使用します」を選択することをおすすめします。

14 「日付と時刻の設定を確認します」と表示されたら、「タイムゾーン」が「大阪、札幌、東京」になっていることを確認し、「日付」、「時刻」を設定し、[次へ] をクリックします。

15 ネットワークに接続している場合、「お使いのコンピューターの現在の場所を選択してください」と表示されます。場所をクリックして選択します。




- 16** Windows のデスクトップ（下記の画面）が表示されたら、「Windows 7 リカバリー DVD」を取り出します。



これで Windows のインストールは完了です。

- 17** **10** で領域変更を行った場合は、「未割り当て領域」に領域（パーティション）を作成します。

領域（パーティション）の作成は、ドライバーやソフトウェアのインストールが終了してから行ってかまいません。

 p.161 「HDD 領域（パーティション）の作成手順」

リカバリーツールのインストール

リカバリーツールは、HDD の消去禁止領域に収録されている本体ドライバーやソフトウェアのインストールの際に使用します。

リカバリーツールのインストールは、次の手順で行います。

- 1** 「リカバリーツール CD」を光ディスクドライブにセットします。
- 2** 「自動再生」画面が表示されたら、「setup.exe の実行」をクリックします。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - [コンピューター] - [EPSON_CD] をダブルクリックします。
- 3** 以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。
「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[はい] をクリックします。
インストールが完了すると、デスクトップ上に「リカバリーツール」アイコンが表示されます。



<リカバリーツールアイコン>

- 4** 「リカバリーツール CD」を光ディスクドライブから取り出します。
アイコンが正常に表示されない場合は、コンピューターを再起動してください。
これで「リカバリーツール」のインストールは完了です。

本体ドライバーのインストール

本機のマザーボード上に搭載されているデバイスのドライバー類を、一括してインストールします。インストール手順は次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
- 3** 「リカバリーツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4** 本体ドライバーやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「本体ドライバー」を選択して [インストール] をクリックします。
- 5** の画面が表示されるまでには、数分かかります。



<イメージ>

- 5** 「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、一覧から [インストール] をクリックします。
- 6** 「インストール確認」画面が表示されたら、内容をよくお読みになり [OK] をクリックします。
各ドライバーが自動的にインストールされます。インストールには約 10 分かかります。
- 7** 「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。



- 8** 「インストール処理」画面が表示されたら、インストールが正常に完了したかどうかを確認し、**【PC 再起動】** をクリックします。

Windows が再起動したら、本体ドライバーのインストールは完了です。



参考

リカバリーツールの**【ファイル削除】**の表示について

リカバリーツールからインストールを行う際、ソフトウェアによっては一時的に HDD にインストール用データをコピーします。「リカバリーツール」画面で**【ファイル削除】**が黒字で表示される時は、コピーされた不要なインストール用データが HDD に残っています。**【ファイル削除】**をクリックしてデータを削除すると、HDD の容量を節約することができます。

拡張ボードのドライバーのインストール

拡張ボード搭載時

拡張ボードをお使いの場合は、拡張ボードのドライバーをインストールします。

Adobe Readerのインストール

「Adobe Reader」は、PDF 形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。

インストール

Adobe Reader のインストール手順は、次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、**【はい】** をクリックします。
- 3** 「リカバリーツール」画面が表示されたら、**【インストール】** をクリックします。
- 4** 本体ドライバーやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、「Adobe Reader」を選択し、**【インストール】** をクリックします。
- 5** 「インストール先のフォルダ」と表示されたら、**【次へ】** をクリックします。
- 6** 「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されたら、**【インストール】** をクリックします。
インストールにはしばらく時間がかかります。
- 7** 「セットアップ完了」と表示されたら、**【完了】** をクリックします。
続いて、Adobe Reader のセットアップを行います。

セットアップ

Adobe Reader のセットアップ手順は次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「Adobe Reader」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「使用許諾契約書」が表示されたら、「使用許諾契約書」に同意するかしないかを選択します。
同意する場合は、[同意する] をクリックします。[同意しない] を選択すると、Adobe Reader は使用できません。
これで、Adobe Reader のセットアップは完了です。

Windows Live Suiteのインストール

「Windows Live Suite」は、「Windows Live メール」など、複数のソフトウェアを含むパッケージです。

Windows Live Suite のインストール手順は、次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
- 3** 「リカバリーツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4** 本体ドライバーやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「アプリケーション CD」を選択して、[インストール] をクリックします。
- 5** 「アプリケーションのインストール」画面が表示されたら、一覧から「Windows Live」をクリックします。
- 6** 「サービス利用規約」と表示されたら、[同意する] をクリックします。
- 7** 「インストールする製品を選択してください」と表示されたら、インストールしたい製品にチェックを付けて、[インストール] をクリックします。
購入時にインストールされている製品は、次のとおりです。
 - Windows Live Messenger
 - Windows Live メール
 - Windows Live フォトギャラリー
 - Windows Live ムービーメーカー
 - Windows Live Writer
 - Microsoft Silverlight
- 8** 「もう少しで完了です」と表示されたら、[続行] をクリックします。
- 9** 「Windows Live へようこそ！」と表示されたら、[閉じる] をクリックします。
これで、Windows Live Suite のインストールは完了です。

セキュリティソフトウェアのインストール

本機に添付のセキュリティソフトウェア「マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日間限定版」をインストールします。

市販のセキュリティソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。インストールを行ってください。

マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日間限定版のインストール

マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日間限定版のインストール方法は、次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
- 3** 「リカバリーツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4** 本体ドライバーやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「アプリケーション CD」を選択して、[インストール] をクリックします。
- 5** 「アプリケーションのインストール」画面が表示されたら、一覧から「McAfee PC Security Center 90 日版」をクリックします。
- 6** マカフィーのインストール画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

WinDVDのインストール

「WinDVD」は、DVD VIDEO を再生するためのソフトウェアです。

WinDVD のインストール手順は次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
- 3** 「リカバリーツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4** 本体ドライバーやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「InterVideo WinDVD」を選択して [インストール] をクリックします。
- 5** 「InstallShield Wizard」画面が表示された場合は、WinDVD のインストールに必要なアプリケーションをインストールします。

- 6 「WinDVD セットアップへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

Nero 9 Essentialsのインストール

書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時

Nero 9 Essentials のインストール

「Nero 9 Essentials」は、光ディスクドライブで書き込みを行うためのソフトウェアです。Nero 9 Essentials のインストール手順は次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
- 3 「リカバリーツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4 本体ドライバーやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「Nero 9 Essentials」を選択して [インストール] をクリックします。
- 5 「Nero MultiInstaller」画面が表示されたら、[Nero 9 Essentials] をクリックします。
- 6 「Nero 9 Essentials のインストールへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

リカバリーツール用 Nero プラグインのインストール

「リカバリーツール用 Nero プラグイン」は、リカバリーツールの CD 作成機能を有効にするためのソフトウェアです。リカバリーツール用 Nero プラグインのインストール方法は、次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[はい] をクリックします。
- 3 「リカバリーツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4 本体ドライバーやソフトウェアの一覧が表示されたら、一覧から「リカバリーツール用 Nero プラグイン」を選択し、[インストール] をクリックします。



- 5 「リカバリーツール用 Nero プラグインのインストール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。

以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

インストール終了後に、「プログラムの互換アシスタント このプログラムは正しくインストールされなかった可能性があります」と表示される場合があります。この場合は、「このプログラムは正しくインストールされました」を選択してください。



参考

バックアップ CD からのインストール

CD 作成した「Nero 9 Essentials」メディアから、リカバリーツール用 Nero プラグインをインストールする場合は、Plugin フォルダー内の Install を実行してください。

WDLC フォトガジェットのインストール

「WDLC フォトガジェット」は、デスクトップ上で写真を閲覧・管理するためのソフトウェアです。WDLC フォトガジェットのインストール手順は、次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
- 3 「リカバリーツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4 本体ドライバーやソフトウェアの一覧画面が表示されたら、一覧から「アプリケーション CD」を選択して [インストール] をクリックします。
- 5 「アプリケーションのインストール」画面が表示されたら、「WDLC フォトガジェット」をクリックします。

これで WDLC フォトガジェットのインストールは完了です。

Web フィルタリングソフトウェアのインストール

本機に添付の「i-フィルター 30 日版」をインストールします。i-フィルター 30 日版は、有害サイトをブロックするための Web フィルタリングソフトウェアです。

市販の Web フィルタリングソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

i-フィルター 30 日版のインストール

i-フィルター 30 日版のインストール手順は、次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。

- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
- 3 「リカバリーツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4 本体ドライバーやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「i-フィルター 30 日版」を選択して [インストール] をクリックします。
- 5 「i-フィルター … インストール」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 6 「使用許諾契約」と表示されたら、「使用許諾契約の全条項に同意します」を選択して、[次へ] をクリックします。
- 7 「セットアップタイプ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 8 「インストール準備の完了」と表示されたら、[インストール] をクリックします。
デスクトップ上に「i-フィルター」アイコンが表示されたら、i-フィルター 30 日版のインストールは完了です。続いて、ユーザー登録を行います。



<i-フィルターアイコン>

i-フィルター 30 日版のユーザー登録

i-フィルター 30 日版を使用するには、ユーザー登録が必要です。
ユーザー登録はインターネット接続後に行います。
ユーザー登録の手順は、次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「i-フィルター」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「i-フィルター…」画面が表示されたら、使用許諾契約書の内容をよくお読みになり、[「i-フィルター」を使ってみる] をクリックします。
- 3 「「i-フィルター」の開始」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってユーザー登録を行ってください。

JWord Pluginのインストール

「JWord Plugin」は、Internet Explorer のアドレスバーから、日本語でインターネットを検索できるソフトウェアです。

JWord Plugin のインストール手順は次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
- 3** 「リカバリーツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4** 本体ドライバーやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「JWord Plugin」を選択して [インストール] をクリックします。
- 5** 「JWord プラグイン…へようこそ」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

gooスティックのインストール

「goo スティック」は、Internet Explorer のツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するソフトウェアです。

goo スティックのインストール手順は次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
- 3** 「リカバリーツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4** 本体ドライバーやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「goo スティック (Windows 7用)」を選択して [インストール] をクリックします。
- 5** 「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。
これで、goo スティックのインストールは完了です。

そのほかのインストール

必要に応じて次のインストールを行ってください。

各種ドライバーのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバーやユーティリティ、ソフトウェアなどのインストールが必要です。インストールは、オプション機器類に添付されているメディアを使用して行ってください。



参考

インストールが必要なドライバーの例

お使いになるシステム構成によって、次のようなドライバーやユーティリティが必要になります。

- USB 対応機器を使用する場合：USB 機器に添付のドライバー
- プリンターを使用する場合：プリンターに添付のドライバー

キーボード / マウスユーティリティのインストール

キーボードやマウスのユーティリティ CD が添付されている場合は、ユーティリティをインストールします。

そのほかのソフトウェアのインストール

「Office」など、そのほかに使用するソフトウェアがある場合は、インストールします。インストール方法はソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

PCお役立ちナビのデータを復元する

再インストールの前にバックアップした、PC お役立ちナビのデータを復元します。

復元方法

バックアップしたデータの入った光ディスクメディアや USB 記憶装置を本機にセットしてから、PC お役立ちナビ画面右下の [バックアップ情報を復元] をクリックし、画面の指示に従って復元を行ってください。



復元の詳細手順は、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 画面下 [ユーザーサポート] - FAQ 番号：29044

PC お役立ちナビのデータバックアップをし忘れたときは

データのバックアップを取らずに再インストールをしてしまった場合は、Web のユーザーサポートページから、コンテンツやマニュアルをダウンロードします。



制限

ダウンロードしたマニュアル類（ユーザーズマニュアル以外）は、PC お役立ちナビには復元できません。マニュアルごとにファイル（PDF）を開いてご覧ください。

1 ダウンロード

PC お役立ちナビで、コンテンツやマニュアルを表示する際、画面に「コンテンツデータが存在しません」と表示されたら、メッセージ内のリンクからユーザーサポートページにアクセスし、コンテンツやマニュアルをダウンロードします。

2 復元

ダウンロードした、コンテンツとユーザーズマニュアルのファイル内に記載されている復元方法に従って、データを復元します。

3 検索情報の再構築

コンテンツとユーザーズマニュアルを復元したら、検索情報の再構築を行います。画面下 [環境設定] 内の [検索情報の再構築] をクリックしてください。

「ダウンロード」～「復元」～「検索情報」の再構築の詳細手順は、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 画面下 [ユーザーサポート] - FAQ 番号：28390

再インストール後の作業

再インストールが完了したら、必要に応じて次の作業を行ってください。

バックアップしたデータの復元

再インストールの前にバックアップしたデータを復元します。

●PC お役立ちナビのデータ



p.129 「PC お役立ちナビのデータを復元する」

●Internet Explorer、Windows Live メールの設定



「PC お役立ちナビ」 - [トラブル解決] - 「Windows の操作」 - 「バックアップ」
- 「Windows の転送ツールを使う」

●重要なデータ

バックアップ先のメディアなどから元に戻します。

領域の作成

Windows のインストール中に HDD 領域を変更した場合、「未割り当て領域」はそのままで使用できません。Windows の「ディスクの管理」を使用して、領域の作成を行います。



p.161 「HDD 領域（パーティション）の作成手順」

ネットワークの設定

再インストールの前に書き写しておいた設定を元に、ネットワークの設定を行います。

Windows Update

Windows の再インストールを行うと、今までに行った「Windows Update」のプログラムがインストールされていない状態に戻ります。

自動更新の設定がされていると、更新プログラムが自動的にダウンロード、インストールされ、Windows が最新の状態になります。

 p.62 「Windows Update」



5

困ったときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

トラブルが発生したら	134
起動・画面表示できないときは	136
トラブル時に効果的な対処方法	143

トラブルが発生したら

困ったとき、トラブルが発生したときは、次のように対処方法を探してください。

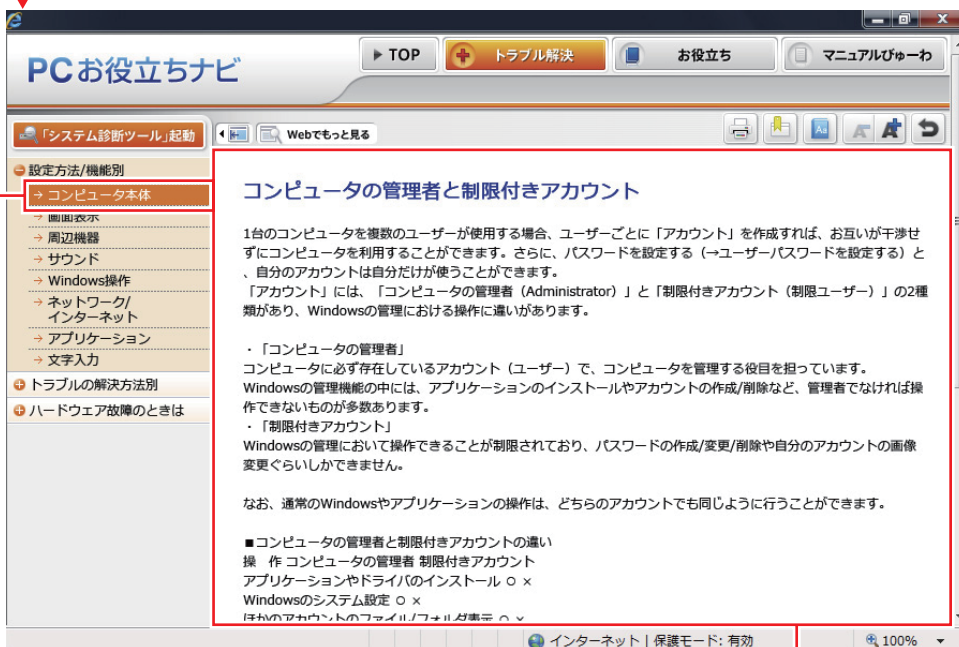
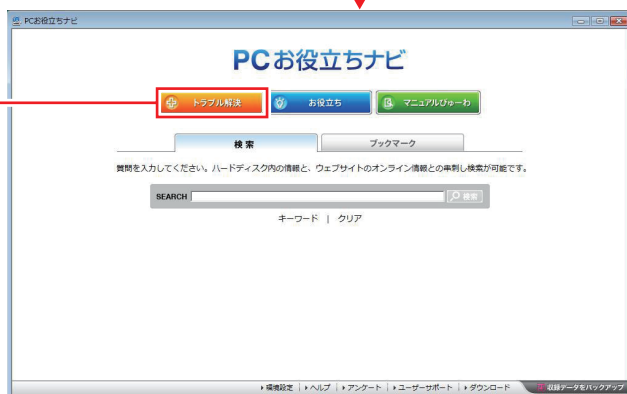
起動・画面表示できる場合…PCお役立ちナビで調べる

コンピューターを起動、画面表示できる場合は、「PC お役立ちナビ」の「トラブル解決」で対処方法を探してください。



ダブルクリック

<PC お役立ちナビアイコン>



トラブルの種類を選択します

候補の中から見たい項目を選択すると、内容が表示されます

Windows のトラブルシューティングツール

Windows 7 にはトラブルシューティングツールを集めたコーナーが用意されています。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「システムとセキュリティ」 - 「コンピューターの一般的な問題のトラブルシューティング」



トラブルシューティングツールの一覧が表示されたら、トラブルに応じたツールをクリックして、トラブルシューティングを行ってください。


起動・画面表示できない場合

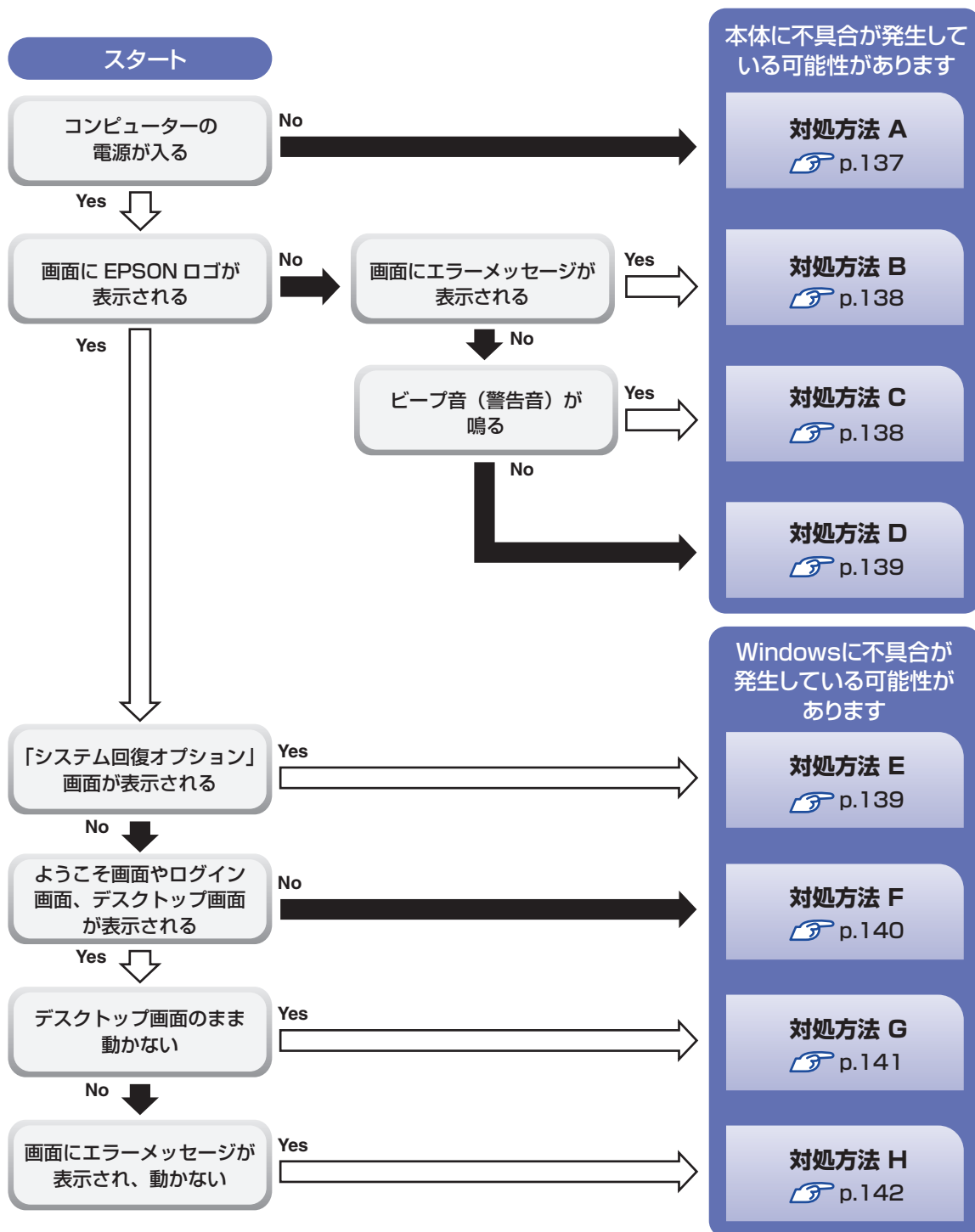
コンピューターを起動、画面表示できない場合は、 p.136 「起動・画面表示できないときは」をご覧ください。

起動・画面表示できないときは

コンピューターを起動、画面表示できない場合は、診断を行い、各診断結果に応じた対処を行ってください。

診断をする

次の診断を行ってください。対処方法が決まったら、 p.137「対処をする」へ進んでください。



対処をする


コンピューターを起動、画面表示できないときの対処方法は、次のとおりです。
対処を行っても不具合が解消しない場合は、[別冊](#)『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。
サポート窓口までお問い合わせください。

対処方法 A

次の対処を順番に行ってみてください。

- 1 コンピューター本体の電源を入れなおす**
電源を入れなおす場合は、20 秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20 秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。
- 2 コンピューター本体の電源コードを接続しなおす**
電源に問題がある可能性があります。コンピューター本体とディスプレイの電源を切ってから、コンピューター本体の電源コードを外して 1 分程放置し、ディスプレイ、コンピューター本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。
- 3 壁のコンセントに直接接続する**
電源タップなどにコンピューターの電源コードを接続している場合は、電源タップなどを使用せず、壁にあるコンセントに直接コンピューターの電源コードを接続して、電源を入れてみてください。
- 4 消費電力の大きい機器を停止する**
大画面テレビやエアコンなど、消費電力の大きい機器を使用している場合、それらの機器の電源を切ってから、コンピューターの電源を入れてみてください。
- 5 周辺機器や増設した装置を取り外す**
本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。
- 6 CMOS RAM の初期化を行う**
CMOS RAM の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAM の初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。
[🔗](#) p.146 「CMOS RAM の初期化」

対処方法 B

まず、 p.142 「エラーメッセージ一覧」をご覧ください。メッセージに応じた対処を行ってください。あてはまるメッセージがない場合は、次の対処を順番に行ってみてください。

1 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

2 CMOS RAM の初期化を行う

CMOS RAM の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAM の初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.146 「CMOS RAM の初期化」

対処方法 C


次の対処を順番に行ってみてください。

1 コンピューター本体の電源コードを接続しなおす

電源に問題がある可能性があります。コンピューター本体とディスプレイの電源を切ってから、コンピューター本体の電源コードを外して 1 分程放置し、ディスプレイ、コンピューター本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

2 メモリーを差しなおす

メモリーに不具合が発生している可能性があります。メモリーを抜き差しし、問題が解決されるかどうか確認してください。本機内部にホコリがたまっている場合は、除去してください。

 p.80 「メモリーの交換」

3 拡張ボードを差しなおす

拡張ボードを装着している場合は、ボードに不具合が発生している可能性があります。ボードを差しなおし、問題が解決されるかどうか確認してください。

4 CMOS RAM の初期化を行う

CMOS RAM の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAM の初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.146 「CMOS RAM の初期化」

対処方法 D

次の対処を順番に行ってみてください。

- 1 ディスプレイの電源ランプを確認する**

ディスプレイの取扱説明書をご覧になり、ディスプレイの電源ランプが通常動作時の状態になっているかどうか確認してください。
- 2 ディスプレイケーブルを接続しなおす**

コンピューター本体とディスプレイの接続に問題がある可能性があります。コンピューター本体とディスプレイの電源を切ってから、ディスプレイケーブルを接続しなおし、ディスプレイ、コンピューター本体の順に電源を入れ、問題が解決するかどうか確認してください。
- 3 別のディスプレイを接続する**

ディスプレイとコンピューター、どちらの問題かを切り分けるため、別のディスプレイをお持ちの場合は、コンピューターを接続し、画面が表示されるか確認してください。
- 4 コンピューター本体の電源コードを接続しなおす**

電源に問題がある可能性があります。コンピューター本体とディスプレイの電源を切ってから、コンピューター本体の電源コードを外して 1 分程放置し、ディスプレイ、コンピューター本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。
- 5 周辺機器や増設した装置を取り外す**

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。
- 6 CMOS RAM の初期化を行う**

CMOS RAM の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAM の初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.146 「CMOS RAM の初期化」

対処方法 E

次の対処を行ってみてください。

- 1 Windows 回復環境 (Windows RE) で不具合対処をする**

 p.150 「[システム回復オプション] 画面が表示されたら」

対処方法 F


次の対処を順番に行ってみてください。

- 1 コンピューター本体の電源を入れなおす**


電源を入れなおす場合は、20 秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20 秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。
- 2 周辺機器や増設した装置を取り外す**

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。
- 3 セーフモードで起動し、システムの復元を行う**


必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

 p.144 「セーフモードでの起動」


セーフモードで起動できた場合は、「システムの復元」機能を使用して以前のコンピューターの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。システムの復元を行ってください。

 p.145 「システムの復元」
- 4 前回正常起動時の構成で起動する**


セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

 p.145 「前回正常起動時の構成で起動する」
- 5 BIOS の設定を初期値に戻す**


BIOS の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOS の設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前に BIOS の設定をメモしておいてください。

 p.96 「設定値を元に戻す」
- 6 CMOS RAM の初期化を行う**


CMOS RAM の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAM の初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.146 「CMOS RAM の初期化」
- 7 Windows RE を使う**

「Windows 回復環境 (Windows RE)」の回復ツールを使用して、Windows を修復してみてください。

 p.149 「Windows 回復環境 (Windows RE) を使う」
- 8 Windows を再インストールする**

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.112 「ソフトウェアを再インストールする」

対処方法 G

次の対処を順番に行ってみてください。

1 コンピューター本体の電源を入れなおす


電源を入れなおす場合は、20 秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20 秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

2 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

3 セーフモードで起動し、常駐ソフトを停止したり、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

 p.144 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト（システム稼動中、常に稼動しているソフト）を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。

 p.144 「常駐ソフトの停止」

常駐ソフトが原因ではなかった場合は、「システムの復元」を行ってみてください。以前のコンピューターの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。

 p.145 「システムの復元」

4 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

 p.145 「前回正常起動時の構成で起動する」

5 CMOS RAM の初期化を行う

CMOS RAM の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAM の初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.146 「CMOS RAM の初期化」


6 Windows RE を使う

「Windows 回復環境（Windows RE）」の回復ツールを使用して、Windows を修復してみてください。

 p.149 「Windows 回復環境（Windows RE）を使う」

7 Windows を再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが壊れている可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.112 「ソフトウェアを再インストールする」

対処方法 H


次の対処を順番に行ってみてください。

1 コンピューター本体の電源を入れなおす

電源を入れなおす場合は、20 秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20 秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

2 セーフモードで起動し、常駐ソフトを停止したり、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

 p.144 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト（システム稼動中、常に稼動しているソフト）を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。

 p.144 「常駐ソフトの停止」

常駐ソフトが原因ではなかった場合は、「システムの復元」を行ってみてください。以前のコンピューターの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。

 p.145 「システムの復元」


3 Windows RE を使う

「Windows 回復環境（Windows RE）」の回復ツールを使用して、Windows を修復してみてください。

 p.149 「Windows 回復環境（Windows RE）を使う」

4 Windows を再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが壊れている可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.112 「ソフトウェアを再インストールする」

エラーメッセージ一覧


本機は、起動時に自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次のメッセージが表示された場合には、対処を行ってください。

対処を行ってもなおらない場合には、 別冊『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明および対処法
Reboot and Select proper Boot Device or Insert Boot Media in Selected Boot device and press a key	HDD が検出できません。本機の電源を切り、20 秒以上待ってから電源を入れてください。
CPU Over Temperature Error!	CPU が高温になっています。本機の電源を切り、本機内部が冷えるまで 10 分以上待ってから電源を入れてください。
CPU Fan Error!	CPU ファンが正常に動作していません。本機の電源を切り、20 秒以上待ってから電源を入れてください。
CPU Over Voltage Error!	CPU の電源電圧が異常です。本機の電源を切り、本機内部が冷えるまで 10 分以上待ってから電源を入れてください。

トラブル時に効果的な対処方法

トラブル時に効果的な対処方法を紹介します。

機能	こんなときに
セーフモードで起動  p.144 必要最低限の状態ですべて Windows を起動します。	・ Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき
常駐ソフトの停止  p.144 不具合のある常駐ソフトを停止します。	・ Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（セーフモードで起動できたとき）
システムの復元  p.145 Windows を以前に作成した復元ポイントの状態に戻します。	・ Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（セーフモードで起動できたとき）
前回正常起動時の構成で起動  p.145 Windows を前回正常起動できた状態に戻します。	・ Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（セーフモードでも起動できないとき）
BIOS の初期化  p.96 BIOS の設定を初期値に戻します。	・ BIOS の設定を誤って本機が起動しなくなったとき、動作が不安定になったとき
CMOS RAM の初期化  p.146	・ BIOS の設定を誤って本機が起動しなくなったとき ・ BIOS のパスワードを忘れてしまったとき
Windows 回復環境 (Windows RE)  p.149 Windows を修復します。	・ 「システム回復オプション」画面が表示されたとき ・ Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき
ソフトウェアの再インストール  p.112 本機を購入時の状態に戻します。	・ Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（上記項目の対処をしても起動できないとき） ・ HDD の領域を分割したいとき
システム診断ツール  p.151 ハードウェアの不具合があるかどうかを診断します。	・ 不具合の原因がハードウェアにあるかどうかを調べたいとき

セーフモードでの起動

本機を正常に起動できない場合は、セーフモードで起動してみてください。
セーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

- 1** コンピューターの電源を切り、20 秒程放置してから電源を入れます。
- 2** EPSON と表示され、消えた直後に **F8** を「トン、トン、トン…」と連続的に押します。
- 3** 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、**↑** または **↓** を押して「セーフモード」を選択し、**↵** を押します。

セーフモードで起動できた場合は、不具合に対する対処を行ってください。

常駐ソフトの停止

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト（システム稼働中、常に稼働しているソフト）を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。
常駐ソフトを停止する手順は次のとおりです。

- 1** [スタート] - [検索ボックス] に「msconfig」と入力して、**↵** を押します。
- 2** 「スタートアップ」タブをクリックし、一覧から問題の原因となっている可能性のある項目（常駐ソフト）のチェックを外し、[OK] をクリックします。
- 3** 「再起動が必要な場合があります」というメッセージが表示されたら、[再起動] をクリックします。

常駐ソフトが原因ではなかった場合、外したチェックは元に戻してください。

システムの復元

コンピューターの動作が不安定になった場合、「システムの復元」を行って Windows を以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻すことで、問題が解決できることがあります。復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に自動的に作成されます。

システムを復元ポイントの状態に戻す方法は次のとおりです。

- 1** [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「システムツール」 - 「システムの復元」を選択します。
- 2** 「システムの復元」画面に「推奨される復元」か「別の復元ポイントを選択する」の選択肢が表示された場合は、「推奨される復元」を選択します。
復元ポイントを自分で指定したい場合は、「別の復元ポイントを選択する」を選択します。
- 3** [次へ] をクリックします。
- 4** 復元ポイントの一覧が表示された場合は、復元ポイントを選択し、[次へ] をクリックします。
- 5** 「復元ポイントの確認」と表示されたら、内容を確認し、[完了] をクリックします。
- 6** 「いったんシステムの復元を開始したら…」と表示されたら、[はい] をクリックします。
コンピューターが再起動します。
- 7** 再起動後、「システムの復元は正常に完了しました。…」と表示されたら、[閉じる] をクリックします。
これでシステムの復元は完了です。

前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

- 1** シャットダウン状態からコンピューターの電源を入れます。
- 2** 「EPSON」と表示され、消えた直後に **F8** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。
- 3** 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、**↑** または **↓** を押して、「前回正常起動時の構成（詳細）」を選択し、**↵** を押します。

CMOS RAMの初期化

CMOS RAM には、「BIOS Setup ユーティリティ」で設定した各種情報などが保存されています。通常は、CMOS RAM を初期化する必要はありません。BIOS Setup ユーティリティで設定したパスワードを忘れていたり、BIOS の設定を誤ったりして本機が起動しなくなった場合には、CMOS RAM を初期化することで動作が可能になります。





- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- 作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。




- CMOS RAM の初期化は、本機の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って 10 分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



- CMOS RAM を初期化すると、現在の BIOS の設定情報は初期値に戻ります。CMOS RAM を初期化する前に、BIOS の設定値を記録しておくことをおすすめします。
 p.108 「BIOS の設定値」
- BIOS で管理者パスワードを設定し、HDD のアクセスを制限していた場合、CMOS RAM の初期化を行っても、HDD へのアクセス制限を解除することはできません。HDD へのアクセス制限を設定した HDD は、管理者パスワードを忘れると使用できなくなります。
 p.99 「HDD アクセス制限」

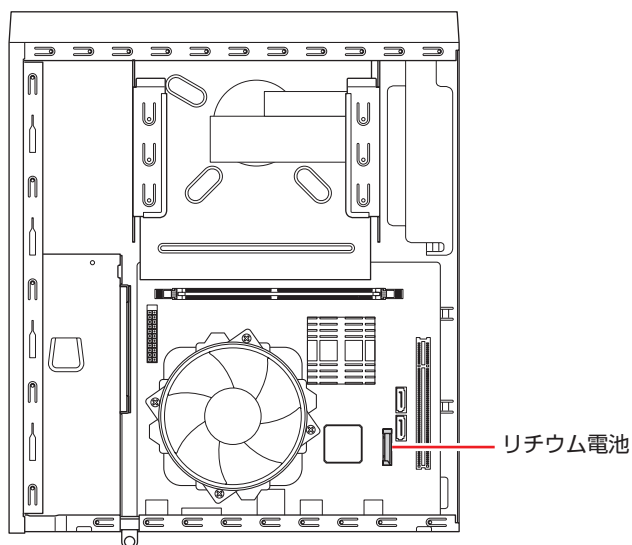
CMOS RAM の初期化の手順は、次のとおりです。

- 1** コンピューター本体および接続している周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで 10 分以上放置してください。
- 2** コンピューター本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。
 p.76 「本体カバーの取り外し・取り付け」 - 「取り外し」

4 リチウム電池の位置を確認します。

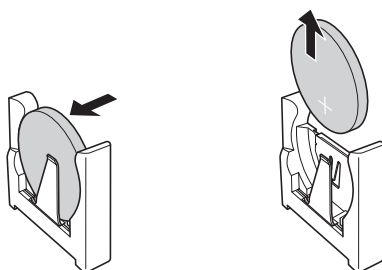
リチウム電池は、マザーボード上の次の位置にあります。

本体前面側



5 リチウム電池を抜きます。

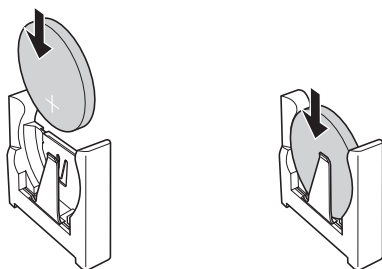
電池ホルダー側から電池の上部を押しながら、上へ引き抜きます。








6 そのまま 5 秒以上、放置します。

7 新しいリチウム電池を取り付けます。

刻印面 (+ 側) が表側になるようにして、電池ホルダーの金具と金具の間に電池をしっかりと押し込みます。



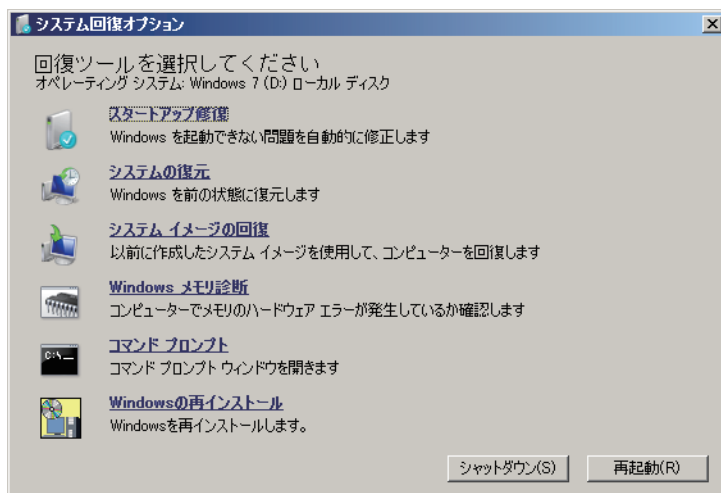
- 8** 本体カバーを取り付けます。
 p.78 「本体カバーの取り外し・取り付け」 – 「取り付け」
- 9** コンピューターの電源を入れます。
- 10** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「CMOS Checksum Bad」と表示されたら、
 を押して、BIOS Setup ユーティリティを実行します。
 p.91 「BIOS Setup ユーティリティの操作」
- 11** 「Exit」メニュー画面 – 「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」を実行します。
 p.96 「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」
- 12** 日付、時刻やそのほか変更の必要のある項目の再設定を行います。
- 13**  を押して BIOS Setup ユーティリティを終了します。

Windows回復環境(Windows RE)を使う

本機のHDD内と「Windows 7リカバリーDVD」には、「Windows回復環境(Windows RE)」が収録されています。Windows REを使用すると、不具合に対する対処を行うことができます。

Windows REの項目

Windows REには、次の項目があります。



<イメージ>

●スタートアップ修復

Windowsを起動できない問題を自動的に修正します。Windowsが起動できないときは、まずスタートアップ修復を行ってみてください。問題が解決しない場合は、「システムイメージの回復」を行ってください。

●システムの復元

コンピューターの状態を以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻します。Windowsの動作が不安定な場合に行ってみてください。

 p.145 「システムの復元」


問題が解決しない場合は、「システムイメージの回復」を行ってください。

●システムイメージの回復

事前にシステムイメージを保存しておいた場合は、Windowsやソフトウェアを、システムイメージ保存時の状態まで一度にリカバリーすることができます。

※再インストールと同様、保存されているデータは消去されます。事前にバックアップを行ってください。

システムイメージの回復については、次の場所をご覧ください。

 「PCお役立ちナビ」－【トラブル解決】－「Windowsの操作」－「バックアップ」－「システムイメージの作成を使ってバックアップを行う方法」

●Windowsメモリ診断

メモリーにハードウェアエラーが発生しているかどうかを確認します。

●コマンドプロンプト

コマンドプロンプトウィンドウを開きます。

「システム回復オプション」画面が表示されたら

Windows に不具合が起きると、HDD 内の Windows RE が自動的に起動し、「システム回復オプション」画面が表示されます。

「システム回復オプション」画面が表示されたら、次の手順で Windows RE の項目を表示させ、対処を行います。

- 1 「システム回復オプション」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 2 「回復オプションにアクセスするには…」と表示されたら、「ユーザー名」を選択し、パスワードを設定していた場合には「パスワード」にパスワードを入力して [OK] をクリックします。
- 3 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。

 p.149 「Windows RE の項目」

HDD 内の Windows RE を手動で起動する

HDD 内の Windows RE は、手動で起動することもできます。

手動で起動する方法は、次のとおりです。

- 1 コンピューターの電源を切り、20 秒程放置してから、電源を入れます。
- 2 「EPSON」と表示され、消えた直後に **F8** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。
- 3 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、「コンピューターの修復」を選択し、**↩** を押します。
- 4 「システム回復オプション」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 5 「回復オプションにアクセスするには…」と表示されたら、「ユーザー名」を選択し、パスワードを設定していた場合には、「パスワード」にパスワードを入力して、[OK] をクリックします。
- 6 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。

 p.149 「Windows RE の項目」

DVD の Windows RE を使用する

Windows RE は、本機に添付の「Windows 7 リカバリー DVD」にも収録されています。HDD 内に設定されている Windows RE を消去してしまった場合などに使用してください。DVD に収録されている Windows RE の起動方法は、次のとおりです。

- 1** 「Windows 7 リカバリー DVD」を光ディスクドライブにセットして、コンピューターを再起動します。
- 2** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。
- 3** 「システム回復オプション」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 4** オペレーティングシステムの一覧が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 5** 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。

 p.149 「Windows RE の項目」

システム診断ツールを使う

システム診断ツールを使うと、ハードウェアに不具合が発生しているかどうかを診断することができます。

システム診断ツールの種類

システム診断ツールには、次の 2 種類があります。

- PC お役立ちナビから起動するシステム診断ツール

PC お役立ちナビからシステム診断を行うことができます。Windows を起動できる場合に使用します。

- CD から起動するシステム診断ツール

Windows が起動できない場合に、「リカバリーツール CD」からツールを起動してシステム診断を行います。

システム診断を実行する

Windows を起動できる場合とできない場合で、システム診断の実行方法は異なります。


Windows を起動できる場合

PC お役立ちナビからシステム診断を行います。
実行方法は、次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「PC お役立ちナビ」アイコンをダブルクリックします。




< PC お役立ちナビアイコン >

- 2 PC お役立ちナビが起動したら、[トラブル解決] - [システム診断ツール起動] をクリックします。
- 3 「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[はい] をクリックします。
- 4 システム診断ツールが起動したら、診断したい項目をクリックします。
該当項目の診断が開始されます。
- 5 診断が終了したら、診断結果を確認します。
「Passed」と表示された場合、ハードウェアは正常に動作しています。
「Failed」と表示された場合は、該当項目に不具合がある可能性があります。
 別冊『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。

Windows を起動できない場合

「リカバリーツール CD」からシステム診断ツールを起動します。
実行方法は、次のとおりです。

- 1 リカバリーツール CD を光ディスクドライブにセットして、コンピューターを再起動します。
- 2 黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、消えた後、「Kernel Loading・・・ Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。
システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。
- 3 診断が終了したら、診断結果を確認します。
「F」が表示された場合は、表示された項目に不具合がある可能性があります。 別冊『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。
- 4 光ディスクドライブからリカバリーツール CD を取り出し、電源を切ります。
これでシステム診断は完了です。



付録

本機をご使用になる際に役に立つ情報や、本機の仕様などについて説明します。

お手入れ	154
バックアップ CD の作成	155
HDD 領域 (ドライブ) の分割・変更・作成	157
リチウム電池の交換	164
コンピューターを廃棄するときは	167
機能仕様一覧	169

お手入れ

本機は精密な機械です。取り扱いに注意して、定期的にお手入れを行ってください。



お手入れは、本機の電源を切った状態で行ってください。

本機のお手入れ

本機のお手入れ方法について説明します。

外装の汚れ

コンピューター本体の外装の汚れは、中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で、軽く拭き取ってください。キーボードやマウスの外装の汚れも同様です。




- ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。
- 変色や変形の可能性があります。

通風孔

コンピューターの通風孔にホコリなどがたまると、空気の通りが悪くなります。通風孔のホコリは、定期的に乾いた柔らかい布で取り除いてください。

コンピューター本体内部

本体内部にホコリなどがたまっている場合は、エアースプレーで吹き飛ばしてください。

 p.76 「本体カバーの取り外し・取り付け」



- 作業するときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火災の原因となります。
- 電源ユニットは絶対に分解しないでください。けがや感電・火災の原因となります。



- 作業時は、誤って本体内部の部品を傷つけないよう注意してください。
- 水分を含ませたティッシュや化学ぞうきんなどは、使わないでください。水分や化学物質により故障の原因となります。

バックアップ CD の作成

書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時

HDD の消去禁止領域に収録されている本体ドライバーやソフトウェアのインストール用データは、CD メディアにバックアップすることができます。

HDD が故障したり、誤って消去禁止領域を削除したりすると、インストール用データは消えてしまいます。万一来に備え、インストール用データを CD メディアにバックアップしておくことをおすすめします。

バックアップCDの作成方法

バックアップ CD はリカバリーツールを使用して作成します。
バックアップ CD の作成方法は次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。



<リカバリーツールアイコン>

- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
- 3 「リカバリーツール」画面が表示されたら、[CD 作成] をクリックします。

- 4 本体ドライバーやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から CD にバックアップしたい項目を選択して [CD 作成] をクリックします。

バックアップするデータが一時的に HDD にコピーされます。選択した項目によっては、**5** の画面が表示されるまでに数分かかります。



<イメージ>

項目名の前に「*」のついたソフトウェアは、すべて本体ドライバーの CD 内に収録されます。個々に CD を作成する必要はありません。それ以外の項目は、1 項目につき CD メディアが 1 枚必要です。

- 5 画面が表示されたら、以降は画面の指示に従って CD に書き込みを行ってください。


バックアップCDからインストールを行うには

作成したバックアップ CD から本体ドライバーやソフトウェアをインストールする方法は次のとおりです。

ここでは、本体ドライバーのバックアップ CD からインストールする手順を例に説明します。

- 1** 作成した本体ドライバーのバックアップ CD を光ディスクドライブにセットします。
- 2** 「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exe の実行」をクリックします。
クリックする項目名は、「Setup.exe の実行」など、作成したバックアップ CD によって異なります。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピューター」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 3** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
- 4** 「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
本体ドライバー以外のソフトウェアをインストールする場合は、ソフトウェア名をクリックします。

ここで表示される画面は、作成したバックアップ CD によって異なります。

以降の手順は、 p.112 「ソフトウェアを再インストールする」のそれぞれの項目をご覧ください。

HDD 領域（ドライブ）の分割・変更・作成

ここでは、HDD 領域（ドライブ）を分割・変更して使用方法について説明します。

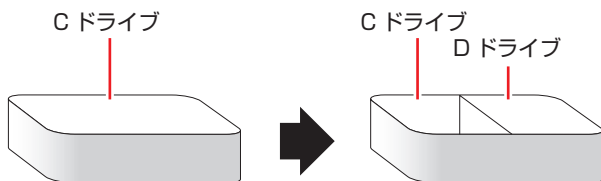
HDD領域を分割して使用する(概要)

HDD 領域（ドライブ）の分割

HDD 領域は、いくつかに分けて、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。分割したひとつひとつの領域を「HDD 領域」または「パーティション」と言います。また、Windows で使える HDD 領域が、「ドライブ」になります。

1 台の HDD を分割する

例：1 つの HDD 領域（C ドライブ）を、2 つの HDD 領域（C ドライブと D ドライブ）に分割します。

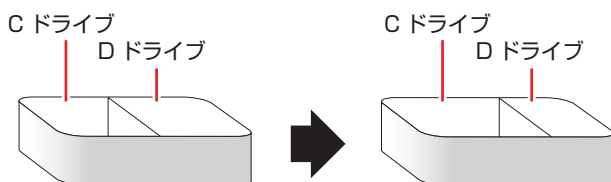


HDD 領域（ドライブ）のサイズの変更

すでに分割されている HDD 領域のサイズ（容量）は変更することができます。

ドライブのサイズを変更する

例：C ドライブのサイズを大きくします。



サイズを変更する場合は、C ドライブと D ドライブを削除して、分割しなおす必要があります。

Cドライブを分割・変更する

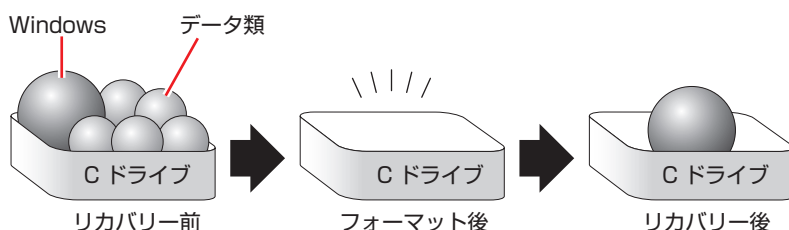
Cドライブ分割のメリットとデメリット

Cドライブを分割すると、次のようなメリット・デメリットがあります。
Cドライブを分割する場合は、これらをよく理解した上で行ってください。

メリット

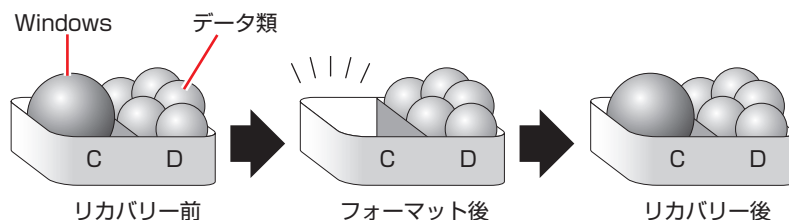
HDD領域を分割してデータの保存先を分けておくことで、リカバリー（Windowsの再インストール）時に最小限の作業で元の環境に復帰することができます。

HDD領域が1つの場合



リカバリー（Windowsの再インストール）を行うと、Cドライブのデータはすべて消去されます。

HDD領域を分割した場合



たとえば、WindowsやソフトウェアはCドライブに、作成したデータなどはDドライブに保存しておきます。

この状態でリカバリー（Windowsの再インストール）を行うと、消去されるのはCドライブのみとなるため、Dドライブのデータは、リカバリー後、すぐにそのまま使用することができます。



制限

HDDが分割されている状態でリカバリーを行うときは、万一に備えてCドライブ以外のドライブの重要なデータをバックアップしてください。

デメリット

- Cドライブ（Windowsが入っているドライブ）の分割を行うには、リカバリー（Windowsの再インストール）が必要です。
- HDD領域を変更すると、変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。
- HDD領域を分割して使用すると、それぞれ分けられた領域の最大容量までしか使用できないため、それぞれの領域により、容量が制限されます。

Cドライブの分割・変更の流れ

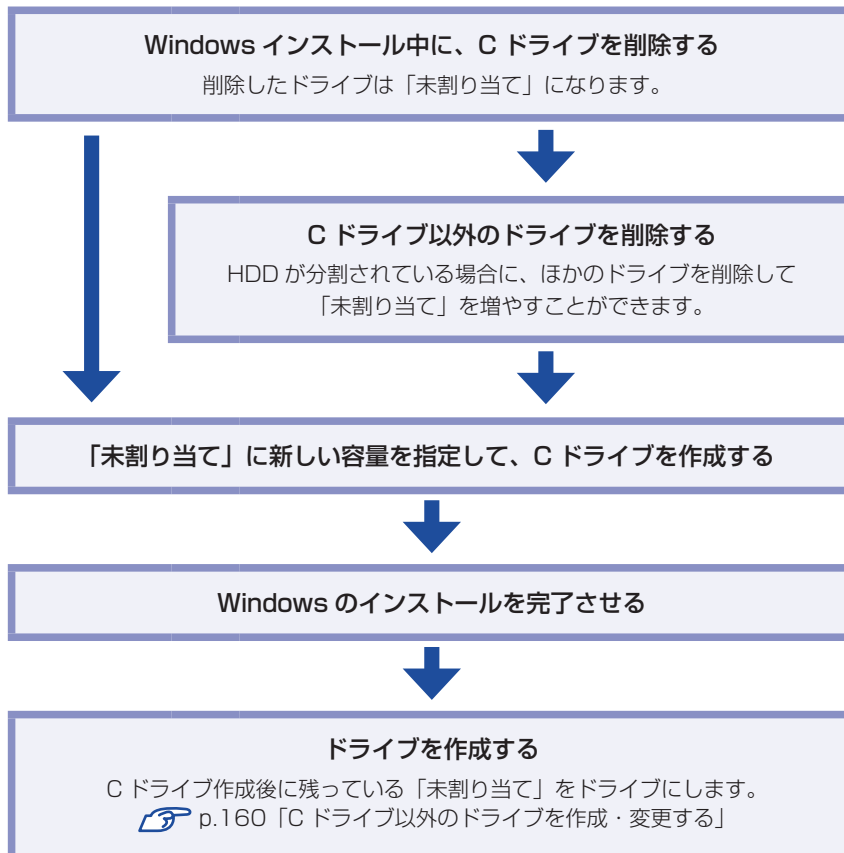
Cドライブの分割・変更は、リカバリー（Windowsの再インストール）中に行います。サイズ（容量）を変更するには、まず変更するドライブを削除してからサイズを指定して再作成します。Cドライブ以外のドライブの変更方法は、[👁 p.160](#)「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧ください。



制限

ドライブを分割・変更すると、分割・変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。必要に応じてバックアップを取っておいてください。


Cドライブの分割・変更の流れは次のとおりです。
作業は [👁 p.117](#)「Windows 7のインストール」の手順に従ってください。




Cドライブ以外のドライブを作成・変更する

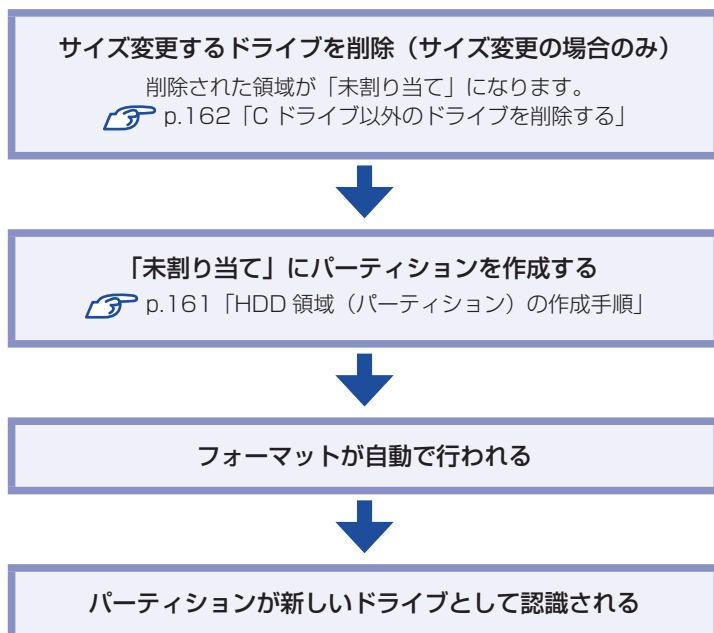
ここでは、Cドライブ以外のドライブを作成・変更する方法について説明します。
次のような場合にご覧ください。

- Cドライブ以外のドライブのサイズを変更する場合
- Windowsの再インストール中にCドライブを分割して作成・変更された「未割り当て」をドライブにして使用する場合

Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割・変更を行う場合は、 p.158「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

ドライブ作成・変更の流れ

ドライブの作成の流れは次のとおりです。
作業は  p.161「HDD領域（パーティション）の作成手順」に従ってください。



※HDD内の「未割り当て」にパーティションを作成すると、パーティションは、Windows上でドライブ（DやEなど）として利用できるようになります。



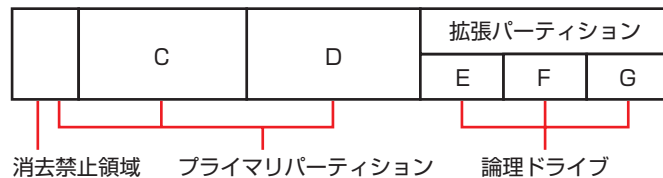
参考

パーティションとは

ドライブの作成・変更を行う画面（ディスクの管理）では、HDD 領域のことを「パーティション」と言います。パーティションには、「プライマリパーティション」と「拡張パーティション」があります。

- 1つのHDDに作成できるパーティションは最大で4つです。「消去禁止領域」もパーティションの1つです。
- パーティションを作成すると、自動的に3つ目まではプライマリパーティションとなり、4つ目は拡張パーティションとなります。
- 拡張パーティションには、論理ドライブをいくつも作成できます。

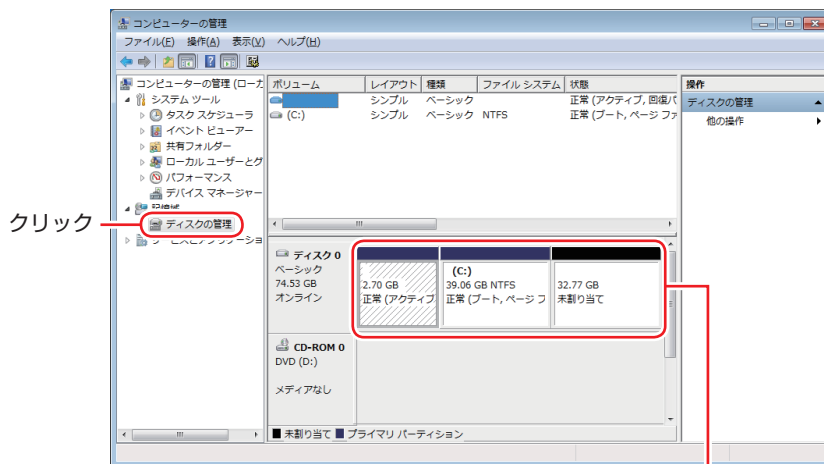
<パーティションの組み合わせの例>



HDD 領域（パーティション）の作成手順

HDD 領域（パーティション）を作成する手順は、次のとおりです。

- 1 **【スタート】** – **【コントロールパネル】** – **【システムとセキュリティ】** – **【管理ツール】** – **【コンピューターの管理】** をダブルクリックします。
- 2 **【コンピューターの管理】** 画面が表示されたら、画面左の **【ディスクの管理】** をクリックします。
HDD 領域の状態が表示されます。



<イメージ> HDD 領域の状態

- 3 **【未割り当て】** を右クリックして、表示されたメニューから **【新しいシンプルボリューム】** をクリックします。



- 4 「新しいシンプルボリュームウィザード」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 5 「ボリュームサイズの指定」と表示されたら、サイズを指定して、[次へ] をクリックします。
- 6 「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、ドライブ文字を選択して [次へ] をクリックします。
- 7 「パーティションのフォーマット」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 8 「新しいシンプルボリュームウィザードの完了」と表示されます。[完了] をクリックします。
フォーマットが開始します。フォーマットが完了したら、HDD 領域（パーティション）の作成は完了です。

Cドライブ以外のドライブを削除する

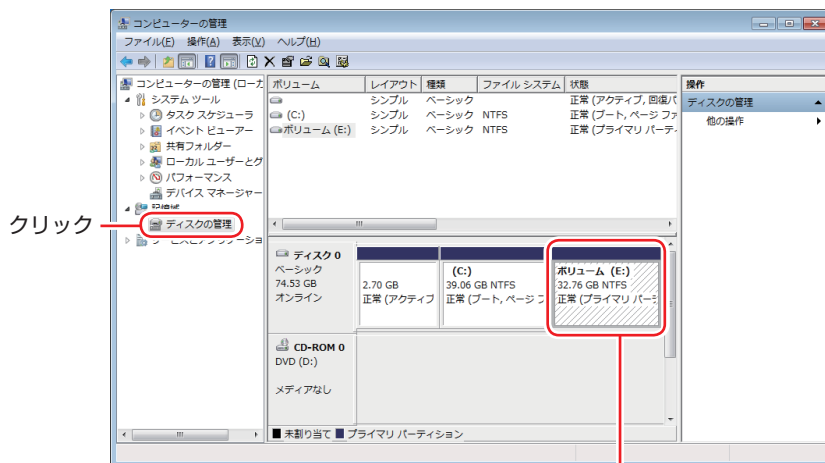
Cドライブ以外のドライブ（Dドライブなど）のサイズを変更するには、変更するドライブを削除して、新しいサイズでドライブを作成しなおします。

ドライブを削除すると、ドライブ内のすべてのデータは削除されます。ドライブ内の重要なデータは、CドライブやCD-Rメディアなどにあらかじめバックアップを行ってください。

ドライブを削除する手順は、次のとおりです。

- 1 [スタート] – 「コントロールパネル」 – 「システムとセキュリティ」 – 「管理ツール」 – 「コンピューターの管理」をダブルクリックします。
- 2 「コンピューターの管理」画面が表示されたら、画面左の「ディスクの管理」をクリックします。

HDD 領域の状態が表示されます。




<イメージ> 右クリック

3 削除したいドライブ (パーティション) の領域を右クリックして、表示されたメニューから「ボリュームの削除」をクリックします。

4 「・・・続行しますか?」と表示されたら【はい】をクリックします。

パーティションを削除すると、「未割り当て」になります。「未割り当て」をパーティションとして使用したい場合は、パーティションの作成を行います。

 p.161 「HDD 領域 (パーティション) の作成手順」

リチウム電池の交換

「BIOS Setup ユーティリティ」で設定した情報は、マザーボード上のリチウム電池により保持されます。

本機で使用するリチウム電池は、次のとおりです。

●CR2032（または同等品）

リチウム電池は消耗品です。コンピューターの使用状況により異なりますが、寿命は約3年です。日時や時間がおかしくなったり、BIOSで設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。このような場合は、リチウム電池を交換してください。



- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- 作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



- 内蔵リチウム電池の交換は、本機の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



リチウム電池の交換を行うと、現在のBIOSの設定情報は初期値に戻ります。リチウム電池の交換を行う前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。
[📖 p.108 「BIOS の設定値」](#)

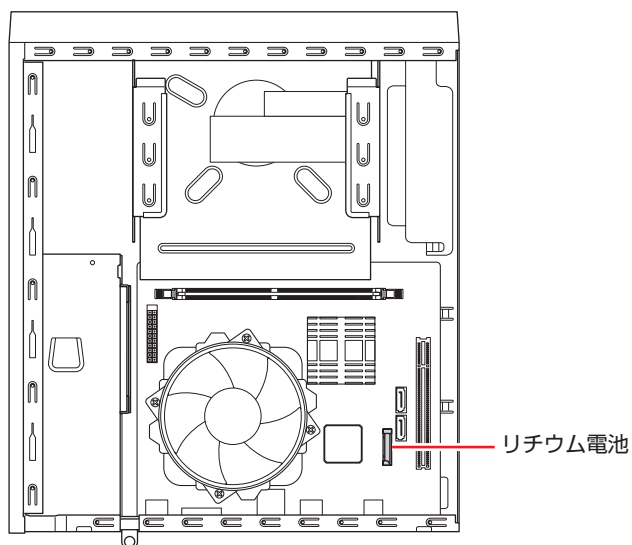
リチウム電池を交換する手順は、次のとおりです。

- 1** コンピューター本体および接続している周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピューター本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。
[📖 p.76 「本体カバーの取り外し・取り付け」 - 「取り外し」](#)

4 リチウム電池の位置を確認します。

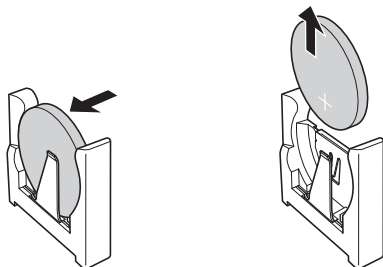
リチウム電池は、マザーボード上の次の位置にあります。

本体前面側



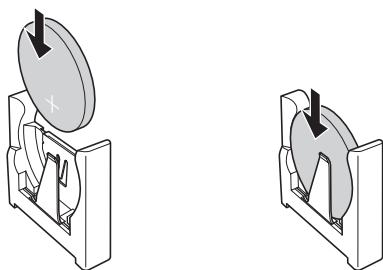
5 リチウム電池を抜きます。

電池ホルダー側から電池の上部を押しながら、上へ引き抜きます。



6 新しいリチウム電池を取り付けます。




刻印面 (+側) が表側になるようにして、電池ホルダーの金具と金具の間に電池をしっかりと押し込みます。



7 本体カバーを取り付けます。

 p.76 「本体カバーの取り外し・取り付け」 - 「取り付け」



- 8** コンピューターの電源を入れます。
- 9** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「CMOS Checksum Bad」と表示されたら、
 を押して、BIOS Setup ユーティリティを実行します。
 p.91 「BIOS Setup ユーティリティの操作」
- 10** 「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」を実行します。
 p.96 「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」
- 11** 日付、時刻やそのほか変更する必要がある項目の再設定を行います。
- 12** 「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」で [Ok] を選択して BIOS Setup ユーティリティを終了します。

コンピューターを廃棄するときは

本機を廃棄するときは [別冊](#) 『サポート・サービスのご案内』の「コンピューターの廃棄・譲渡について」をご覧ください。

HDDのデータを消去する

本機を廃棄する前に HDD のデータを消去してください。

リカバリーツール CD に収録されている「システム診断ツール」では、HDD 内のデータをすべて消去することができます。

消去を開始すると、HDD のデータはもとには戻りません。必要に応じてデータをバックアップしてください。












制限

データ消去の結果について、当社および開発元の Ultra-X 社は責任を負いません。HDD のデータ消去・廃棄は、お客様の責任において行ってください。

データの消去

HDD 内のデータを消去する手順は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を入れ、リカバリーツール CD を光ディスクドライブにセットします。
「自動再生」画面が表示された場合は、 をクリックして画面を閉じてください。
- 2** [スタート] - [▷] - 「再起動」をクリックして、本機を再起動します。
- 3** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Kernel Loading・・・ Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。
システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。
- 4**  +  を押して診断を中止した後、どれかキーを押します。
- 5** 選択項目画面が表示されたら、 で「HD Erase」を選択して  を押します。
- 6** 選択項目画面が表示されたら、 で「Full Erase」を選択して  を押します。
- 7** 選択項目画面が表示されたら、「No Verify」を選択して  を押します。
「!!WARNING!!」画面が表示されます。
消去が開始されると、途中で止めることはできません。消去を中止する場合は、 を押すと、「システム診断ツール」画面に戻ります。
- 8** キーボードで「Yes」と入力します。
消去が始まります。
消去には、しばらく時間がかかります。かかる時間は HDD の容量によって異なります（40GB の HDD の場合で約 30 分）。



9

「Erase of HDO :Passed Press any key to continue.」と表示されたら、リカバリツール CD を光ディスクドライブから取り出して、コンピューターの電源を切ります。

これでデータの消去は完了です。

機能仕様一覧

型番	AY301	
CPU	プロセッサ	インテル Core 2 Duo プロセッサ、インテル Celeron プロセッサ (種類は購入時の選択による)
	ソケット	LGA775 Socket
チップセット	インテル G41 Express + ICH7	
BIOS	AMI BIOS	
メインメモリー	メモリー	PC2-6400 (DDR2-800 SDRAM) を使用して最大 2GB まで搭載可能
	スロット	DIMM スロット (240 ピン) × 1
ビデオ機能	コントローラー	インテル G41 Express 内蔵 3D グラフィックス
	メモリー (メインメモリーと共用)	メインメモリー 1GB 時最大 270MB メインメモリー 2GB 時最大 782MB
	表示解像度 (最大) *1	1920 × 1200 True Color 32 ビット (約 1,677 万色)
HDD	シリアル ATA300MB/s 対応 3.5 型 HDD (容量は購入時の選択による)	
光ディスクドライブ (オプション)	シリアル ATA 対応 5.25 型光ディスクドライブ (種類は購入時の選択による)	
サウンド機能	インテル ハイ・デフィニション・オーディオ対応 Realtek 製 ALC662 コントローラー	
ネットワーク機能	1000Base-T/100Base-TX/10Base-T 対応 ATHEROS 製 AR8121 コントローラー	
マウス/キーボード (オプション)	購入時の選択による	
インタフェース	USB	6 (前面×2、背面×4) : USB2.0
	LAN	1 : RJ-45
	サウンド	前面 : ヘッドホン出力×1、マイク入力×1 背面 : ライン入力×1、ライン出力×1、マイク入力×1
	ディスプレイ	1 : DVI-I 29 ピン
	マウス	1 : PS/2 互換 ミニ DIN 6 ピン
ドライブベイ	5.25 型ドライブベイ	1
	3.5 型 HDD ベイ	1
拡張スロット	PCI	1 : ボード長 170 × 幅 64mm まで
外形寸法 (幅×奥行×高さ)	103 × 339 × 289mm (スタンド・突起部を除く)	
質量	約 6.0kg (基本構成時)	
電源	AC100V ± 10% (50/60 Hz) 容量 : 250W	
消費電力 *2	358W (最大) / 35.3W (通常時) / 1.6W (スリープ時) / 0.6W (電源 OFF 時)	
動作環境	動作温度 : 10 ~ 35℃、動作湿度 : 20 ~ 80% (ただし、結露しないこと)	

*1 本機に搭載されたビデオコントローラーの出力解像度であり、接続するディスプレイの仕様によっては表示できない場合があります。

*2 代表的な部品構成での測定値です。値は利用状況 / 部品構成により変化します。

索引

A

Administrator	115
Adobe Reader	20
インストール	122
セットアップ	123

B

BIOS	89
BIOS Setup ユーティリティ	91
起動	91
起動 (Boot) デバイスの順番を変更する	100
終了	95
設定項目	102
設定値	108
設定値を元に戻す	96
操作	92
パスワードの設定	97

C

Caps Lock	35
CD メディア	
読み込み・再生	43
CMOS RAM の初期化	146
CPRM	44
C ドライブ	37
分割・変更する	158
C ドライブ以外のドライブ	
削除	162
作成・変更する	160

D

DVD メディア	
読み込み・再生	44
DVI-I コネクタ	19, 51
DVI-VGA 変換アダプター	51

G

goo スティック	21, 61
インストール	128

H

HDD アクセス制限	99
------------------	----

HDD アクセスランプ	18
HDD のデータ消去	167
HDD (ハードディスクドライブ)	37
HDD 領域	37
分割・変更・作成	157

I

Internet Explorer	60
情報バー	61
追加機能	61
i-フィルター 30 日版	64
インストール	126

J

Java2 Runtime Environment	20
JWord Plugin	21, 61
インストール	128

L

LAN 機能	56
LAN ケーブル	56
LAN コネクタ	19, 56

M

MS-IME	34
--------------	----

N

Nero 9 Essentials	21, 46
インストール	125
NTFS ファイルシステム	37
Num Lock	35

O

OS	15
----------	----

P

PCI スロット	84
PC お役立ちナビ	4, 20
バックアップ	115
復元	129

S

Scroll Lock	35
Supervisor Password (管理者パスワード)	97

U

USB	48
USB 機器	48
接続と取り外し	49
USB コネクタ	18, 19, 48
User Password (ユーザーパスワード)	97

W

Wakeup On LAN	57
WDLG フォトガジェット	21
インストール	126
Web フィルタリングソフトウェア	64
Windows 7	20
インストール	117
使い方	28
Windows 7 リカバリー DVD	20, 113
Windows Live Suite	20, 31
インストール	123
Windows Live メール	60
Windows RE	149
Windows Update	62
Windows 回復環境	149
Windows メモリ診断	149
WinDVD	21, 44
インストール	124

あ

アイコン	16
アップグレードサービス	74
アップデート	
Windows	62

い

インストール	
Adobe Reader	122
goo スティック	128
i-フィルター 30 日版	126
JWord Plugin	128
Nero 9 Essentials	125

WDLG フォトガジェット	126
Windows 7	116, 117
Windows Live Suite	123
WinDVD	124
拡張ボードのドライバー	122
キーボードユーティリティ	129
本体ドライバー	121
マウスユーティリティ	129
マカフィー・PC セキュリティセンター	
90 日期間限定版	124
リカバリーツール	120
インターネット	60

お

オーディオ機器の接続	53
お手入れ	154
オペレーティングシステム	15
お役立ち	5
音量の調節	54, 55

か

解像度	51
書き込み	
光ディスクメディア	45
拡張スロット	19, 74, 84
拡張パーティション	161
拡張ボード	
ドライバーインストール	122
取り付け・取り外し	84
取り付け・取り外し後の作業	88
各部の名称	18
カスタマイズ	13
カテゴリの表示	29
かな入力	34
画面表示できないときは	136
管理者	30
管理者パスワード (BIOS)	97

き

キーボード	33
キーボードコネクタ	19
キーボードユーティリティのインストール	129
キーロック表示ランプ	33
起動順位の変更	100, 106

起動できないときは.....	136
機能キー.....	33
機能仕様一覧.....	169
休止状態.....	68
有効にする.....	68
強制的に電源を切る.....	27

く

クリック.....	36
-----------	----

け

検索.....	4
---------	---

こ

困ったときは.....	133
コマンドプロンプト.....	149
コントロールパネルの表示.....	29
コンピューターウイルス.....	63
コンピューターの廃棄.....	167

さ

再インストール.....	112
必要なメディア.....	113
再起動.....	26
再生	
CD メディア.....	43
DVD メディア.....	44
サウンド機能.....	53
サウンドドライバー.....	20
サウンドユーティリティ.....	54
サポートツール.....	4

し

システムイメージの回復.....	149
システム診断ツール.....	5, 21, 151
システムの復元.....	145
シャットダウン.....	25
消去禁止領域.....	20, 21, 37
常駐ソフトの停止.....	144
省電力	
移行する.....	69
時間経過で移行させない.....	69
種類.....	67

復帰方法.....	70
情報マップ.....	2
使用・保管時の注意.....	10
初期設定ツール.....	115
シリアル ATA.....	37, 39

す

数値キー.....	33
スクロール.....	36
スタートアップ修復.....	149
スタートボタン.....	16
スタートメニュー.....	16
スピーカー.....	53
スリープ.....	25, 67
復帰方法.....	70
スロットカバー.....	85

せ

制御キー.....	33
製品保護上の注意.....	10
セーフモード.....	144
セキュリティーソフトウェア.....	63
セキュリティー対策.....	62
セキュリティーロックスロット.....	19, 71
接続と取り外し	
USB 機器.....	49
セットと取り出し	
光ディスクメディア.....	40
前回正常起動時の構成で起動.....	145

そ

装置の増設・交換.....	73
ソフトウェア	
強制終了.....	26
再インストール.....	111

た

タスクバー.....	16
縦置きスタンド.....	76
タブ.....	16
ダブルクリック.....	36

ち

チップセットドライバー.....	20
直接入力モード.....	34

つ

通知領域.....	16
通風孔.....	19

て

ディスプレイ	
DVI-I コネクタ.....	19, 51
接続.....	51
ディスプレイの電源を切る.....	67
デスクトップ.....	16
電源コネクタ.....	19
電源スイッチ.....	18
電源ランプ.....	18
表示.....	70
電源を入れる.....	24
電源を切る.....	25
電池ホルダー.....	147, 165
添付されているソフトウェア.....	20

と

ドラッグアンドドロップ.....	36
トラブル解決.....	5
トラブルが発生したら.....	134
トラブルシューティングツール.....	135
取り付け・取り外し	
拡張ボード.....	84
メモリー.....	80
取り付け・取り外し後の作業	
拡張ボード.....	88
メモリー.....	83
「取り外し」アイコン.....	49, 50

に

日本語入力システム.....	34
日本語入力モード.....	34

ね

ネットワーク.....	56
ネットワークドライバー.....	20

は

パーティション.....	160
ハードディスクドライブ.....	HDD 参照
廃棄 (コンピューター).....	167
ハイブリッドスリープ.....	68
パスワード (BIOS).....	97
パスワード (Windows).....	119
バックアップ.....	117
バックアップ CD	
インストール.....	156
作成.....	155
ハンガアップ.....	26

ひ

光ディスクドライブ.....	18
使う.....	39
光ディスクドライブアクセスランプ.....	18
光ディスクドライブイジェクトホール.....	18
光ディスクドライブイジェクトボタン.....	18
光ディスクメディア	
書き込み.....	45
製品保護上の注意.....	11
読み込み・再生.....	44
ビデオドライバー.....	20
表示機能.....	51
標準ユーザー.....	30

ふ

フォルダーメニュー.....	29
復帰方法	
省電力状態.....	70
プライマリパーティション.....	161
プロジェクター.....	51
プロバイダー.....	60

へ

ヘッドホン出力コネクタ.....	18, 53
------------------	--------

ほ

ボタン.....	16
ボリューム.....	54
本体カバー	
取り外し・取り付け.....	76

本体ドライバー	20
インストール	121

ま

マイク	53
音量調節	55
マイク入力コネクタ	18, 19, 53, 54
マウス	
製品保護上の注意	12
操作	36
マウスコネクタ	19
マウスユーティリティのインストール	129
マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版	21, 63
マカフィー・サイトアドバイザー	61
マニュアルびゅうわ	5

み

右クリック	36
-------------	----

め

メモリー	79
交換	80
交換後の作業	83
仕様	79

も

文字キー	33
文字を入力するには	34

ゆ

ユーザーアカウント	30
ユーザーアカウント制御画面	30
ユーザーパスワード (BIOS)	97
削除	99

よ

読み込み・再生	
CD メディア	43
DVD メディア	44

ら

ライティングソフト	45
-----------------	----

ライン出力コネクタ	19, 54
ライン入力コネクタ	19, 54

り

リカバリー	112
リカバリー DVD	20
リカバリーツール	20
インストール	120
リカバリーツール CD	20, 21, 113
リチウム電池の交換	164
リモートブート	59
領域の作成	130

ろ

ローマ字入力	34
論理ドライブ	161

使用限定について

本製品は、OA 機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24 時間稼働システムなど極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用は意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります。当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本製品は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合を生じることがあります。

電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。（社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピューターの瞬時電圧低下対策規格に基づく表示）

有寿命部品について

当社のコンピューターには、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスク、冷却用ファンなど）が含まれています。有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1 日約 8 時間、1 ヶ月で 25 日間のご使用で約 5 年です。

上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。

なお、長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保証期間内であっても、部品交換（有料）が必要となります。

JIS C 61000-3-2 適合品

本製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しております。

電源の入力波形は、正弦波のみをサポートしています。

パソコン回収について



当社では、不要となったパソコンの回収・再資源化を行っています。PC リサイクルマーク付きの当社製パソコンおよびディスプレイは、ご家庭から廃棄する場合、無償で回収・再資源化いたします。パソコン回収の詳細は下記ホームページをご覧ください。

<http://shop.epson.jp/pcrecycle/>

著作権保護法について

あなたがビデオなどで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

テレビ・ラジオ・インターネット放送や市販の CD・DVD・ビデオなどで取得できる映像や音声は、著作物として著作権法により保護されています。個人で楽しむ場合に限り、これらに含まれる映像や音声を録画または録音することができますが、他人の著作物を収録した複製物を譲渡したり、他人の著作物をインターネットのホームページなどに掲載（改編して掲載する場合も含む）するなど、私的範囲を超えて配布・配信する場合は、事前に著作権者（放送事業者や実演家などの隣接権者を含む）の許諾を得る必要があります。著作権者に無断でこれらの行為を行うと著作権法に違反します。

また、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

ご注意

1. 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
2. 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容は万全を期して作成いたしました。が、万一誤り・お気づきの点がございましたら、ご連絡ください。よろしくお願いいたします。
4. 運用した結果の影響につきましては、3 項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

- Microsoft、Windows、Windows Live、Internet Explorer、Hotmail、Silverlight、MSN、Outlook は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Intel、インテル、Intel ロゴ、Celeron、Intel Core は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。
- PS/2 は International Business Machines の登録商標です。
- McAfee およびマカフィーは、米国法人 McAfee, Inc. またはその関連会社の米国またはその他の国における商標または登録商標です。
- Adobe、Adobe ロゴ、Reader は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

そのほかの社名、製品名は、一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。

